Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識と実態等を把握し、「第２次熊谷市男女共同参画推進計画（２０１９年度～２０２８年度）」の中間年における見直しに向けての基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策の推進に反映させていくことを目的とする。

２　調査の方法

（１） 調査対象
熊谷市在住の１８歳以上の男女　３，０００人（男女各１，５００人）

（２）対象者の抽出方法
住民基本台帳から等間隔無作為抽出

（３）調査方法
郵送配布・郵送回収による郵送調査法（礼状兼督促状１回送付）

（４）調査期間
令和４年８月１日～令和４年８月３１日

３　回収結果

	標本数	有効回収数	有効回収率
男　性	１，５００	５２０	３４．７％
女　性	１，５００	７４４	４９．６％
その他	―	１	―
性別無回答	―	２	―
合　計	３，０００	１，２６７	４２．２％

４　調査項目

（１）　回答者の属性
（２）　男女平等について
（３）　家庭生活について
（４）　子育て・介護について
（５）　学校教育について
（６）　就労について
（７）　人権について
（８）　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について
（９）　社会参画について
（１０）　男女共同参画の推進について
（１１）　自由記述

５　調査報告書の見方

（１）　調査結果の数値は、原則としてその設問の回答者数を基数（ｎ）として算出した回答率(%)で表記している。複数回答の場合も、パーセンテージの母数は回答者の数としている。

（２）　集計は、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位まで表示している。このため、回答率の合計が１００．０％にならない場合がある。
　また、複数回答ができる設問では、母数に対する回答率のため、回答率の合計は、１００．０％を超える場合がある。

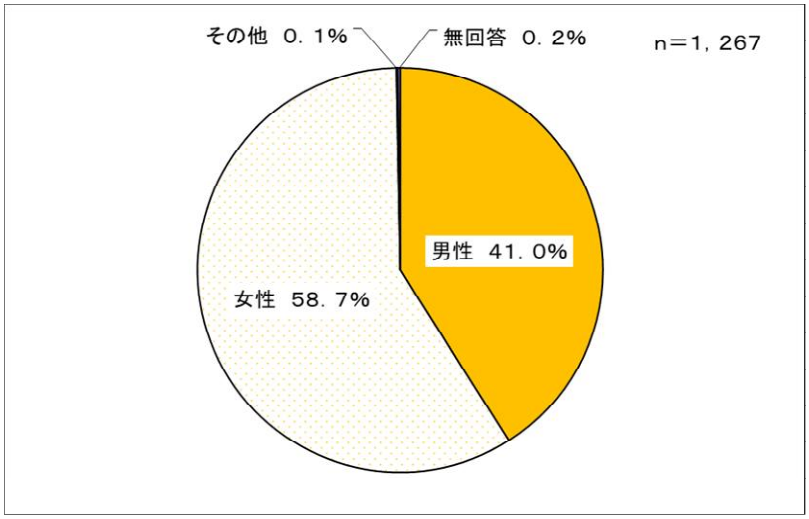
（３）　「時系列比較」は、熊谷市において過去に実施した調査結果を引用している。引用した調査の名称は以下のとおりである。
・平成１１年度：「男女共同参画に関する市民意識調査」
・平成１５年度：「男女共同参画に関する市民意識調査」
・平成１９年度：「男女共同参画に関する市民意識調査」
・平成２４年度：「男女共同参画に関する市民意識調査」
・平成２９年度：「男女共同参画に関する市民意識調査」

（４）　回答者数が３０未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析に適さないため、参考として示した。

Ⅱ　市民意識調査の結果

１　回答者の属性

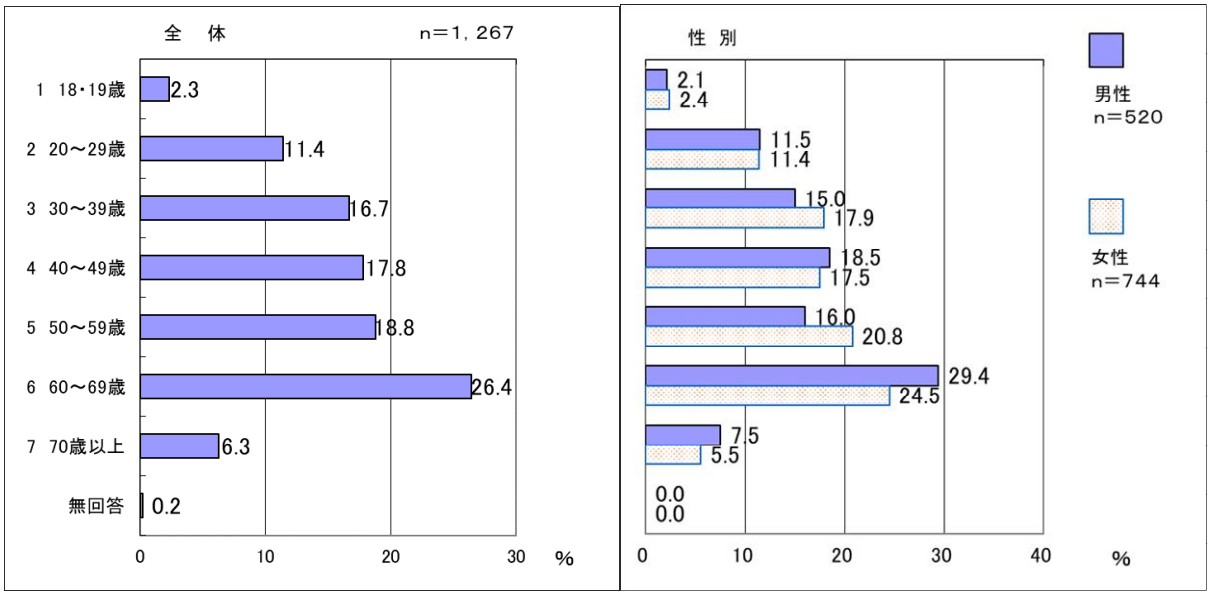
（１） 性別



図表１－１　性別

有効回答１，２６７件のうち、男性が５２０人（４１．０％）、女性が７４４人（５８．７％)、その他が１人（０．１％）などとなっている。

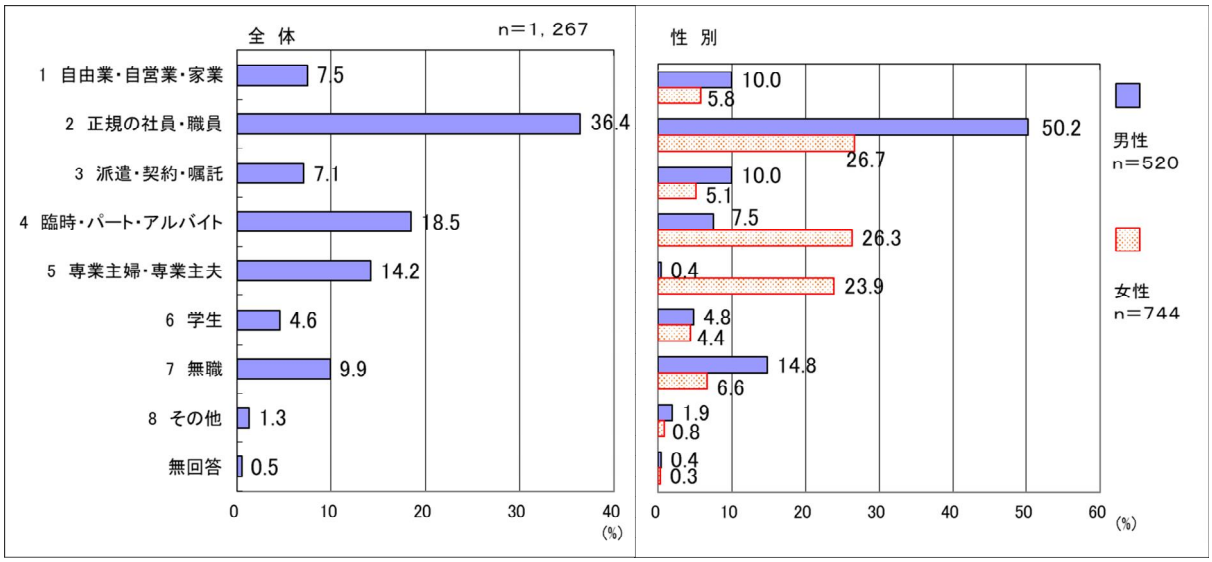
（２） 年齢



図表１－２　年齢

回答者の年齢は、６０歳代が３割弱と最も多く、１８・１９歳は１割未満、２０歳代は１割強、３０歳代から５０歳代は２割弱、７０歳以上は１割弱となっている。

（３） 職業

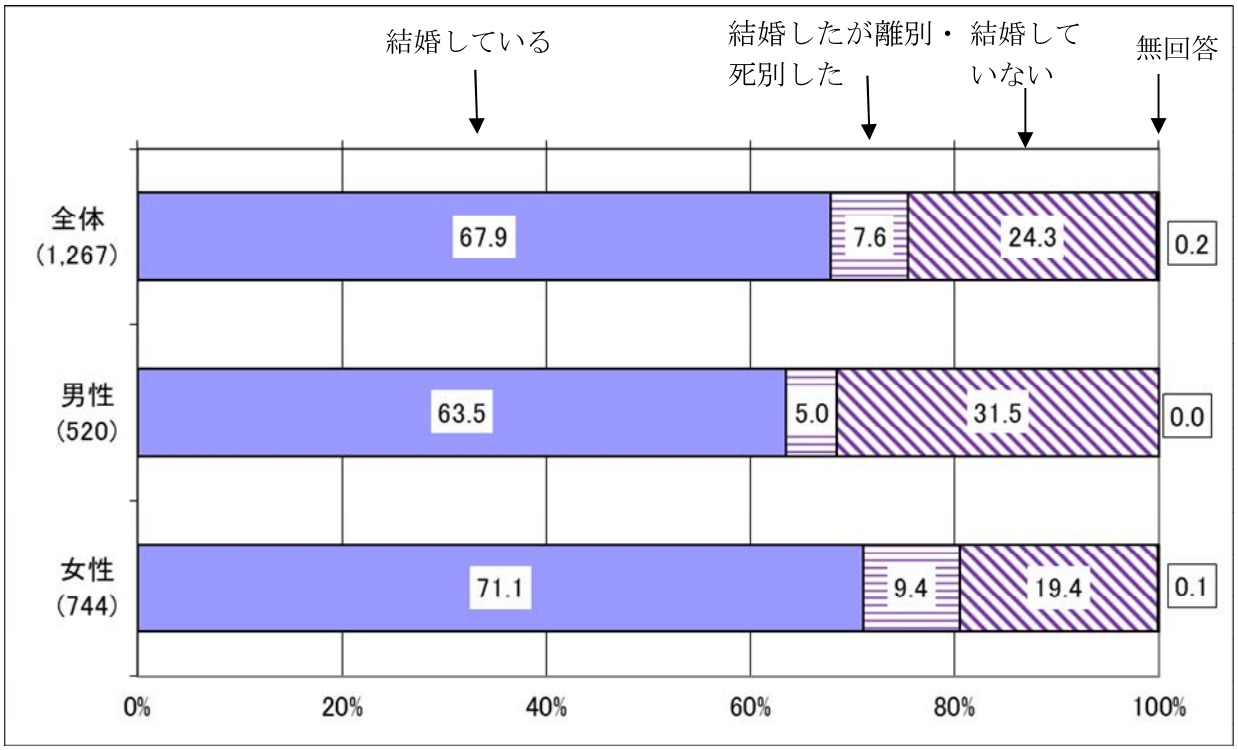


図表１－３　職業

回答者の職業をみると、全体では「正規の社員・職員」が最も多くなっている。

性別でみると、男性では「正規の社員・職員」が最も多く５０．２%だが、女性では「正規の社員・職員」「臨時・パート・アルバイト」「専業主婦」がほぼ同率で２５%程度となっている。

（４） 婚姻状況

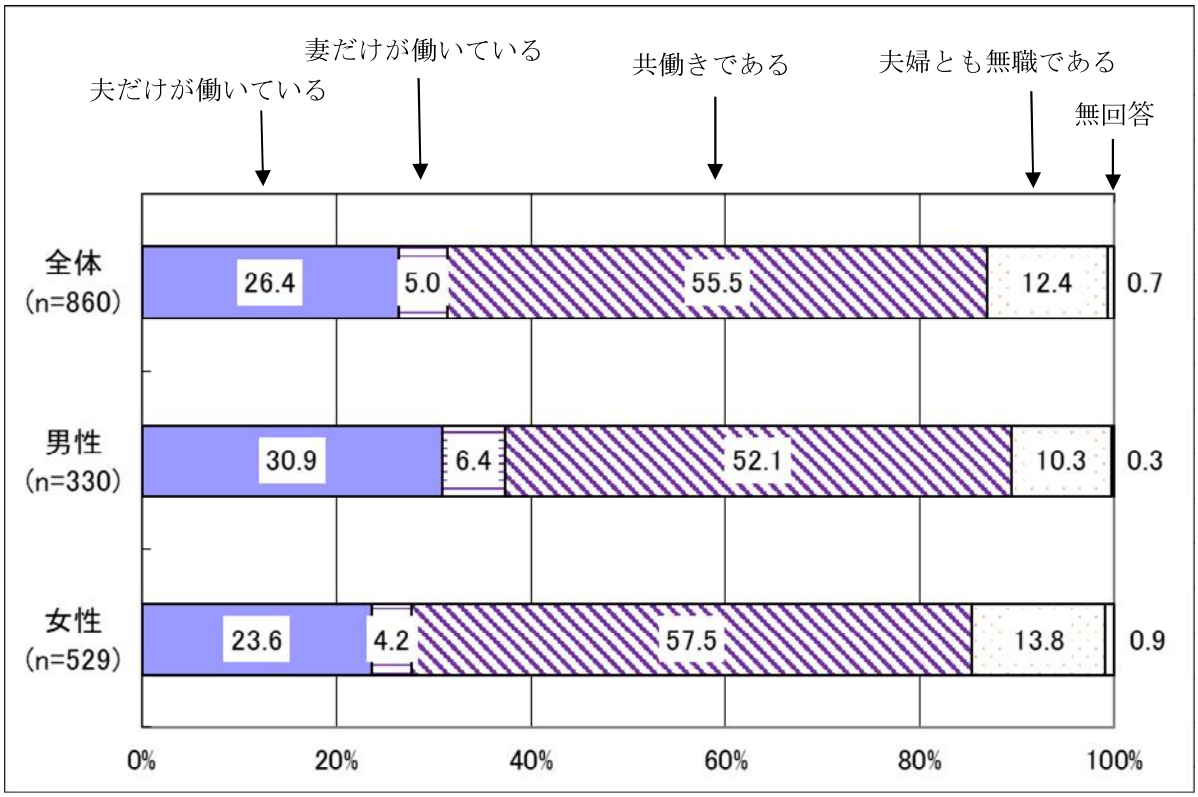


図表１－４　婚姻状況

回答者の婚姻の状況をみてみると、全体では６７．９%が結婚している。

結婚の経験がある人は、全体では７５．５%（男性６８．５%、女性８０．５%）である。

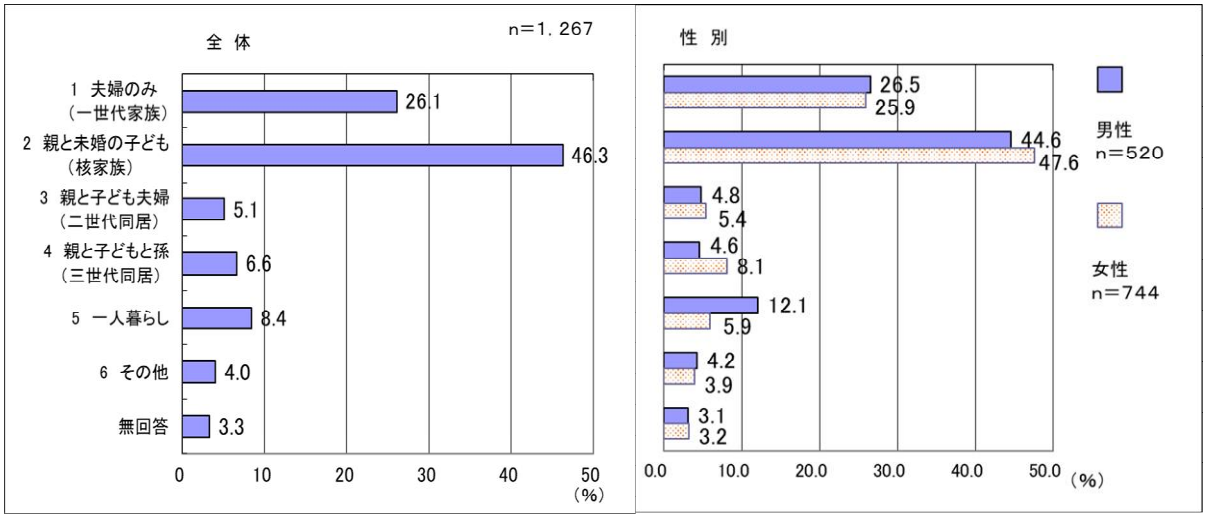
（５） 夫婦の働き方



図表１－５　夫婦の働き方

回答者世帯の働き方は、５割半ばが共働きで、夫だけが働いている世帯が３割弱となっている。

（６） 家族構成



図表１－６　家族構成

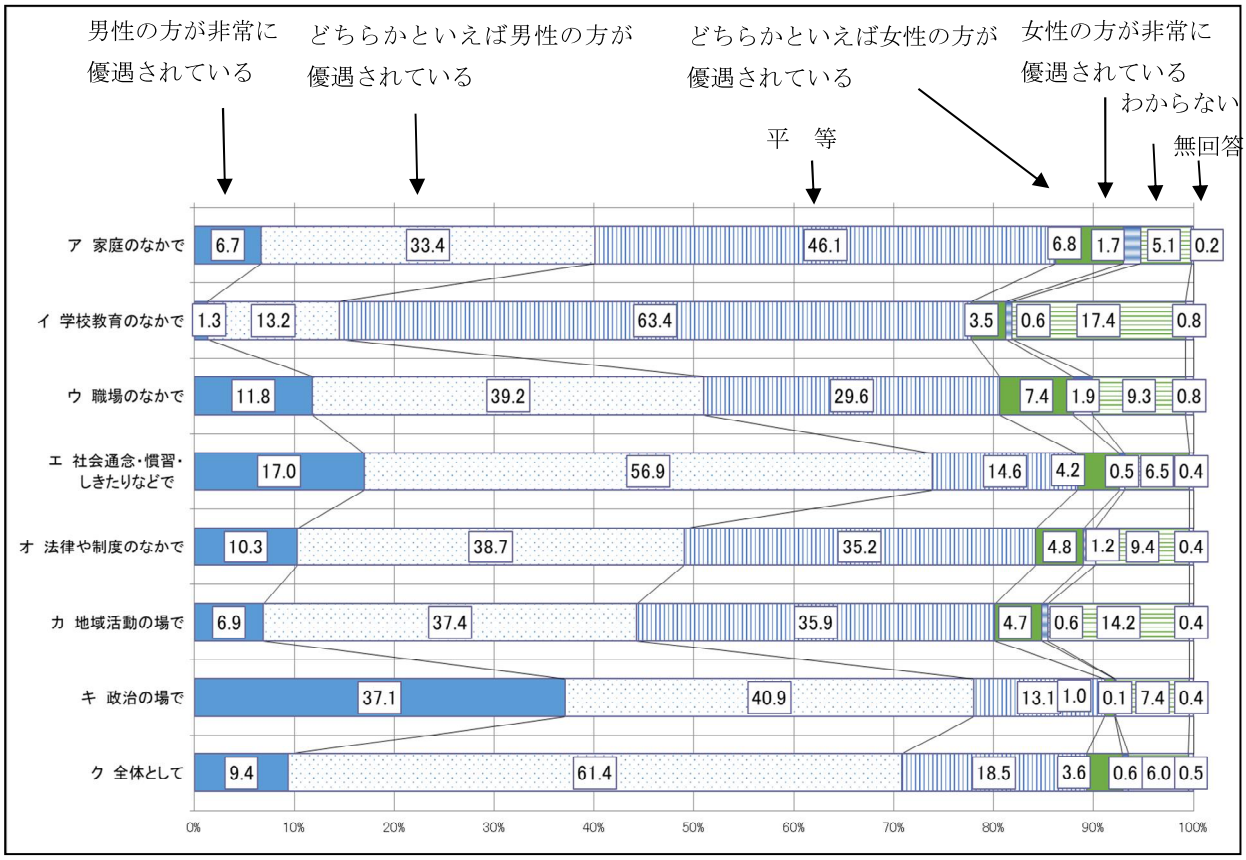
回答者の家族構成は、「親と未婚の子ども」世帯が５割弱と最も多く、次に多いのは、「夫婦のみ」世帯で３割弱である。

１０年前と比較すると、「三世代同居」が減少し、「夫婦のみ」及び「一人暮らし」が増加している。

２　男女平等について

問１　現在、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
（ア～クについて、それぞれ１つずつ選択）

図表２－１－１　男女の地位の平等感（全体）　　ｎ＝１，２６７

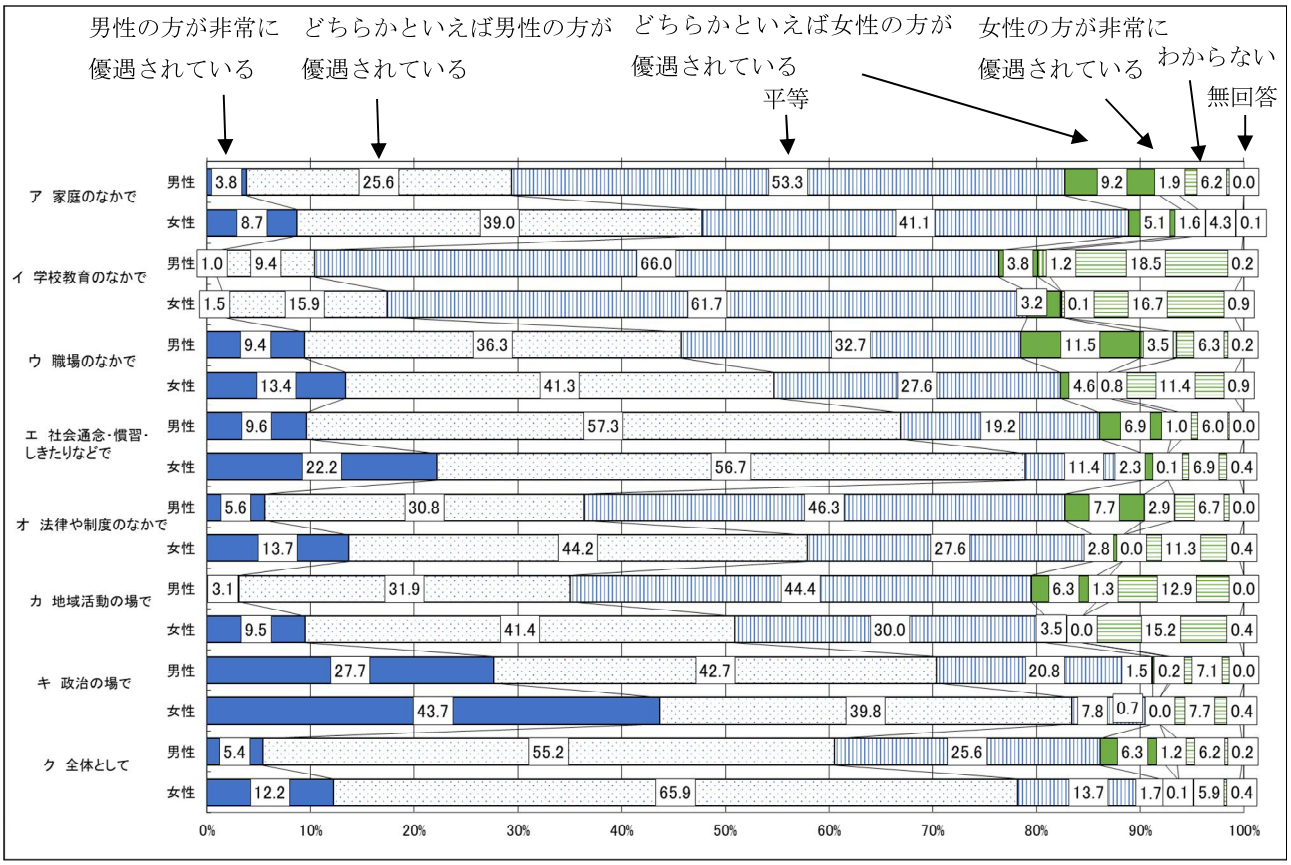


ア～クの８項目について男女の地位の平等感を聞いたところ、４項目で『男性の方が優遇されている』が過半数を占めた。特に「社会通念・慣習・しきたり」（７３．９％）、「政治の場で」（７８．０％）、「全体として」（７０．８％）などは『男性の方が優遇されている』が７割を超えている。

一方、「学校教育のなかで」では、『平等』（６３．４％）が６割を超えている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

図表２－１－２　男女の地位の平等感（性別）　　男性　ｎ＝５２０　女性　ｎ＝７４４



性別で男女の地位の平等感についてみると、すべての項目において『男性の方が優遇されている』の割合が、男性より女性の方が高くなっている。逆に『平等』の割合は、すべての項目で男性が女性を上回っている。

「家庭のなかで」では、『男性の方が優遇されている』は、女性（４７．７％）が男性（２９．４％）を１８．３ポイント上回っている。男性は５３．３％が『平等』としているのに対し、女性は４１．１％である。

「学校教育のなかで」では、男女とも『平等』の割合が高く、６割を超えている。

「職場のなかで」では、『男性の方が優遇されている』と回答した男性が４割半ば（４５．７％）なのに対し、女性では５割半ば（５４．７％）となっている。

「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、『男性の方が優遇されている』の割合が高く、男性は６６．９％、女性は７８．９％とどちらも高い割合を占めている。

「法律や制度のなかで」では、男性の５割弱（４６．３％）が『平等』と回答しているが、一方、女性の６割弱（５７．９％）は『男性の方が優遇されている』と回答している。

「地域活動の場で」では、男性の４割半ば（４４．４％）が『平等』と回答しているが、一方、女性は『男性の方が優遇されている』が５割（５０．９％）を超えている。

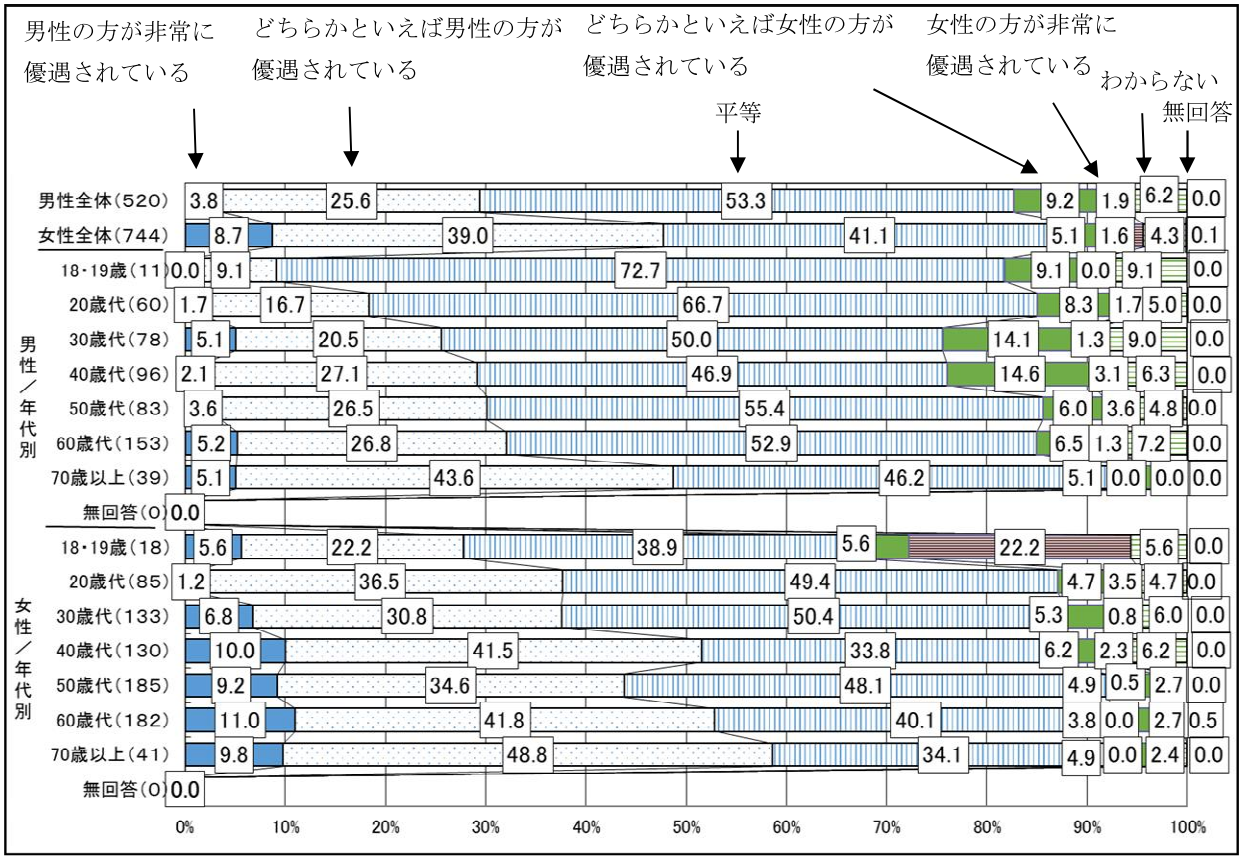
「政治の場で」では、『男性の方が優遇されている』の割合が高く、男性は７０．４％、女性は８３．５％とどちらも高い割合を占めている。

「全体として」では、男女ともに『男性の方が優遇されている』が６割を超え、女性（７８．１％）が男性（６０．６％）を１７．５ポイント上回っている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「ア　家庭のなかで」

図表２－１－３　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

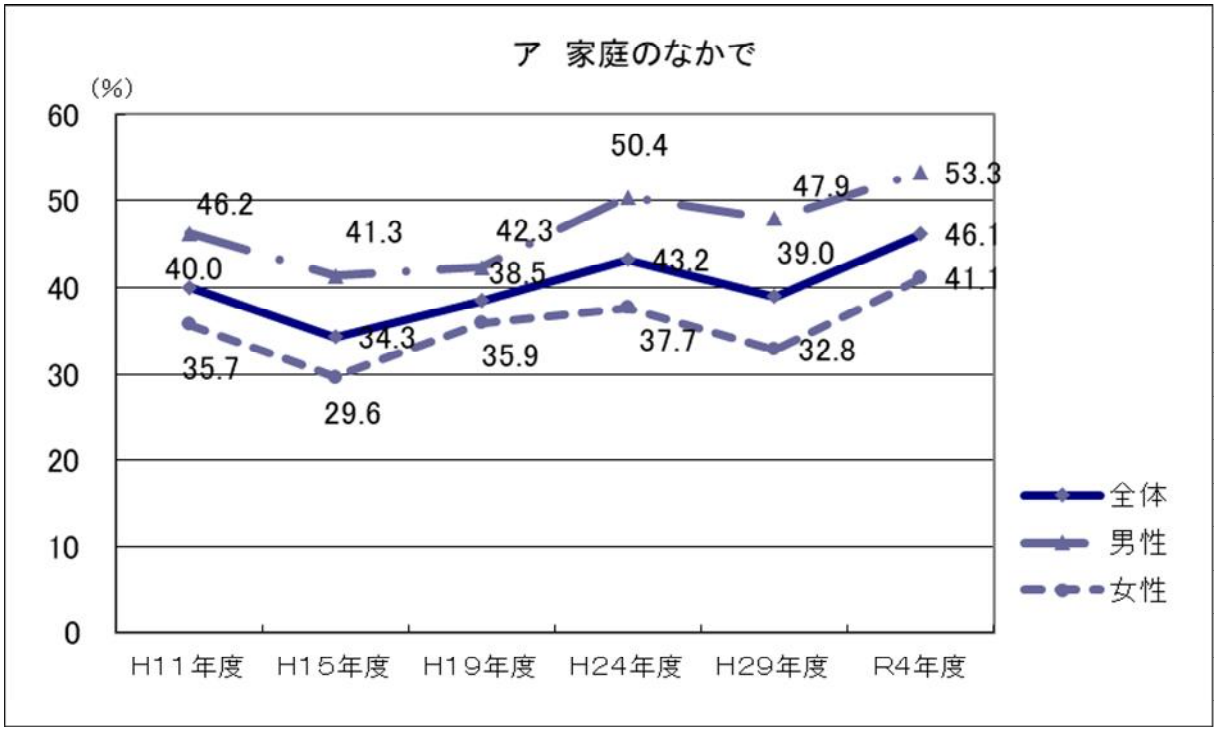
「家庭のなかで」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、すべての年代で男性より女性の方が『男性の方が優遇されている』と回答した割合が高い。

男女ともに年代が上がるにつれ、『男性の方が優遇されている』が増加する傾向があり、特に７０歳以上では男性４８．７％、女性５８．６％となっている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「ア　家庭のなかで」

図表２－１－４　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

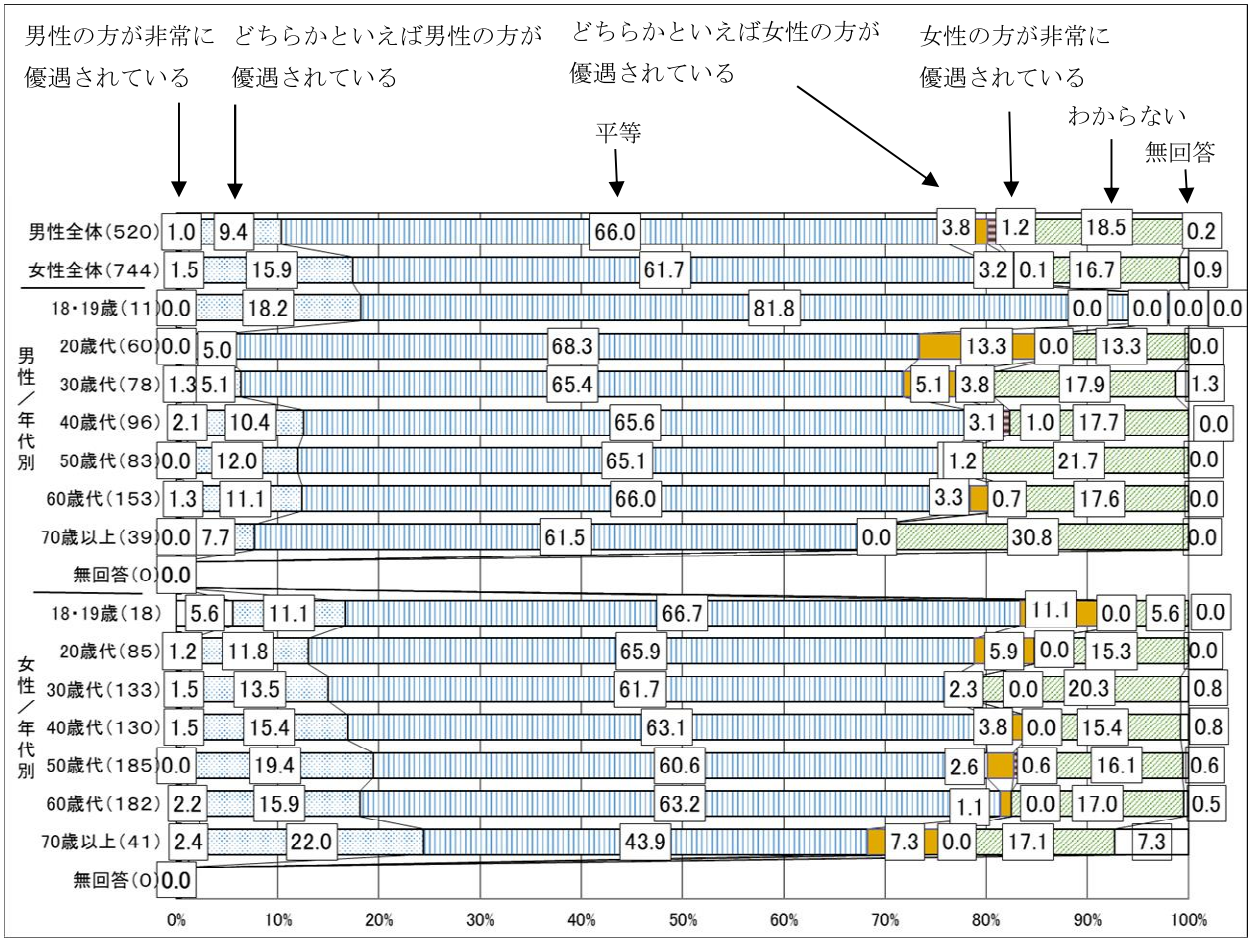


「家庭のなかで」の男女の地位の平等感は、男性が５３．３％、女性が４１．１％、全体が４６．１％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で７．１ポイント増加している。

「イ　学校教育のなかで」

図表２－１－５　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

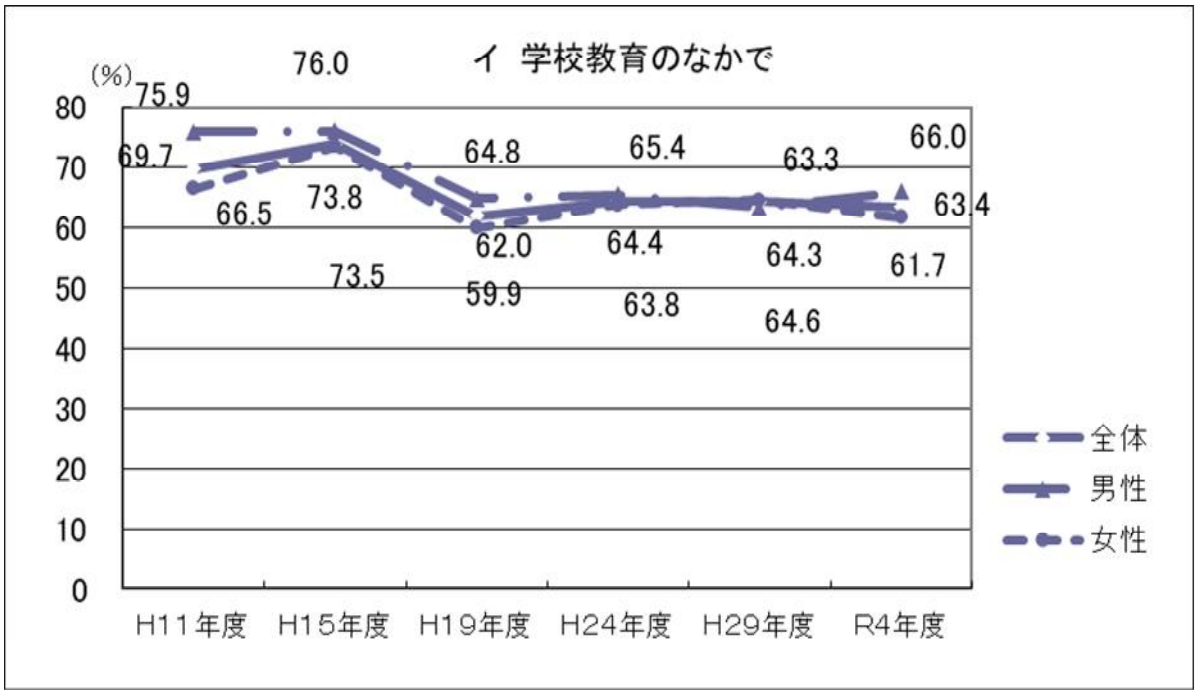
「学校教育のなかで」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、男女ともに全体の６割以上が『平等』と回答している。

男性はすべての年代で『平等』が６割を超えているが、女性は、年代が上がるにつれ『男性の方が優遇されている』が増加する傾向にあり、特に女性７０歳以上は、２４．４％が『男性の方が優遇されている』と回答している。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「イ　学校教育のなかで」

図表２－１－６　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

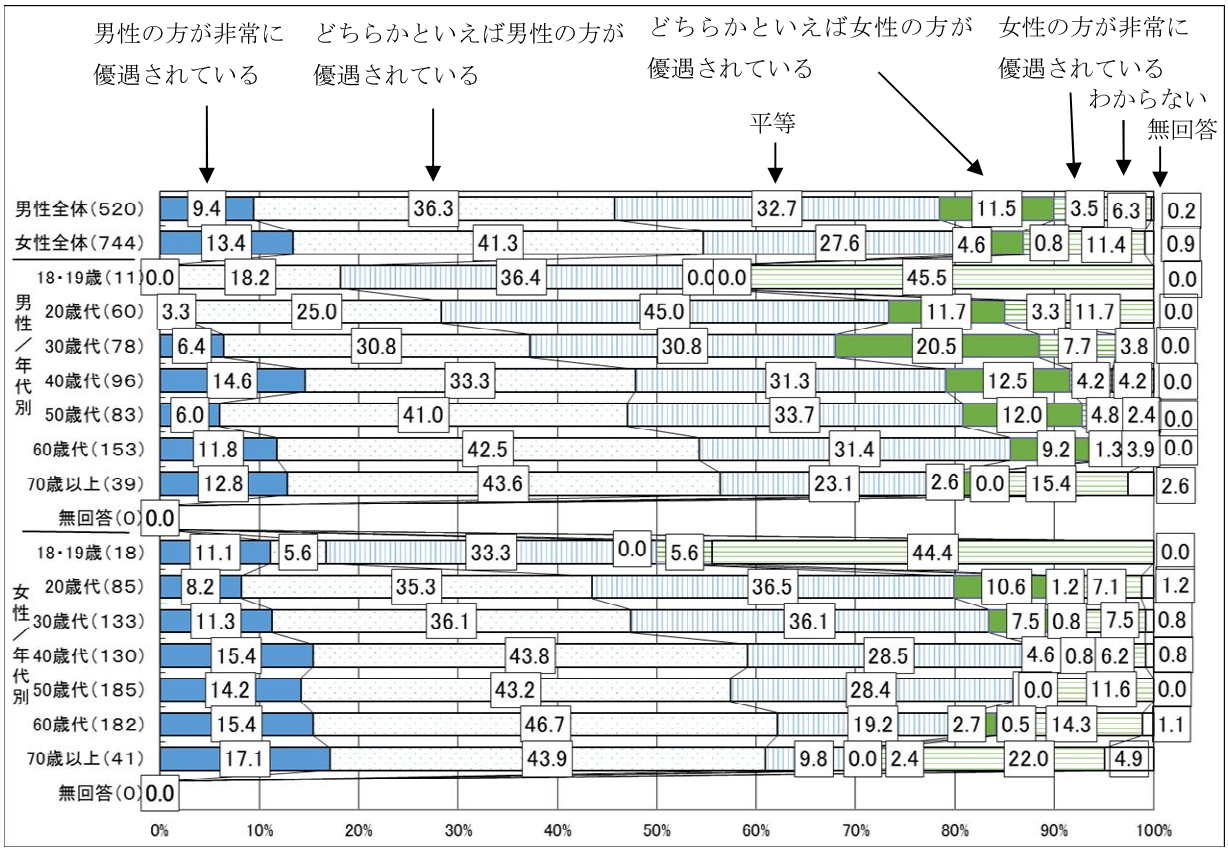


「学校教育のなかで」の男女の地位の平等感は、男性が６６．０％、女性が６１．７％、全体が６３．４％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で０．９ポイント減少している。

「ウ　職場のなかで」

図表２－１－７　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

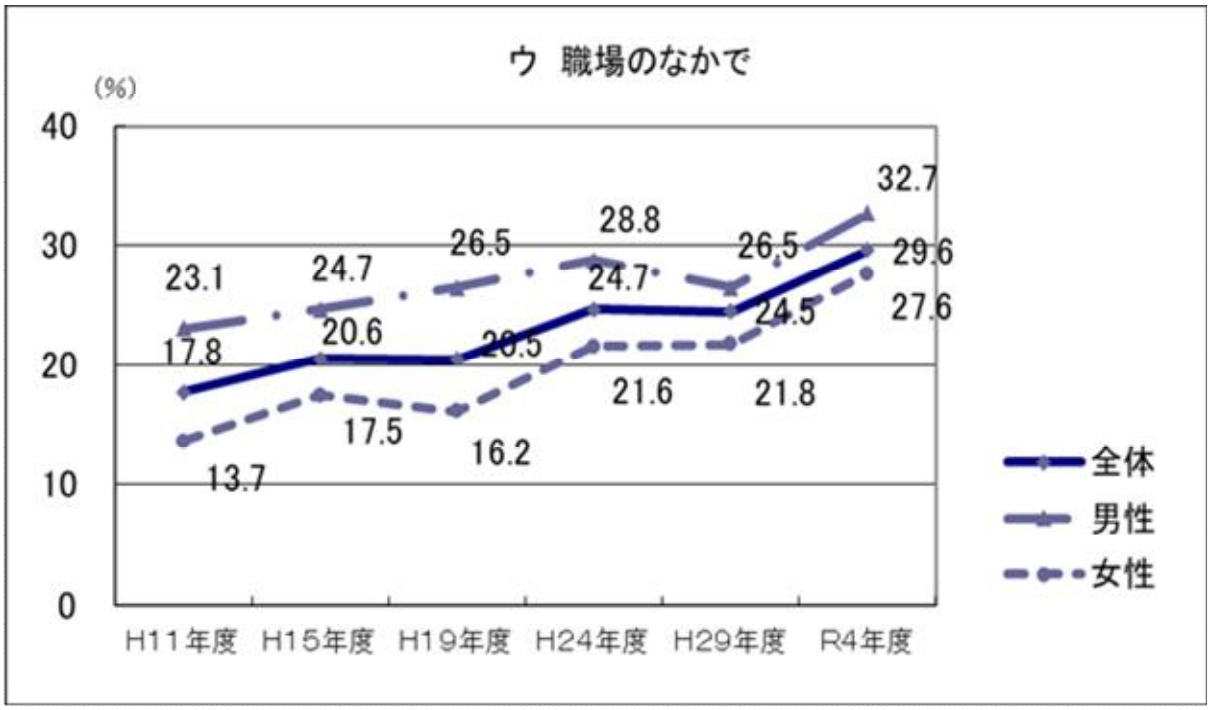
「職場のなかで」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』と回答した男性は４割半ば、女性は５割半ばとなっており、女性（５４．７％）が男性（４５．７％）を９ポイント上回っている。

２０歳代は男女とも『平等』が３割半ばを超え、特に男性２０歳代は『平等』が４５．０％となっている。３０歳代は、『男性の方が優遇されている』と回答した女性（４７．４％）が男性（３７．２％）を１０．２ポイント上回っている。４０歳代以上においては、『男性の方が優遇されている』と回答している割合が男女とも多く、男性は５割弱から６割弱、女性は６割前後となっている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「ウ　職場のなかで」

図表２－１－８　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

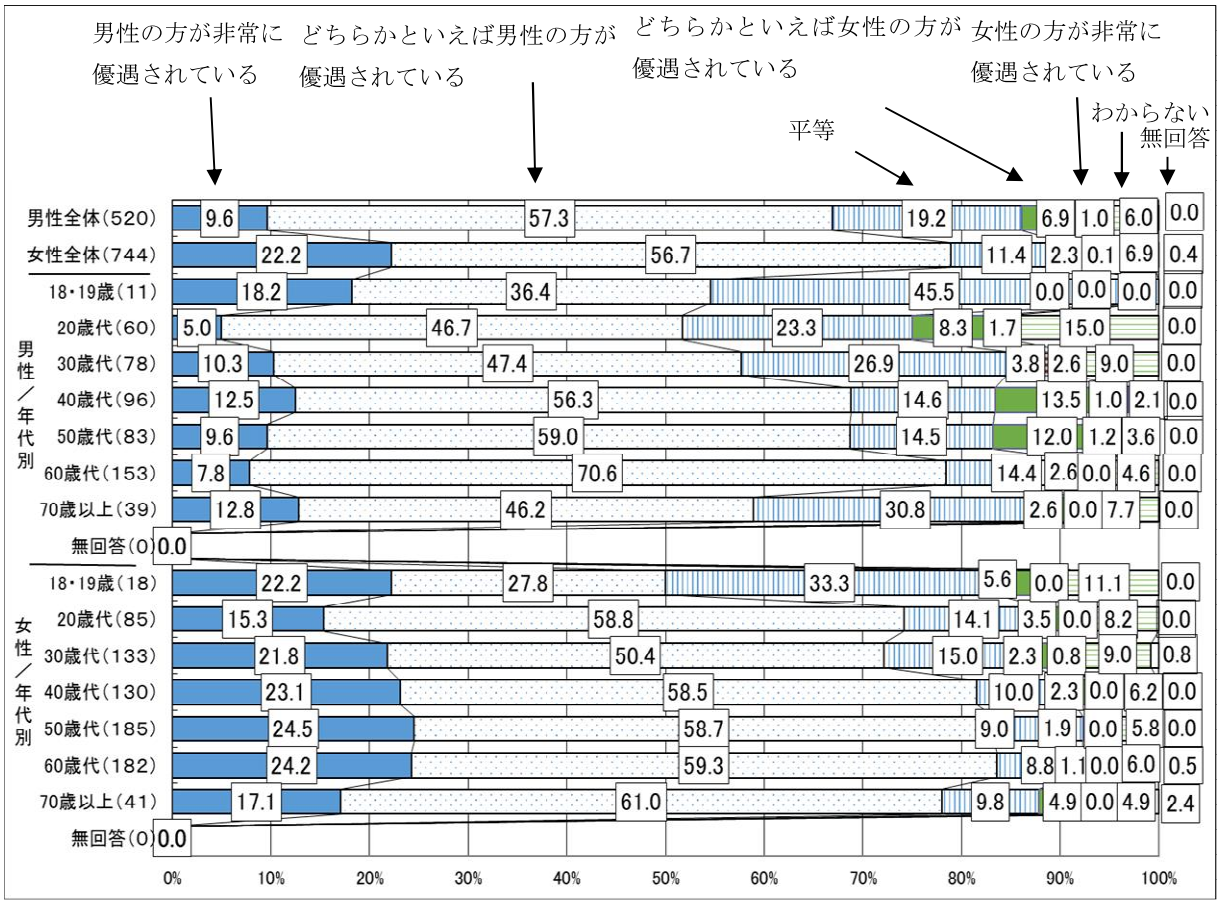


「職場のなかで」の男女の地位の平等感は、男性が３２．７％、女性が２７．６％、全体が２９．６％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で５．１ポイント増加している。

「エ　社会通念・慣習・しきたりなどで」

図表２－１－９　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

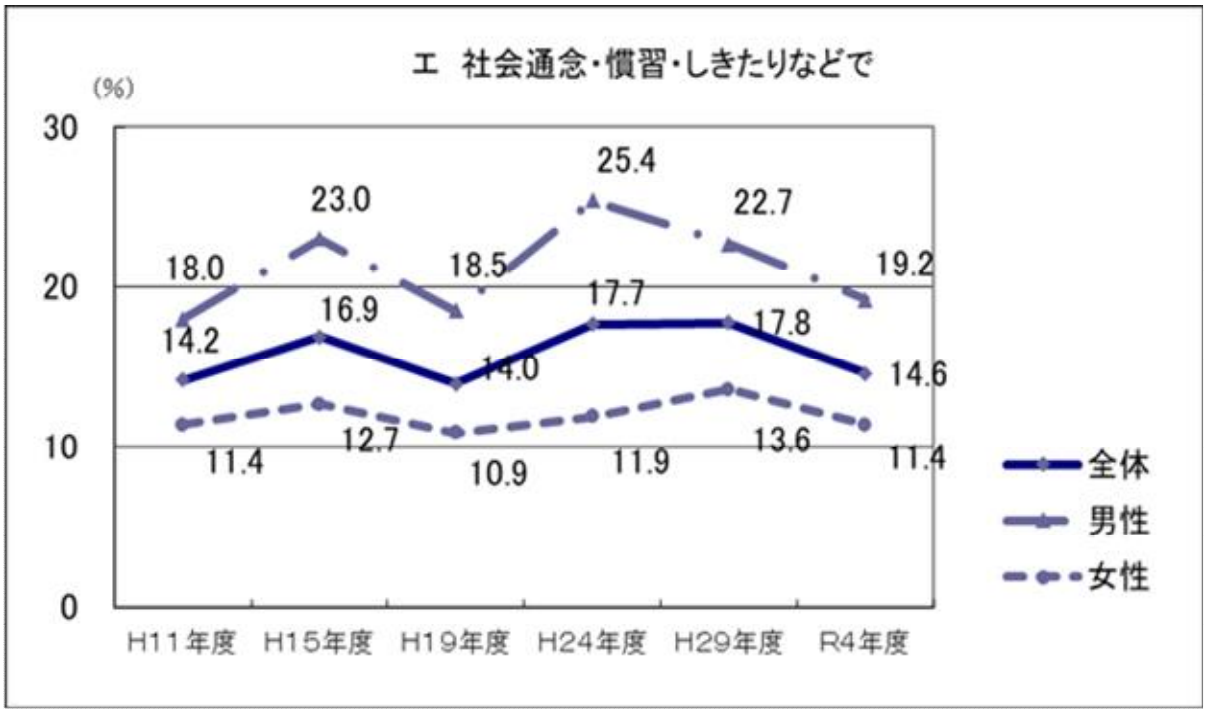
「社会通念・慣習・しきたりなどで」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』と回答している女性（７８．９％）が男性（６６．９％）を１２ポイント上回っている。

男女とも各年代で、『男性の方が優遇されている』が５割以上であり、特に女性の２０歳代以上はすべての年代で『男性の方が優遇されている』が７割を超えている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「エ　社会通念・慣習・しきたりなどで」

図表２－１－１０　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

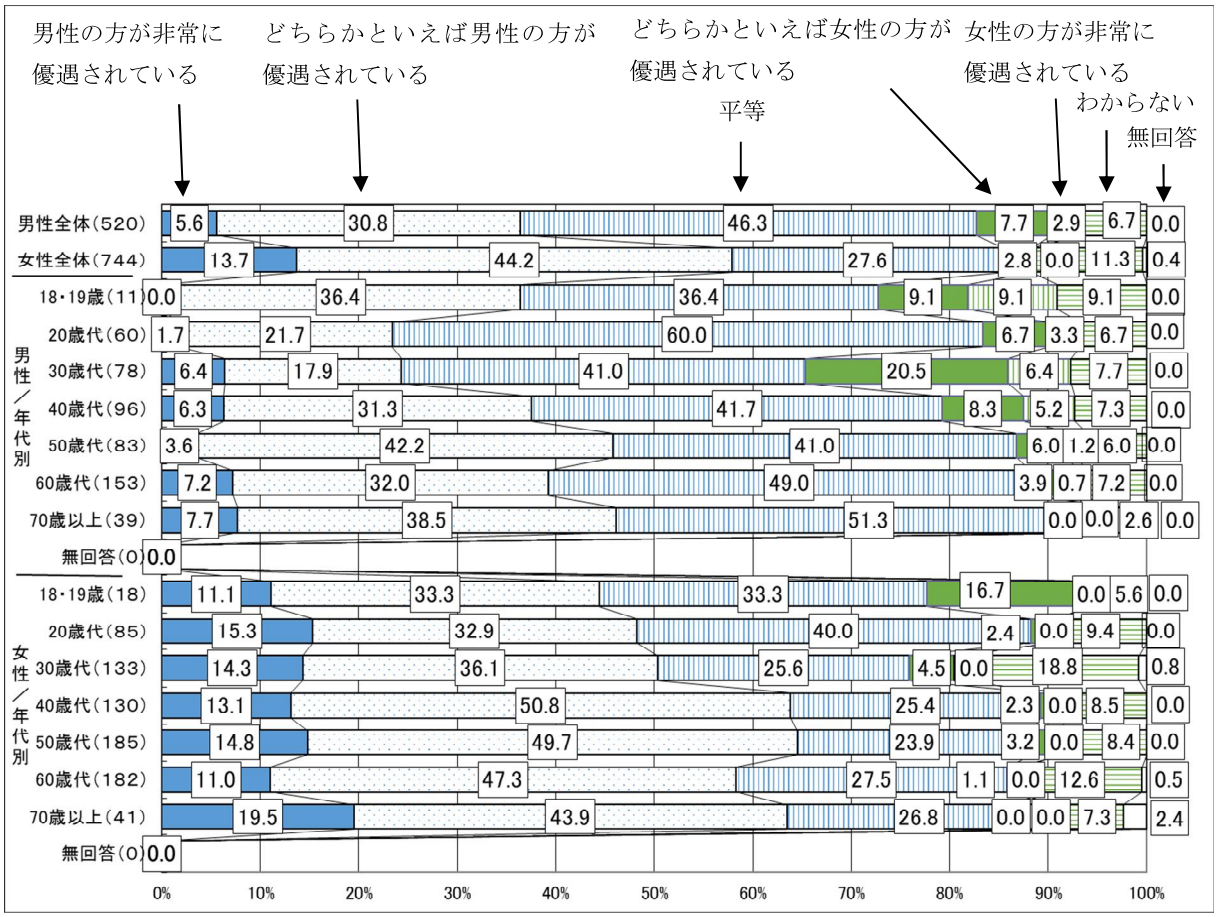


「社会通念・慣習・しきたりなどで」の男女の地位の平等感は、男性が１９．２％、女性が１１．４％、全体が１４．６％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で３．２ポイント減少している。

「オ　法律や制度のなかで」

図表２－１－１１　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「法律や制度のなかで」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』と回答した女性（５７．９％）が男性（３６．４％）を２１．５ポイント上回っている。

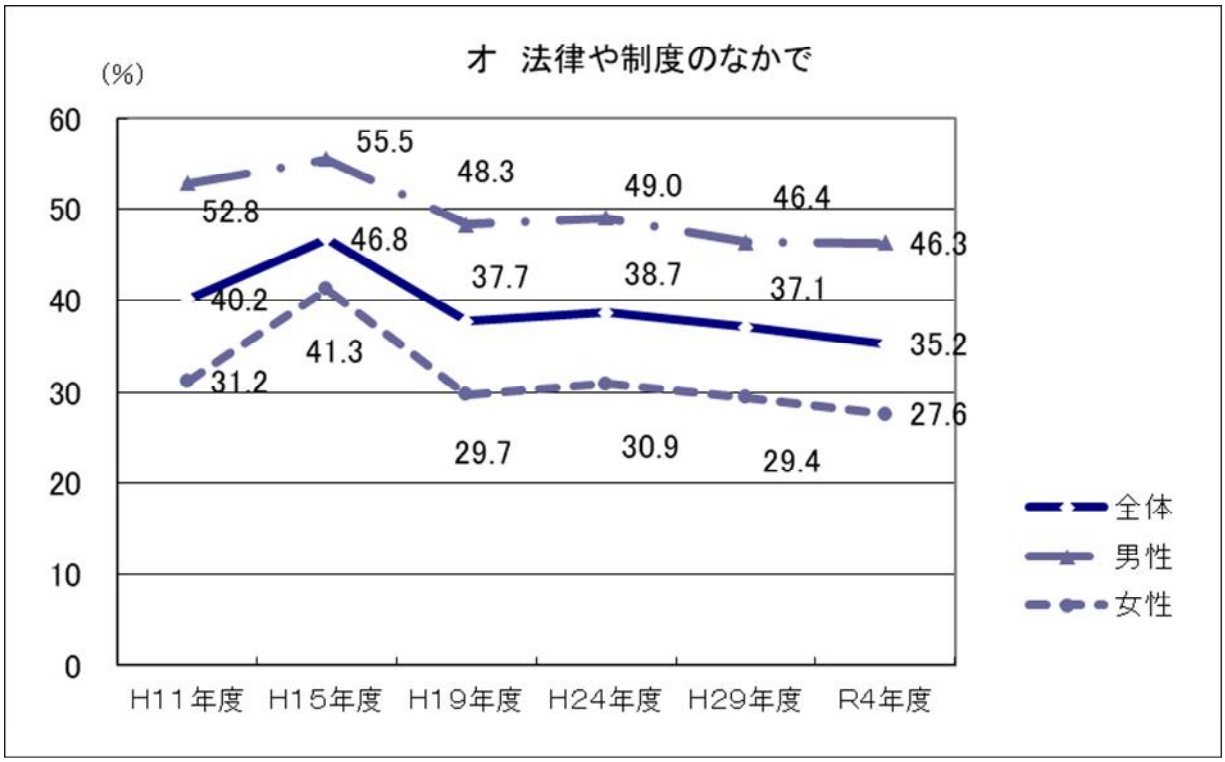
また、男性の各年代の４割強から６割が『平等』と回答しているのに対し、女性は『平等』が２割強から４割となっており、男女の考え方に大きな差があることがわかる。

特に女性の５０歳代は、『男性の方が優遇されている』と回答した割合が最も多く、６割半ばとなっており、一方、３０歳代の男性の３割弱は『女性の方が優遇されている』と回答している。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計
『女性の方が優遇されている』は、「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

「オ　法律や制度のなかで」

図表２－１－１２　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

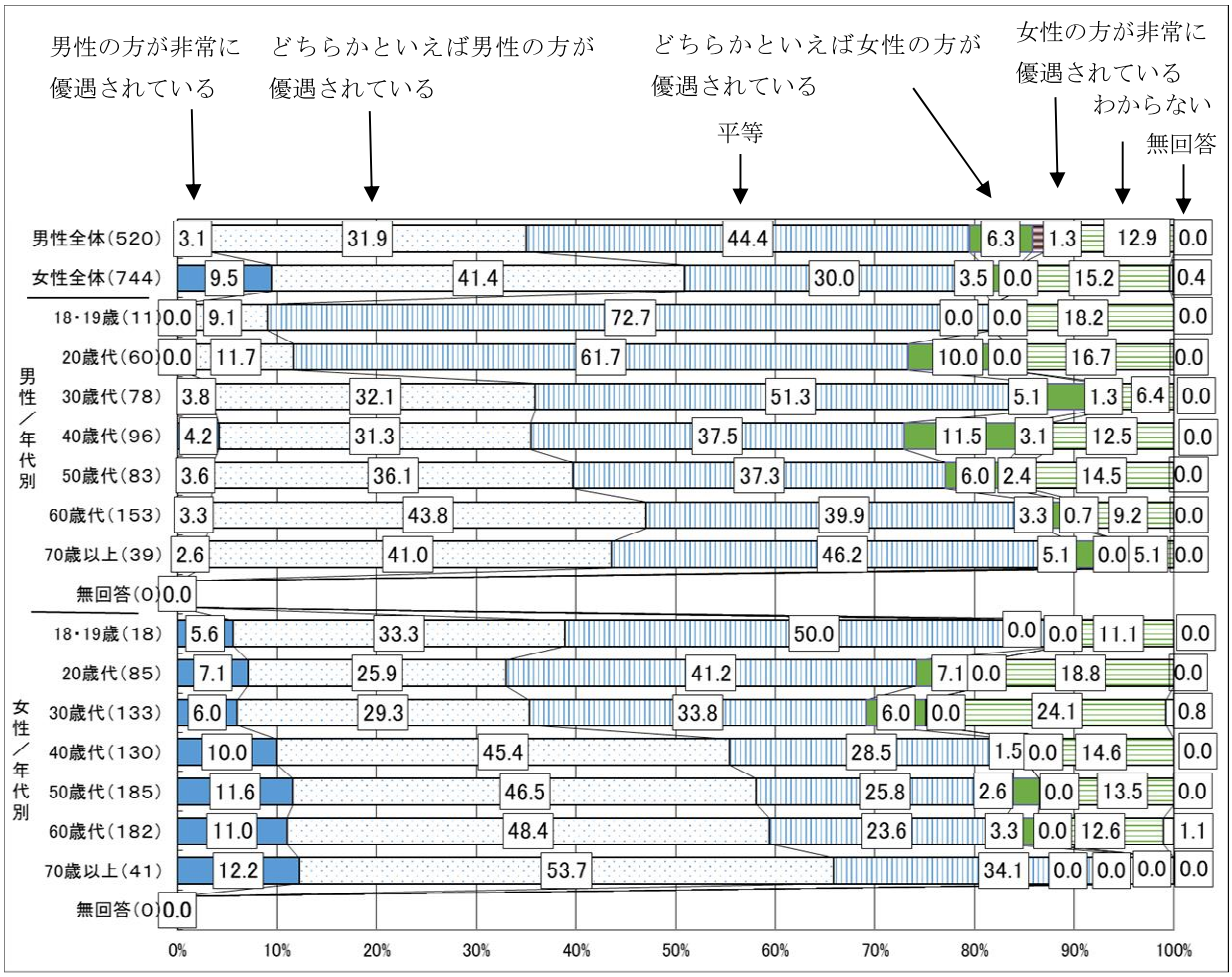


「法律や制度のなかで」の男女の地位の平等感は、男性が４６．３％、女性が２７．６％、全体が３５．２％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で１．９ポイント減少している。

「カ　地域活動の場で」

図表２－１－１３　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

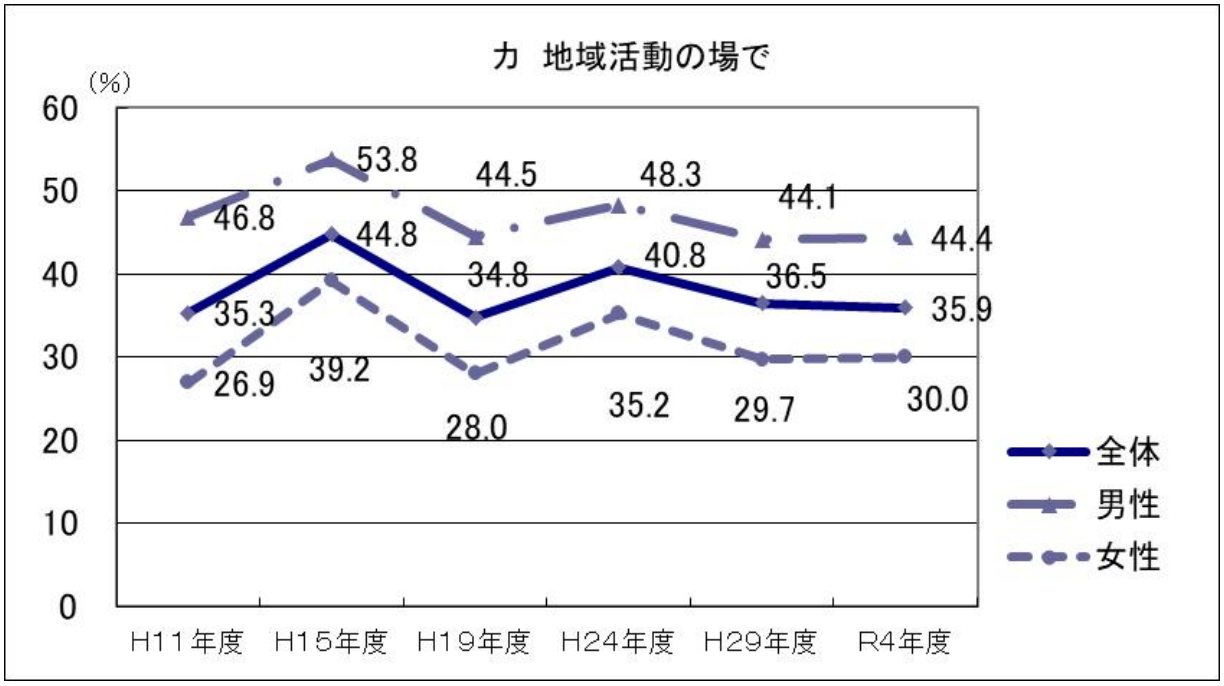
「地域活動の場で」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』と回答した女性（５０．９％）が男性（３５．０％）を１５．９ポイント上回っている。

また、男性のすべての年代で『平等』の割合が４割弱から６割強と多いのに対し、女性は『平等』がすべての年代で２割強から４割強となっており、男女の考え方の差が大きいことがわかる。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「カ　地域活動の場で」

図表２－１－１４　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

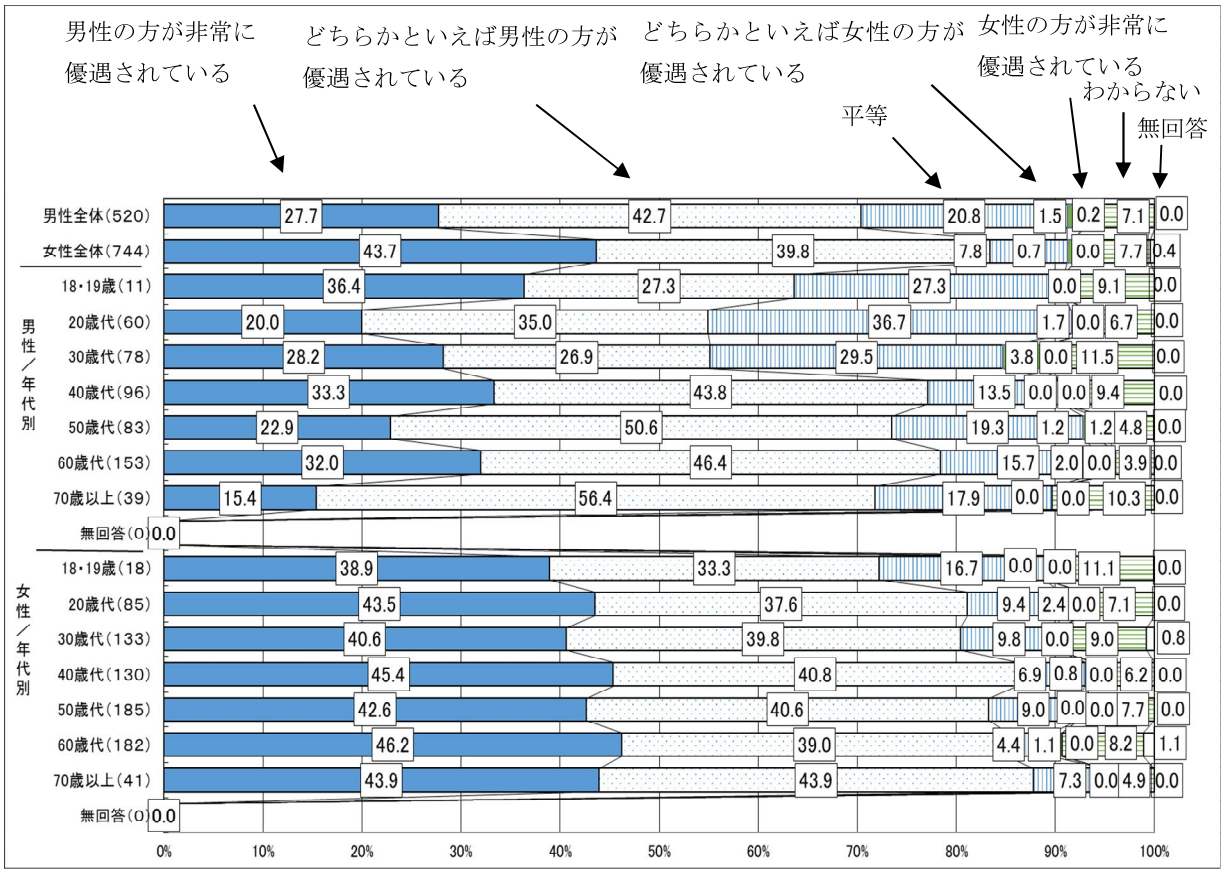


「地域活動の場で」の男女の地位の平等感は、男性が４４．４％、女性が３０．０％、全体が３５．９％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で０．６ポイント減少している。

「キ　政治の場で」

図表２－１－１５　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

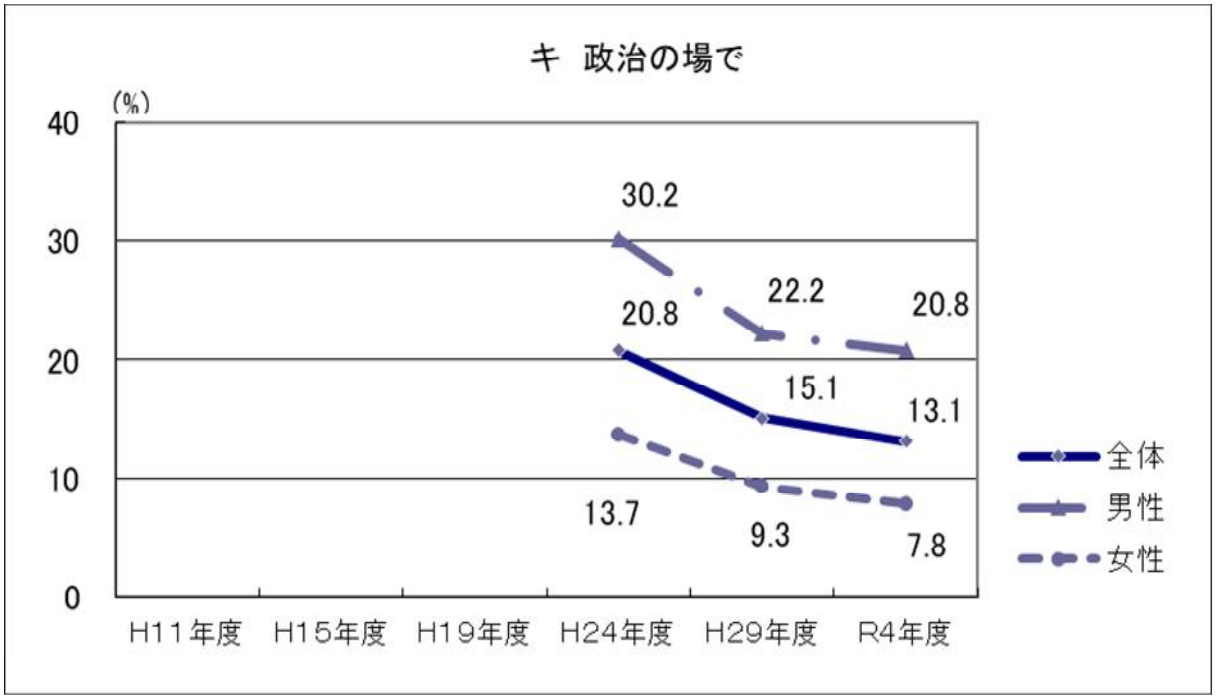
「政治の場で」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』が男性７０．４％、女性８３．５％と男女ともに７割を超えている。

また、２０～３０歳代の男性が『平等』の割合が高く、特に２０歳代では男性（３６．７％）が女性（９．４％）を２７．３ポイント上回っている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「キ　政治の場で」

図表２－１－１６　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】



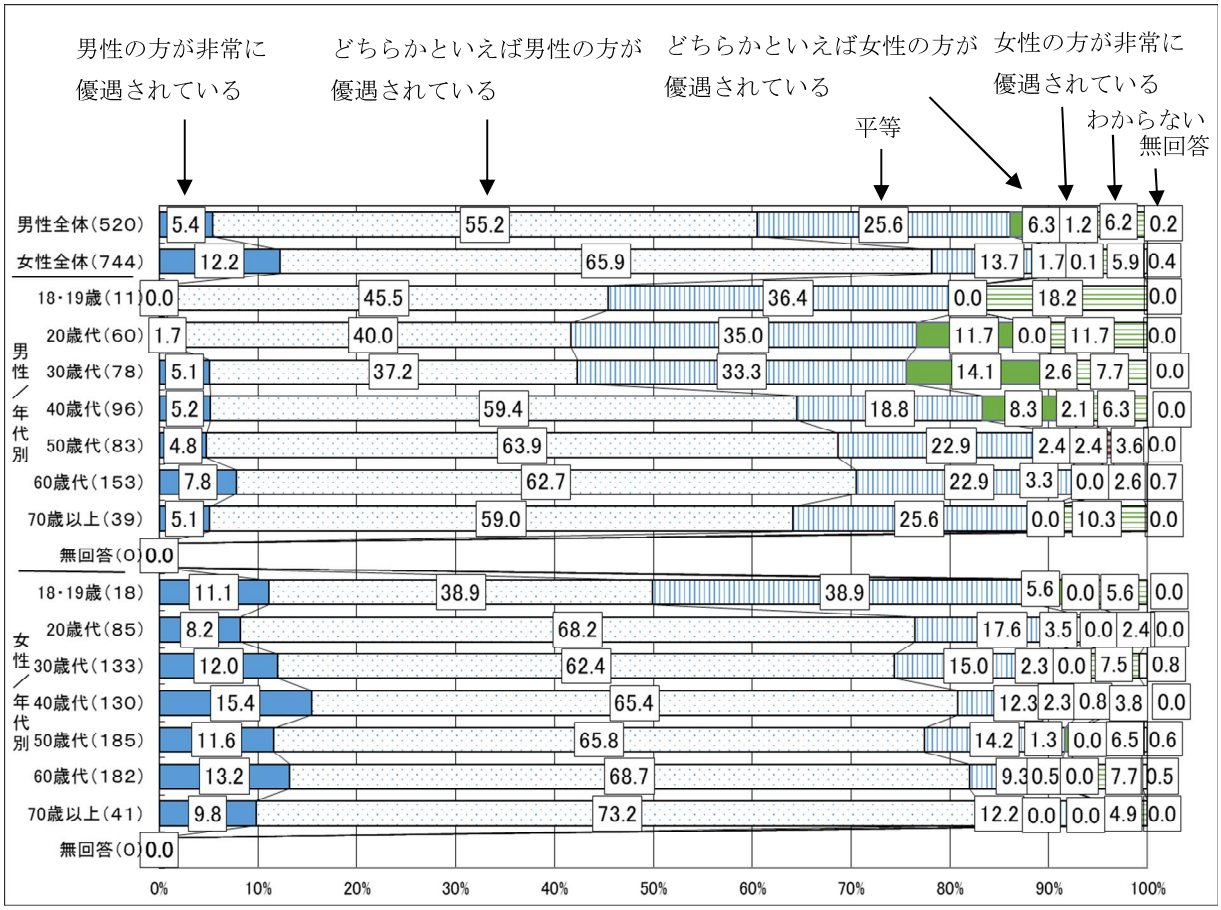
「政治の場で」の男女の地位の平等感は、男性が２０．８％、女性が７．８％、全体が１３．１％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で２ポイント減少している。

（※）「政治の場で」の地位の平等感は、平成２４年度からの調査項目

「ク　全体として」

図表２－１－１７　男女の地位の平等感（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

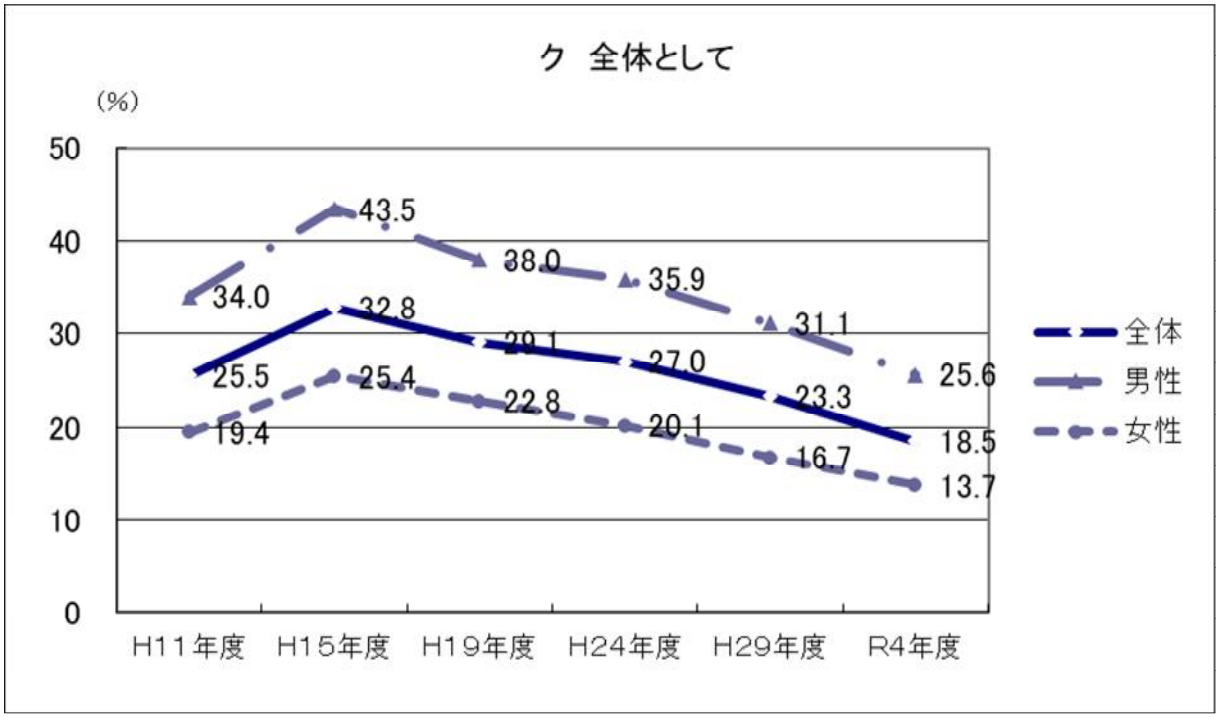
「全体として」の男女の地位の平等感について性・年代別でみると、『男性の方が優遇されている』と回答した女性（７８．１％）が男性（６０．６％）を１７．５ポイント上回っている。

すべての年代において、男性よりも女性の方が『男性の方が優遇されている』と回答した割合が高くなっている。

（※）『男性の方が優遇されている』は、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

「ク　全体として」

図表２－１－１８　男女の地位の平等感（時系列比較）【『平等』について比較】

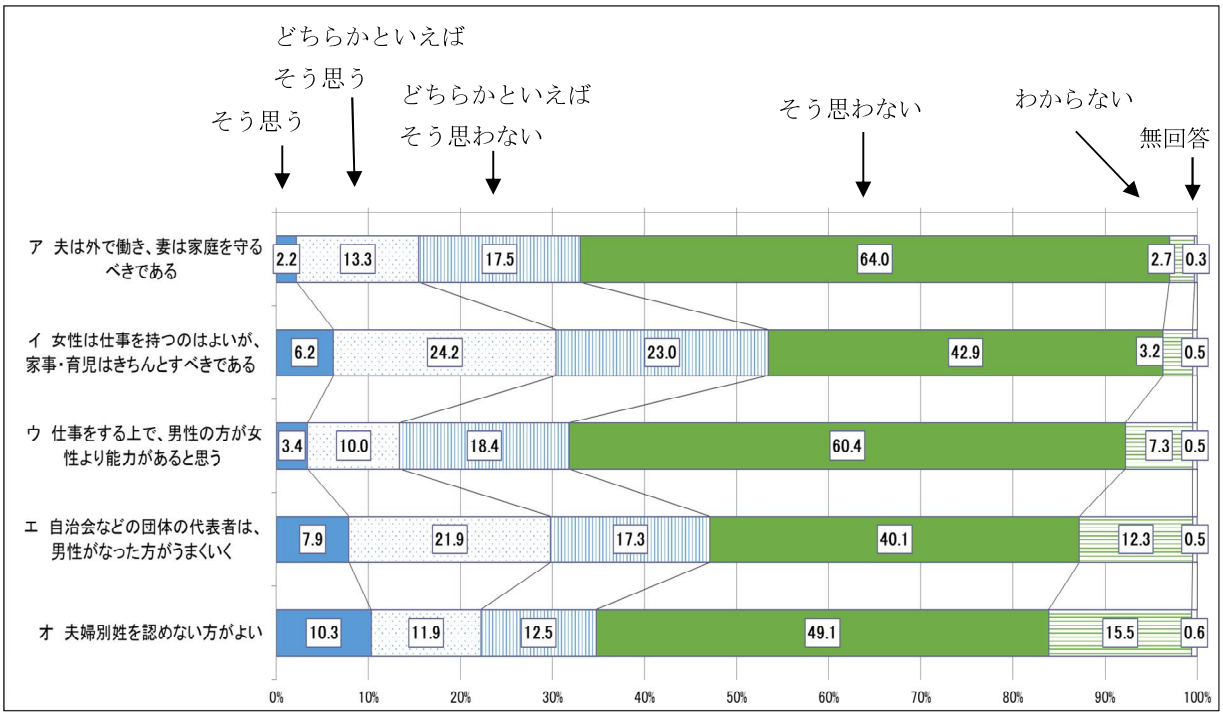


「全体として」の男女の地位の平等感は、男性が２５．６％、女性が１３．７％、全体が１８．５％となっている。

平成２９年度の調査結果と比較すると、平等感は全体で４．８ポイント減少している。

問２　次のような考え方について、どう思いますか。
（ア～オについて、それぞれ１つずつ選択）

図表２－２－１　男女の役割分担意識（全体）　　ｎ＝１，２６７



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、全体では否定的な意見が８割を超えている。

「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとするべきである」では、『肯定』が３０．４％、『否定』が６５．９％になっている。

「仕事をする上で男性の方が女性より能力があると思う」では、『肯定』が１３．４％、『否定』が７８．８％となっている。

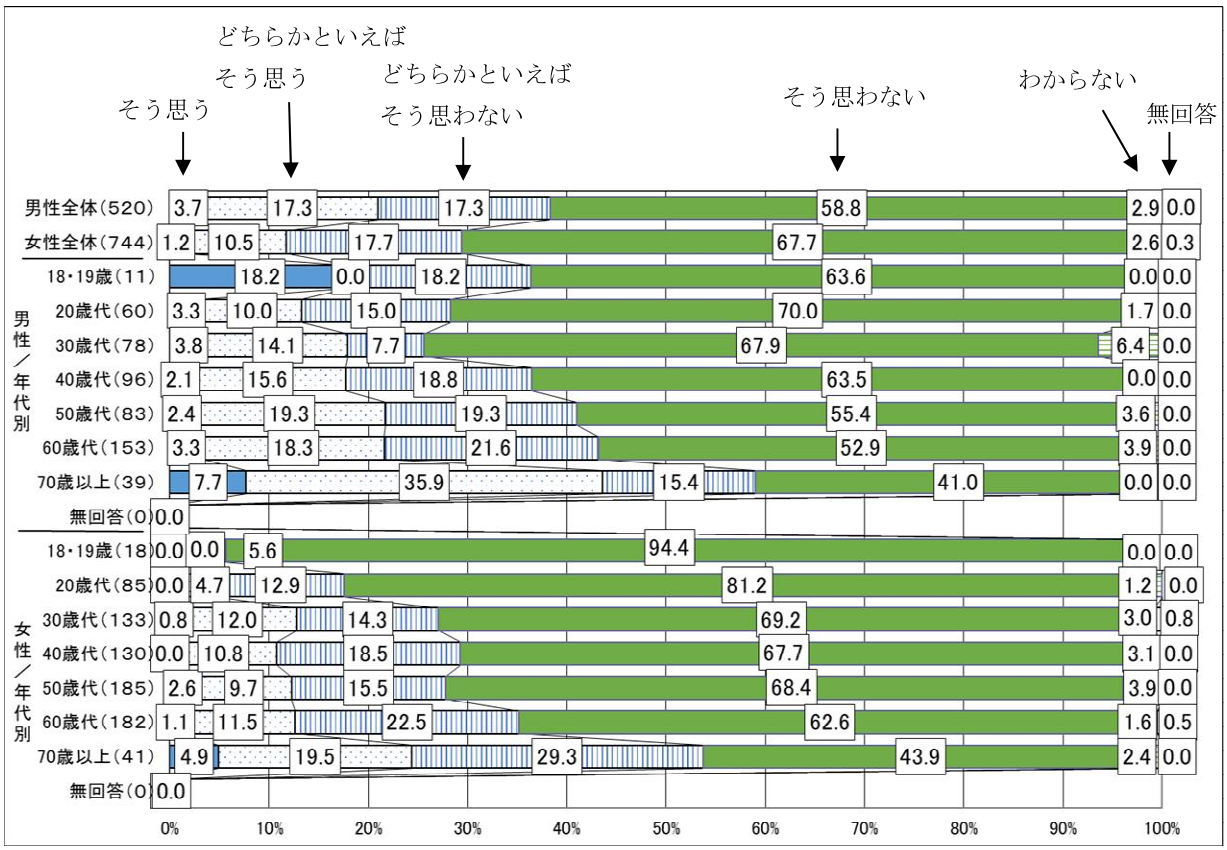
「自治会などの団体の代表者は、男性がなった方がうまくいく」では、『肯定』が２９．８％、『否定』が５７．４％となっている。

「夫婦別姓を認めない方がよい」では、『肯定』が２２．２％に対し、『否定』が６１．６％となっている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

「ア　夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」

図表２－２－２　男女の役割分担意識（性・年代別）



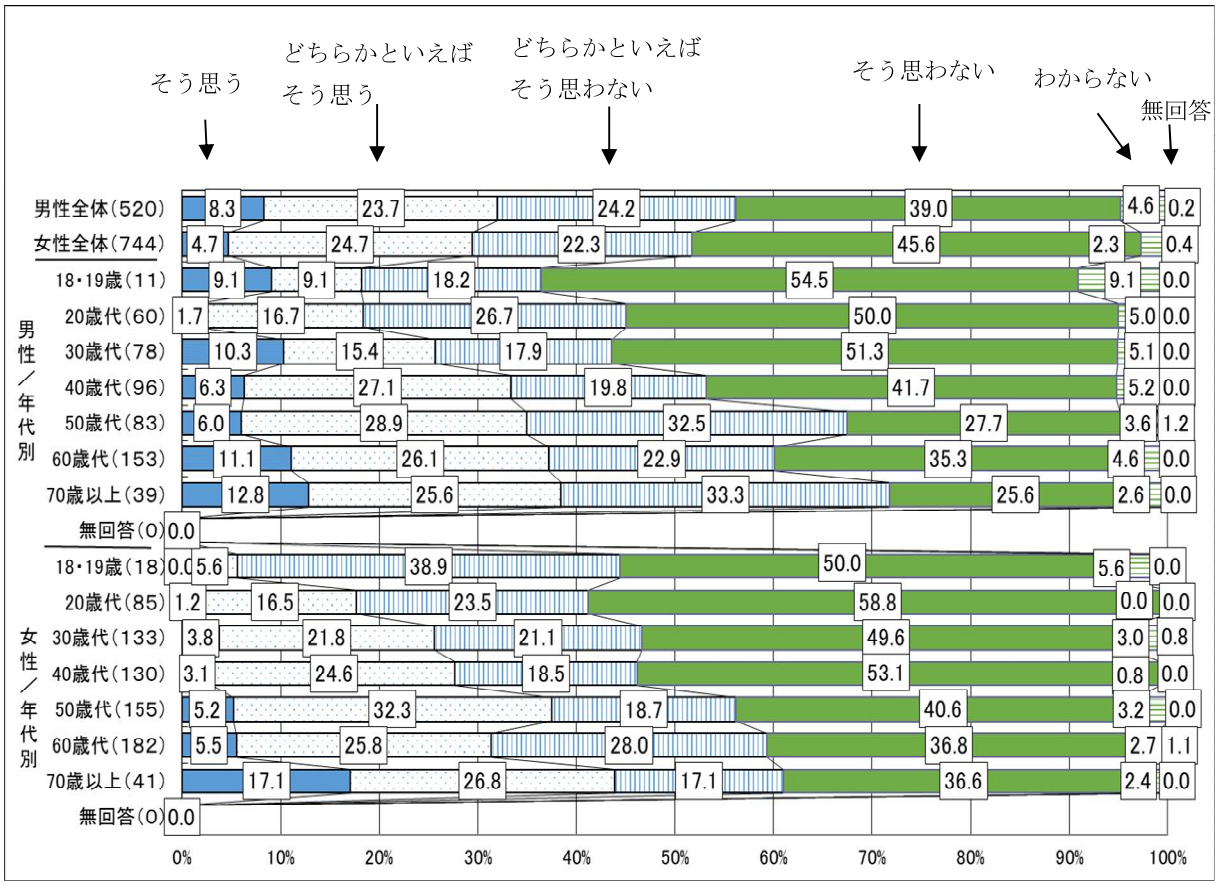
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について性・年代別でみると、男女ともに『否定』が７割を超えている。男女とも年代が上がるにつれ『肯定』が増加する傾向にあり、特に男性の７０歳以上が『肯定』が最も多く、４３．６％となっている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
　　『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

「イ　女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」

図表２－２－３　男女の役割分担意識（性・年代別）



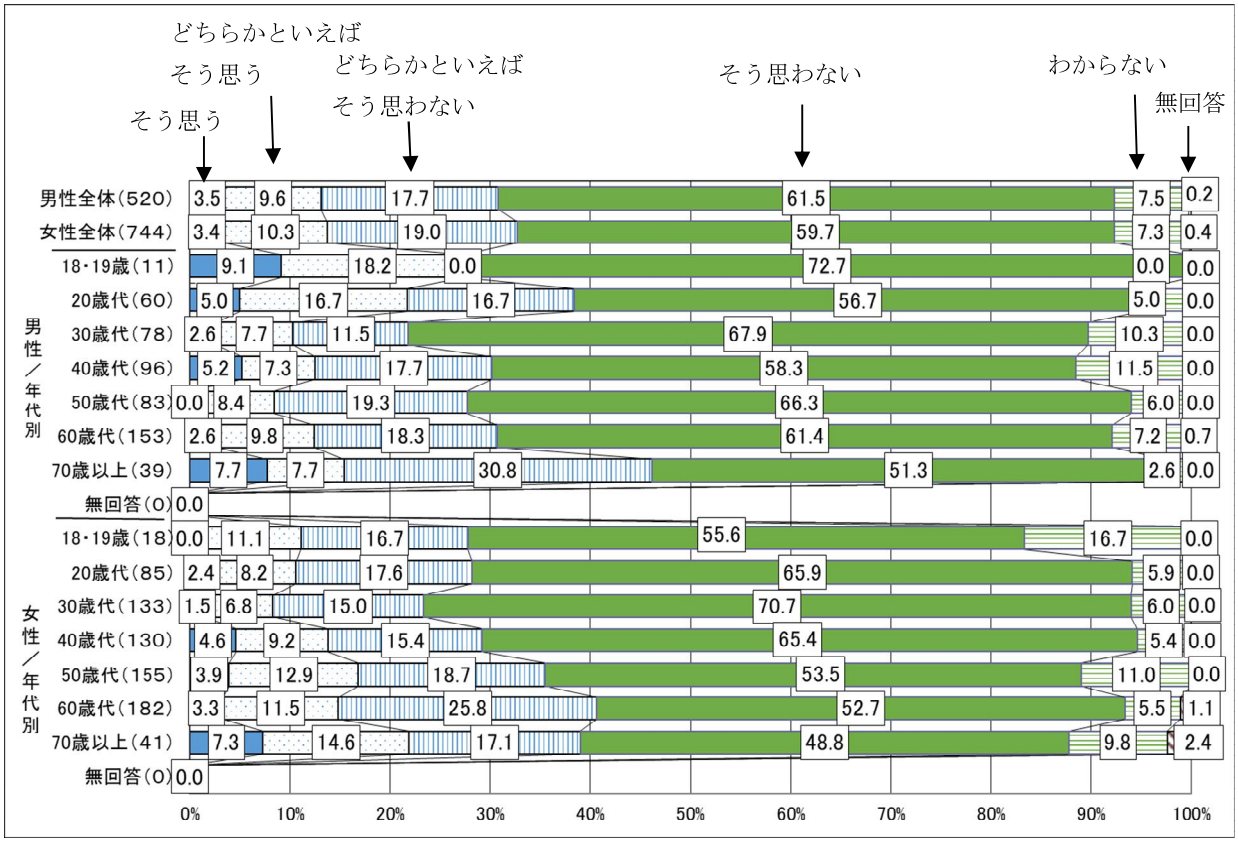
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとするべきである」という考え方について性・年代別でみると、男女ともに『否定』が６割を超え、年代が上がるにつれ『肯定』が増加する傾向にある。特に７０歳以上では、男女とも『肯定』の割合が最も多く、男性３８．４％、女性４３．９％となっている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
　　『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

「ウ　仕事をする上で、男性の方が女性より能力があると思う」

図表２－２－４　男女の役割分担意識（性・年代別）



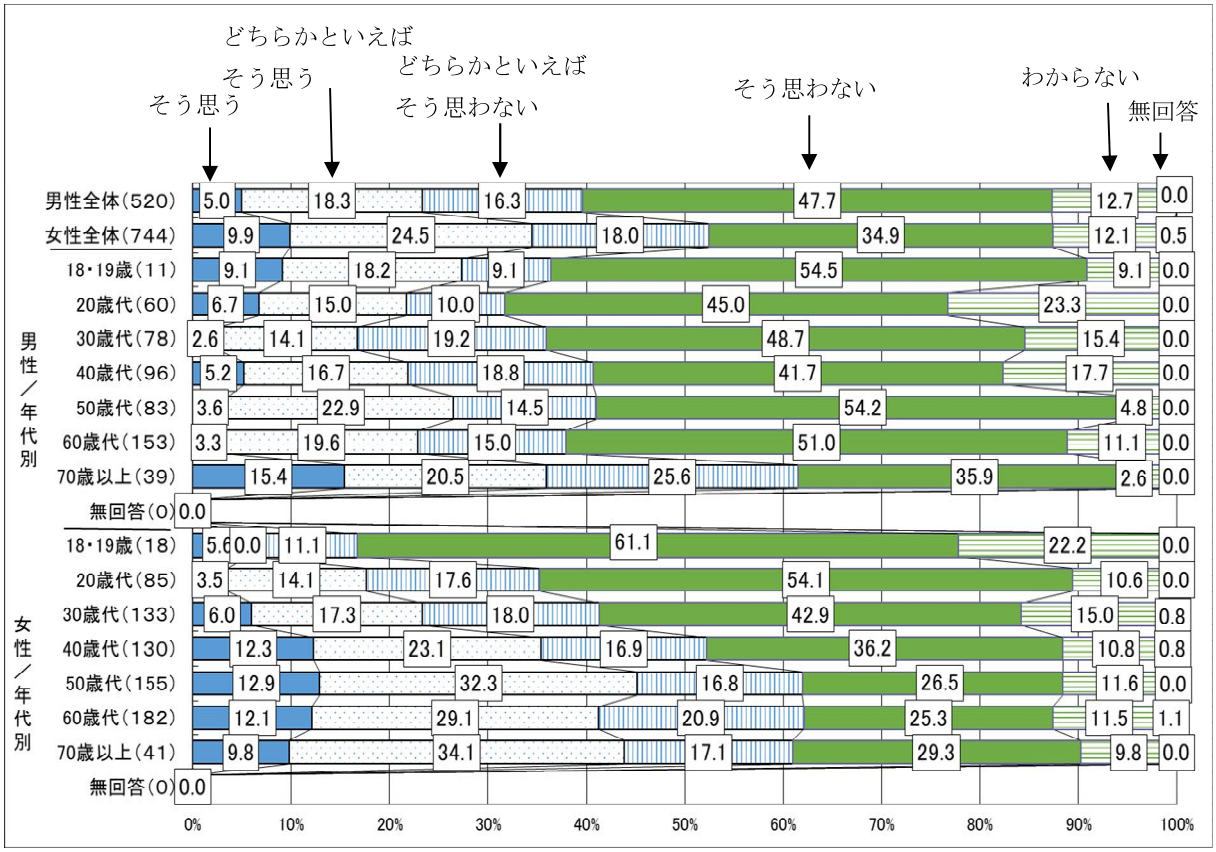
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「仕事をする上で、男性の方が女性より能力があると思う」という考え方について性・年代別でみると、性別による大きな傾向の違いはみられず、男女ともに『否定』が８割弱となっている。男性は、特に２０歳代が『肯定』が多く、２１．７％と２割を超えている。男性の３０歳代以上は、『否定』が７割半ばを超えている。一方、女性は７０歳以上に『肯定』が多く、２割強（２１．９％）となっており、他の年代はすべて『否定』が７割を超えている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
　　『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

「エ　自治会などの団体の代表者は、男性がなった方がうまくいく」

図表２－２－５　男女の役割分担意識（性・年代別）



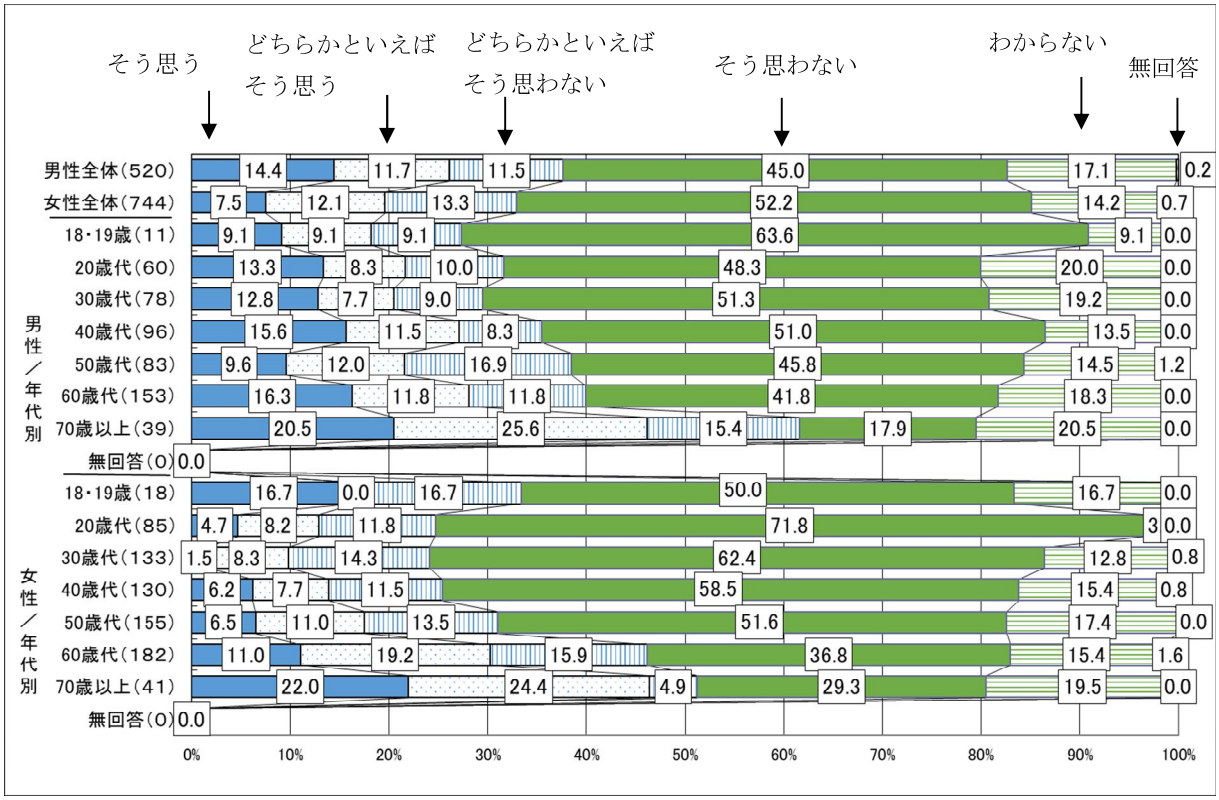
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「自治会などの団体の代表者は、男性がなった方がうまくいく」という考え方について性・年代別でみると、『否定』が男性は６割を超え、女性は５割を超えている。『肯定』は女性（３４．４％）が男性（２３．３％）を１１．１ポイント上回っている。男性は、７０歳以上の『肯定』の割合が最も多く３５．９％となっている。女性は年代が上がるにつれ『肯定』の割合が高くなる傾向にあり、５０歳代が４５．２％と最も多くなっている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
　　『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

「オ　夫婦別姓を認めない方がよい」

図表２－２－６　男女の役割分担意識（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「夫婦別姓を認めない方がよい」という考え方について性・年代別でみると、『否定』が男性は５割半ばを超え、女性は６割半ばとなっている。『肯定』は男性（２６．１％）が女性（１９．６％）を６．５ポイント上回っている。男女とも年代が上がるにつれ『肯定』が増加する傾向があり、特に７０歳以上では男女ともに５割弱となっている。一方、若年層では男女ともに『否定』が多く、特に女性２０歳代が８３．６％と最も多くなっている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
　　『否定』は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計

３　家庭生活について

問３　あなたのふだんの生活時間についておたずねします。平日、次のようなことに使う時間はどのくらいですか。（ア～エについて、それぞれ時間を回答）

図表３－１－１　生活時間＜回答者の平均＞　※１日あたり平均

項目 ＼ 回答者数	全体	男性	女性
	1,267	520	744
ア　家事（炊事・洗濯・掃除など）・育児・介護に使う時間	2:58	1:09	4:14
イ　仕事に使う時間（通勤時間・仕事上のつきあいを含む）	6:49	8:11	5:49
ウ　社会活動に使う時間（ボランティア・地域活動など）	0:12	0:13	0:11
エ　自分自身のための自由な時間（趣味・動画視聴・ネット・スポーツなど）	3:04	3:10	2:59

普段の生活の中で、４項目に使う平均時間をみると、「家事・育児・介護に使う時間」は、男性は１時間９分、女性は４時間１４分である。「仕事に使う時間」では、男性が８時間１１分、女性は５時間４９分となっている。「社会活動に使う時間」「自分自身のための自由な時間」については、性別による大きな差はない。

図表３－１－２　生活時間＜回答者の平均＞（職業別）

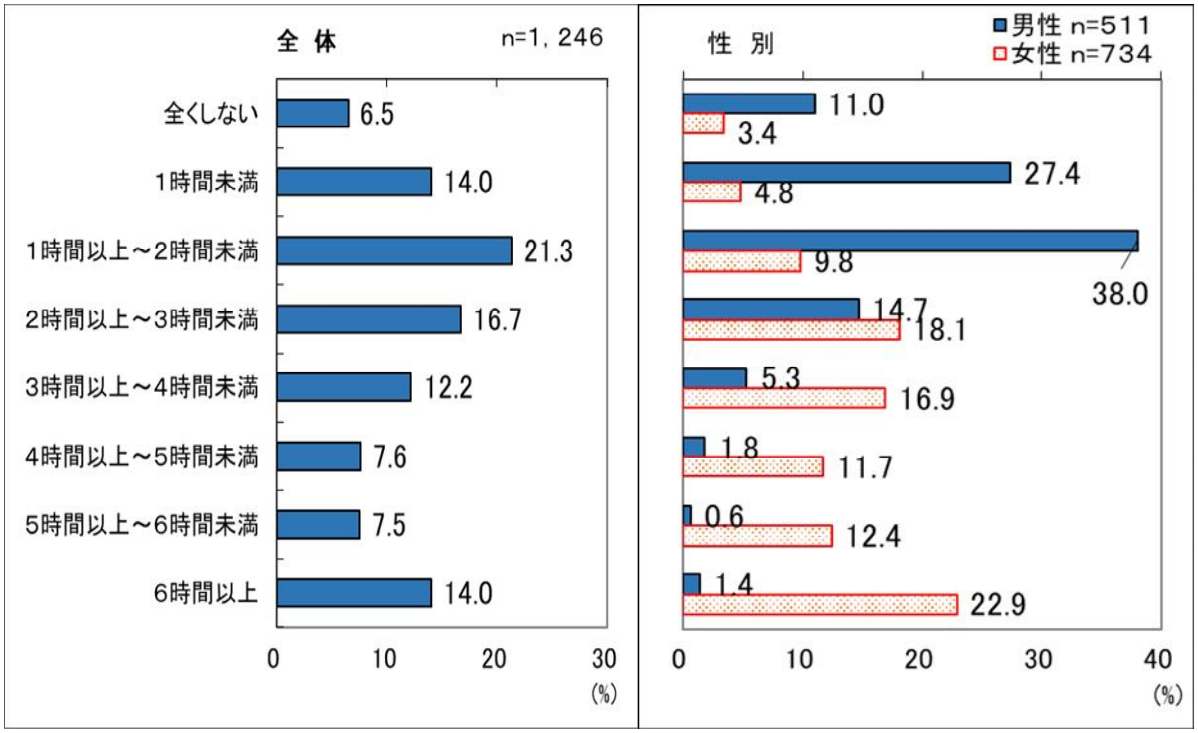
単位：時間

職業		項目	家事・育児・介護に使う時間	仕事に使う時間	社会活動に使う時間	自分自身のための自由な時間
自由業・自営業・家業	全体	95	2:13	7:51	0:16	2:59
	男性	52	1:12	8:30	0:16	3:12
	女性	43	3:29	7:19	0:20	2:42
正規の社員・職員	全体	461	1:55	10:10	0:09	2:20
	男性	261	1:07	10:28	0:11	2:29
	女性	199	2:59	9:46	0:07	2:08
派遣・契約・嘱託	全体	90	1:50	8:44	0:09	2:48
	男性	52	1:02	9:13	0:11	2:59
	女性	38	2:53	8:04	0:05	2:32
臨時・パート・アルバイト	全体	235	4:10	6:25	0:13	2:31
	男性	39	1:03	6:50	0:18	2:49
	女性	196	4:47	6:20	0:11	2:28
専業主婦・専業主夫	全体	180	6:14	0:19	0:13	3:45
	男性	2	1:10	0:00	0:00	1:30
	女性	178	6:17	0:19	0:13	3:46
学生	全体	58	0:33	4:22	0:09	5:40
	男性	25	0:30	4:11	0:06	5:43
	女性	33	0:36	4:30	0:12	5:38
無職	全体	126	2:34	0:36	0:17	5:00
	男性	77	1:40	0:41	0:21	5:10
	女性	49	3:59	0:27	0:11	4:43
その他	全体	16	2:04	5:37	0:13	3:09
	男性	10	1:04	6:18	0:21	3:00
	女性	6	3:45	4:30	0:00	3:25
無回答	全体	6	2:45	4:37	0:00	2:22
	男性	2	1:15	8:15	0:00	3:00
	女性	2	4:15	1:00	0:00	1:45

生活時間の平均時間を職業別にみると、有職者の中では、男女ともに「仕事に使う時間」の比重が大きいことがわかる。その中でも、正規の社員・職員は、男性で１０時間２８分、女性で９時間４６分と特に多くなっている。

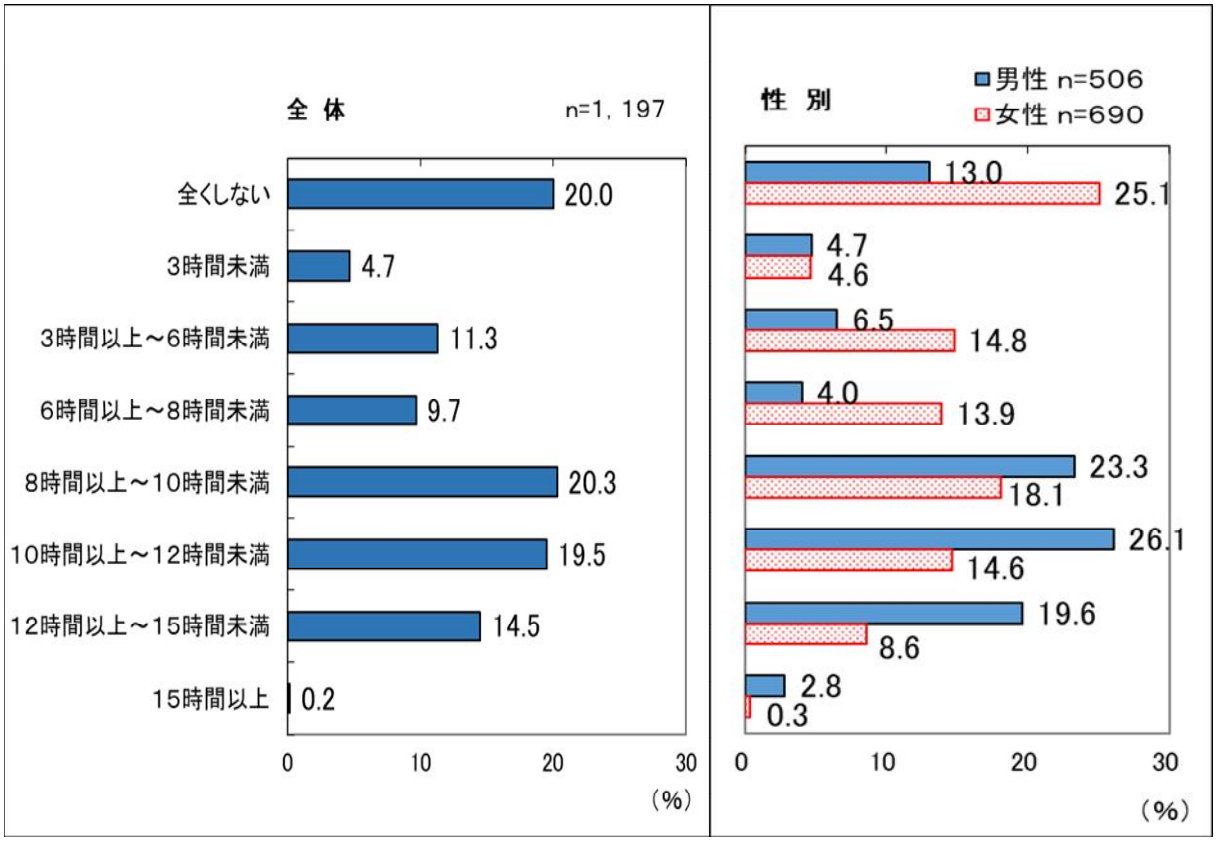
「家事・育児・介護に使う時間」は、すべての職業で男性より女性の方が長く、また、男性では、有職者のどの職業でも平均すると１時間程度でほとんど変わらない。

図表３－１－３　生活時間（家事・育児・介護）



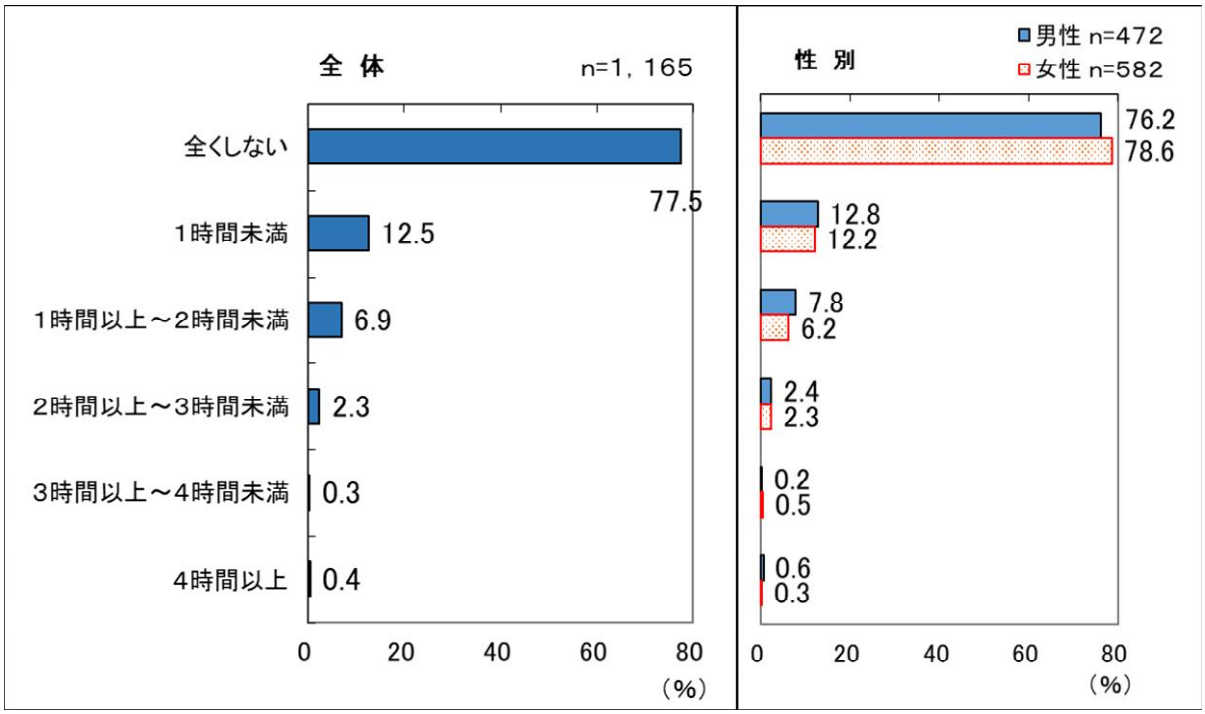
生活時間を項目ごとに使う時間でみると、「家事・育児・介護に使う時間」は、男性は『２時間未満』が圧倒的に多く、７割半ばを超えているのに対し、女性は『２時間以上』が８割を超え、男女間の差が大きいことがわかる。

図表３－１－４　生活時間（仕事）



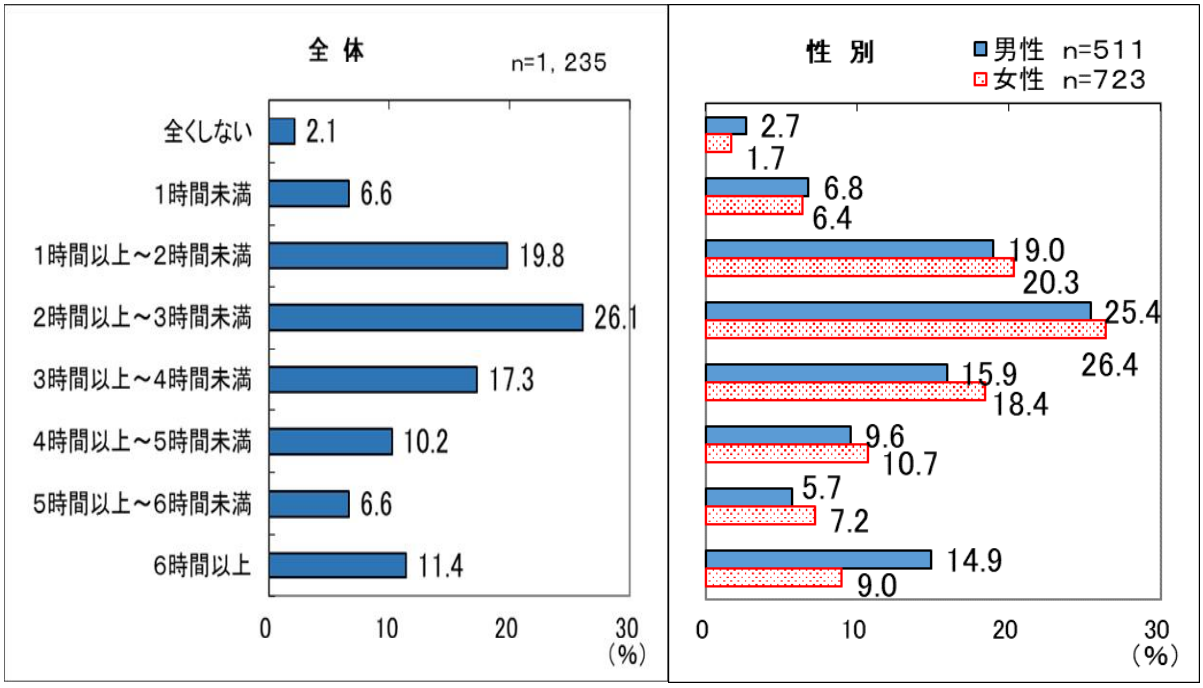
「仕事に使う時間」では、８時間以上の男性（７１．８％）が女性（４１．６％）を３０．２ポイント上回っている。一方、８時間未満は女性（５８．４％）が男性（２８．２％）を３０．２ポイント上回っている。『１０時間以上』は男性が４８．５％、女性が２３．５％となっている。

図表３－１－５　生活時間（社会活動）



「社会活動」は、『全くしない』が全体で７７．５％となっており、男女ともに８割弱となっている。平均時間は男女ともに約１０分となっている。

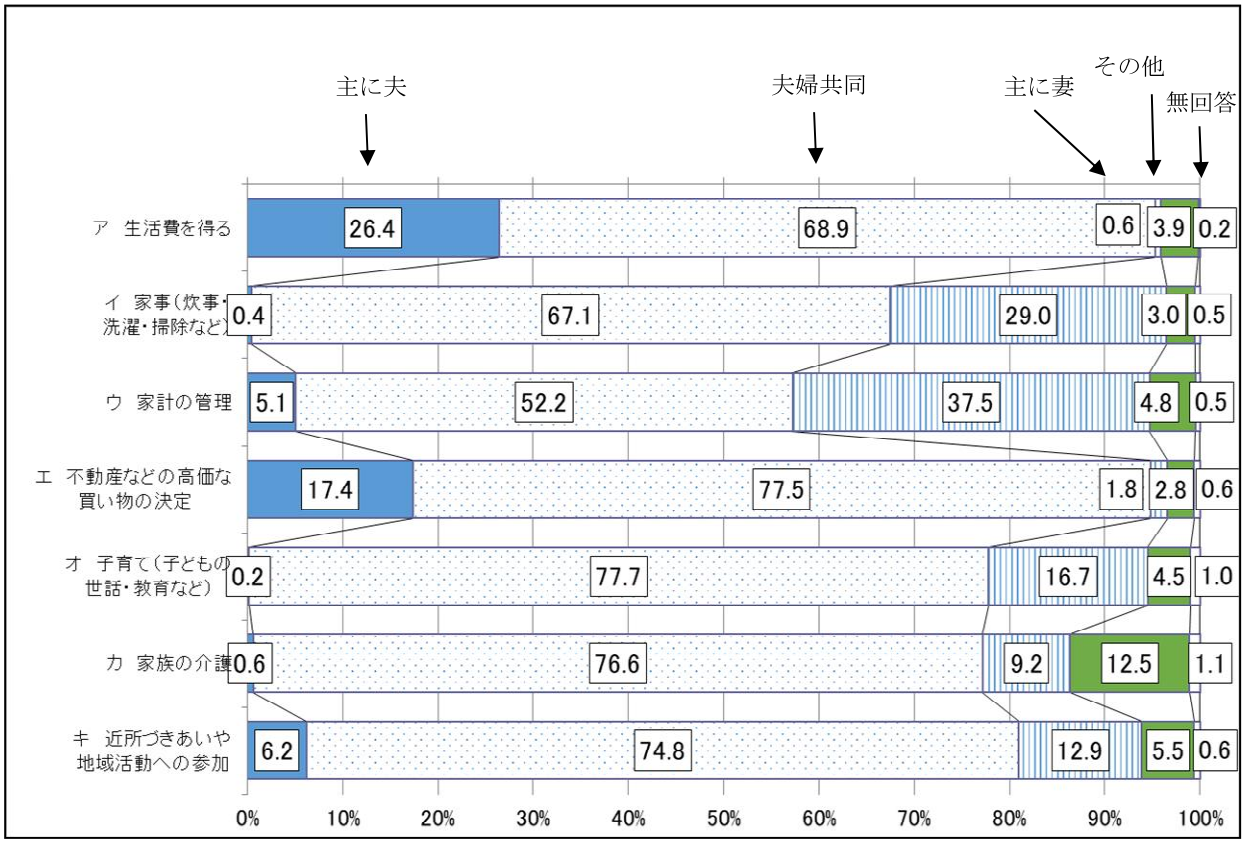
図表３－１－６　生活時間（自由時間）



「自由時間」は、全体で『２時間以上３時間未満』が最も多く、３割弱となっており、男性は２５．４％、女性は２６．４％となっている。次に多いのは、男女ともに『１時間以上２時間未満』で、男性は１９．０％、女性は２０．３％となっている。

問４　家庭生活での夫婦の役割分担はどのようにすればよいと思いますか。
（ア～キについて、それぞれ１つずつ選択）

図表３－２－１　家庭生活での夫婦の役割分担意識（全体）　　ｎ＝１，２６７



家庭生活での夫婦の役割分担意識について全体でみると、「生活費を得る」は『夫婦共同』が６８．９％と最も高く、次いで『主に夫』（２６．４％）が多くなっている。『主に妻』は０．６％となっている。

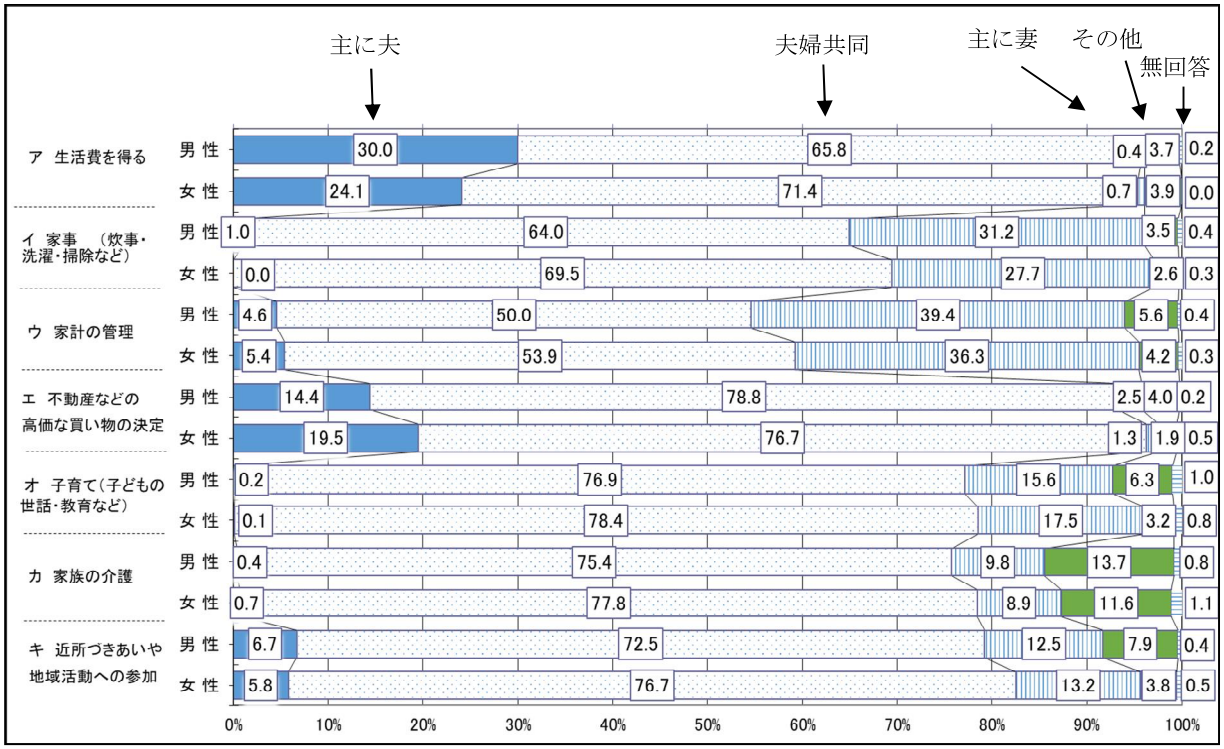
「家事（炊事・洗濯・掃除など）」は、『夫婦共同』が６７．１％と最も高く、次いで『主に妻』（２９．０％）が多くなっている。『主に夫』は０．４％となっている。

「家計の管理」は、『夫婦共同』が５２．２％と最も高く、次いで『主に妻』（３７．５％）が多くなっている。『主に夫』は５．１％となっている。

「不動産などの高価な買い物の決定」「子育て（子どもの世話・教育など）」「家族の介護」「近所づきあいや地域活動への参加」では、『夫婦共同』が７割を超えている。

図表３－２－２　家庭生活での夫婦の役割分担意識（性別）

男性ｎ＝５２０　女性ｎ＝７４４



性別でみると、「生活費を得る」においては、『夫婦共同』が男女ともに６割半ばを超えており、次に多い『主に夫』は男性（３０．０％）が女性（２４．１％）を５．９ポイント上回っている。

「家事（炊事・洗濯・掃除）」では、『夫婦共同』が男女ともに６割を超えており、次に多い『主に妻』は男性（３１．２％）が女性（２７．７％）を３．５ポイント上回っている。

「家計の管理」では、男女ともに５割以上が『夫婦共同』と答えており、次に多い『主に妻』は男性（３９．４％）が女性（３６．３％）を３．１ポイント上回っている。

「不動産などの高価な買い物の決定」では、男女ともに８割弱が『夫婦共同』と答えており、次に多い『主に夫』は女性（１９．５％）が男性（１４．４％）を５．１ポイント上回っている。

「子育て（子どもの世話・教育など）」では、男女ともに８割弱が『夫婦共同』と答えており、次に多い『主に妻』は女性（１７．５％）が男性（１５．６％）を１．９ポイント上回っている。

「家族の介護」では、男女ともに７割半ばから８割弱が『夫婦共同』と答えており、次に多い『主に妻』は男性（９．８％）が女性（８．９％）を０．９ポイント上回っている。

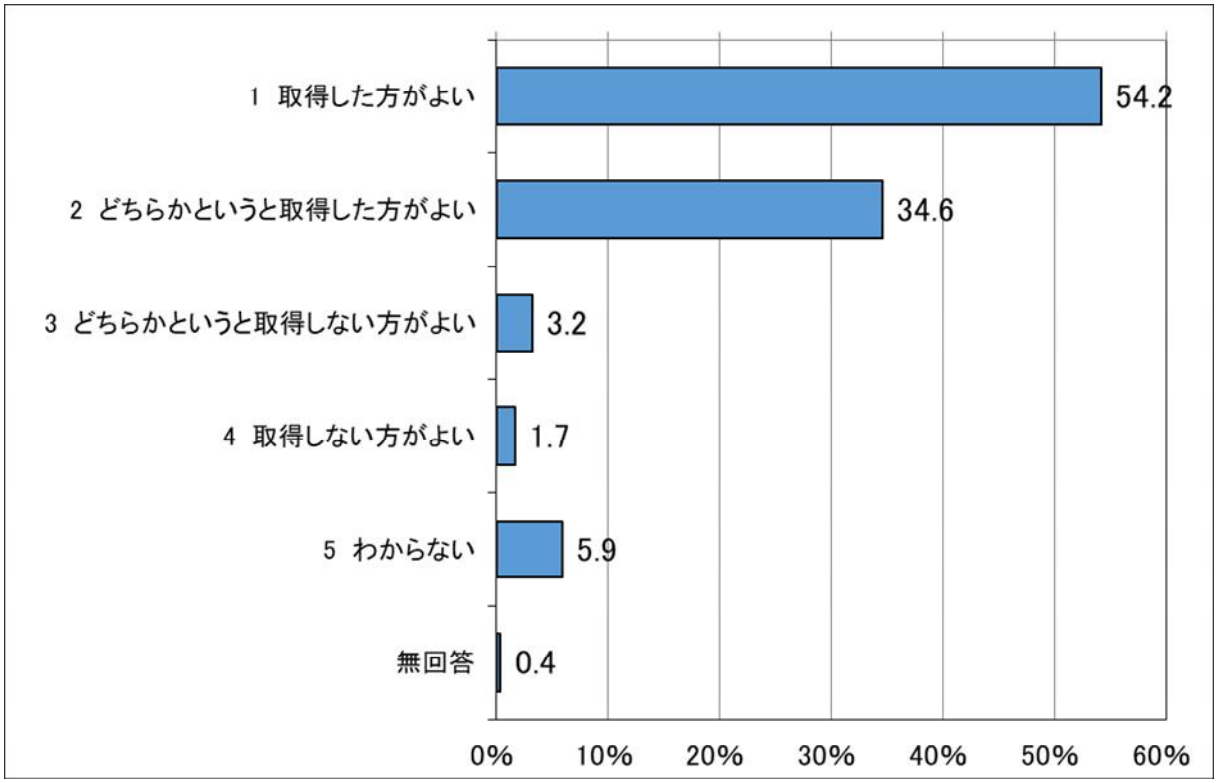
「近所づきあいや地域活動への参加」では、『夫婦共同』が男女ともに７割を超え、次に多い『主に妻』は女性（１３．２％）が男性（１２．５％）を０．７ポイント上回っている。

性別による大きな傾向の違いはみられない。

４　子育て・介護について

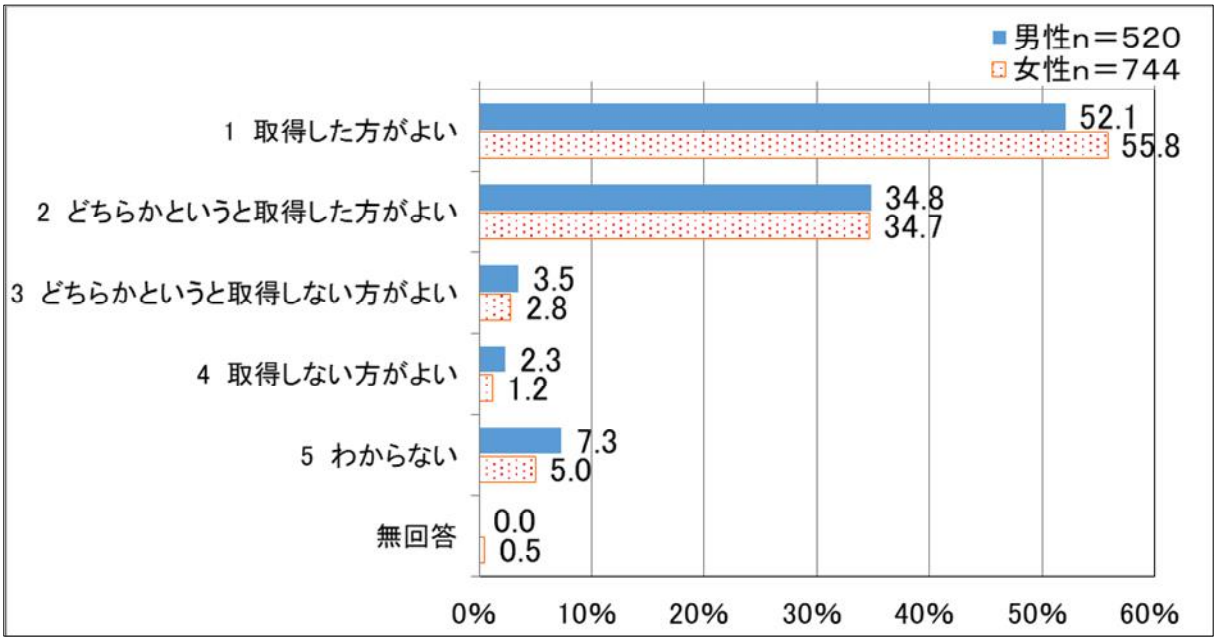
問５　育児を行うために、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。
（１つだけ選択）

図表４－１－１　男性の育児休業の取得について（全体）　　ｎ＝１，２６７



男性の育児休業の取得について全体でみると、「取得した方がよい」が５４．２％、「どちらかというと取得した方がよい」が３４．６％であり、合わせると９割弱となっている。

図表４－１－２　男性の育児休業の取得について（性別）



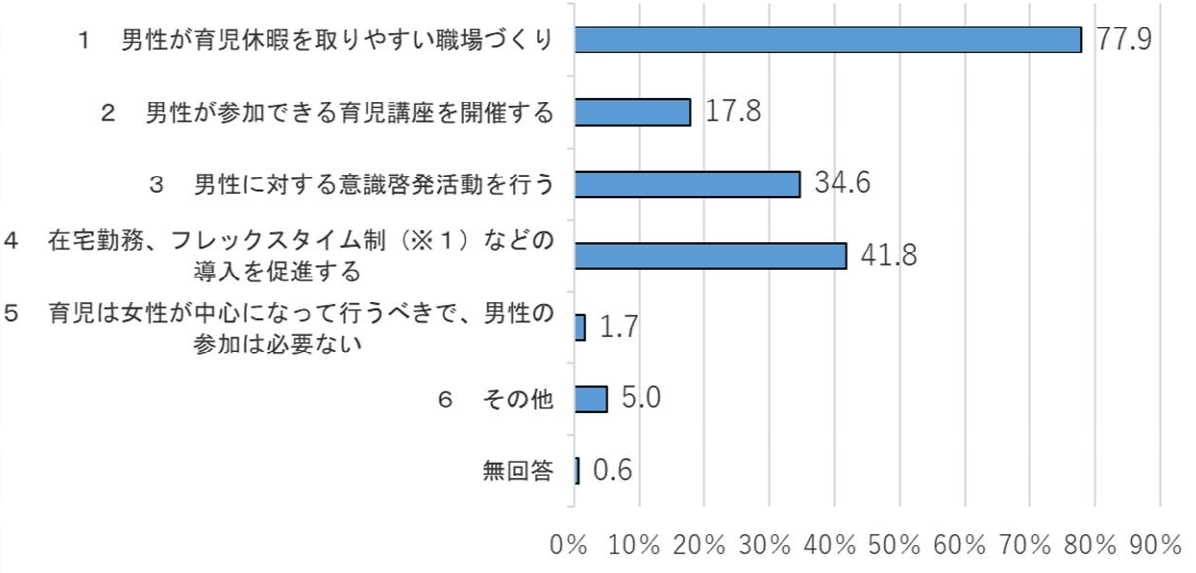
性別でみると、「取得した方がよい」は女性（５５．８％）が男性（５２．１％）を３．７ポイント上回っている。

「どちらかというと取得した方がよい」は男性（３４．８％）が女性（３４．７％）を０．１ポイント上回っている。

「どちらかというと取得しない方がよい」「取得しない方がよい」は、男女ともに合わせて１割未満となっている。

問６　家庭での育児は、主に女性が担っている場合が多いのが現状ですが、男性が育児に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（選択は２つまで）

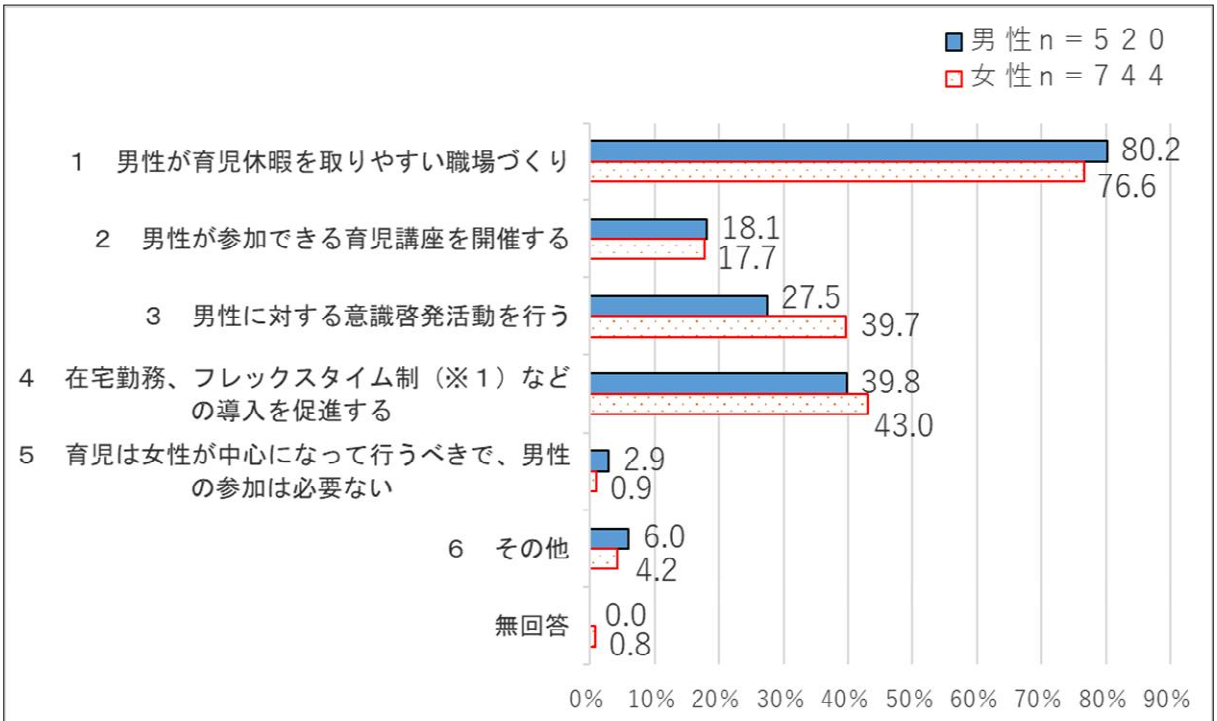
図表４－２－１　男性が育児に参加するために必要なこと（全体）　　ｎ＝１，２６７



（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

男性が育児に参加するために必要なことについて全体でみると、「男性が育児休暇を取りやすい職場づくり」（７７．９％）が最も多く、次いで「在宅勤務・フレックスタイム制などの導入を促進する」（４１．８％）、「男性に対する意識啓発活動を行う」（３４．６％）、「男性が参加できる育児講座を開催する」（１７．８％）などの順となっている。

図表４－２－２　男性が育児に参加するために必要なこと（性別）

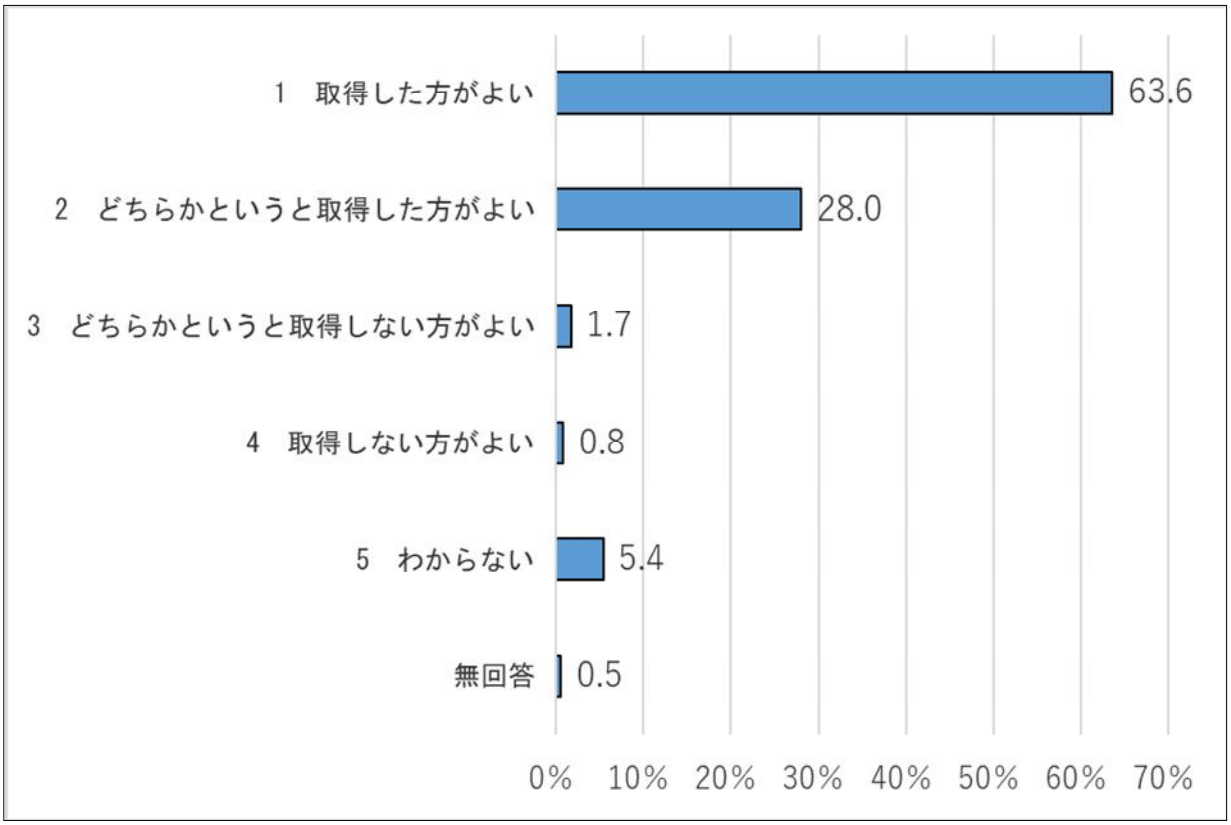


（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

性別でみると、男女ともに「男性が育児休暇を取りやすい職場づくり」が最も多く、男性（８０．２％）が女性（７６．６％）を３．６ポイント上回っている。次いで、男女ともに「在宅勤務・フレックスタイム制などの導入を促進する」が多く、女性（４３．０％）が男性（３９．８％）を３．２ポイント上回っている。「男性に対する意識啓発活動を行う」は、女性（３９．７％）が男性（２７．５％）を１２．２ポイント上回っている。「男性が参加できる育児講座を開催する」は男性（１８．１％）が女性（１７．７％）を０．４ポイント上回っている。

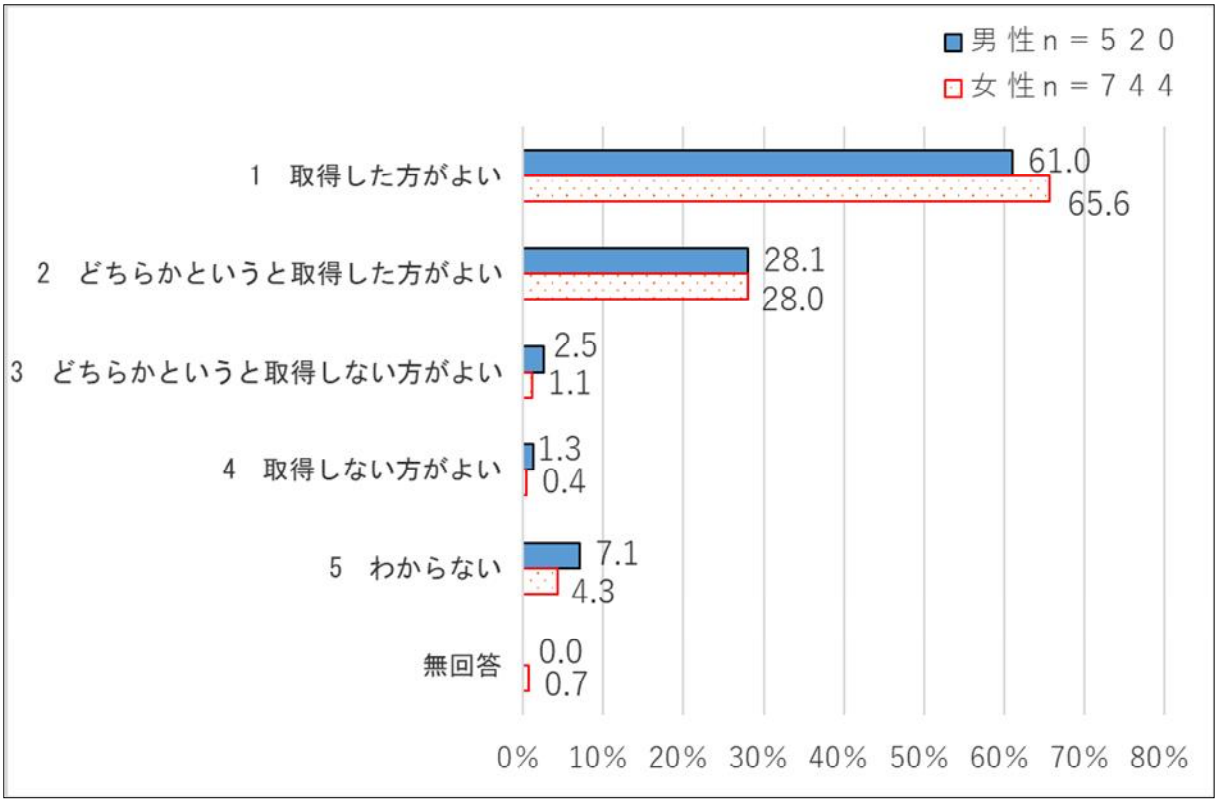
問７　介護を行うために、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。
（１つだけ選択）

図表４－３－１　男性の介護休業の取得について（全体）　　ｎ＝１，２６７



男性の介護休業の取得について全体でみると、「取得した方がよい」が６３．６％、「どちらかというと取得した方がよい」が２８．０％であり、合わせると９割を超えている。

図表４－３－２　男性の介護休業の取得について（性別）



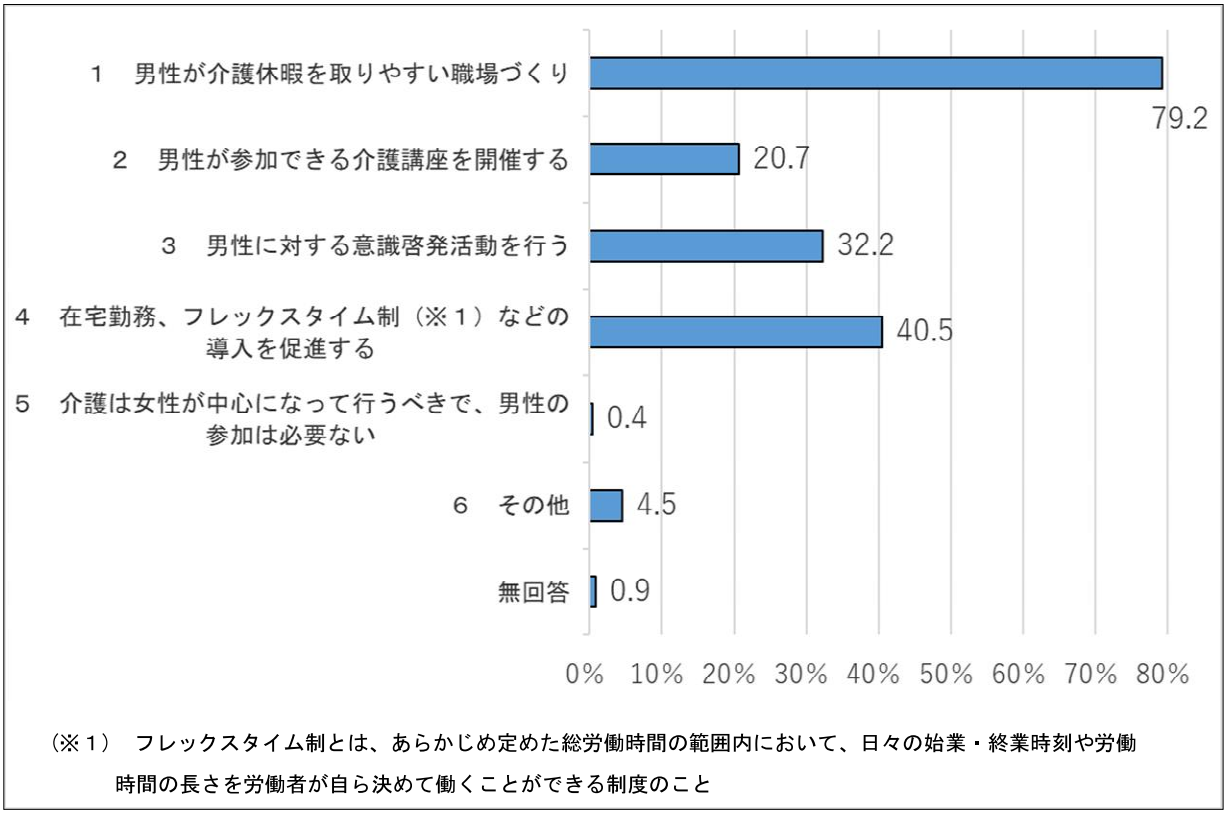
性別でみると、「取得した方がよい」は女性（６５．６％）が男性（６１．０％）を４．６ポイント上回っている。

「どちらかというと取得した方がよい」は男性（２８．１％）が女性（２８．０％）を０．１ポイント上回っている。

「どちらかというと取得しない方がよい」「取得しない方がよい」は、男女ともに合わせて1割未満となっている。

問８　家庭での介護は、主に女性が担っている場合が多いのが現状ですが、男性が介護に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（選択は２つまで）

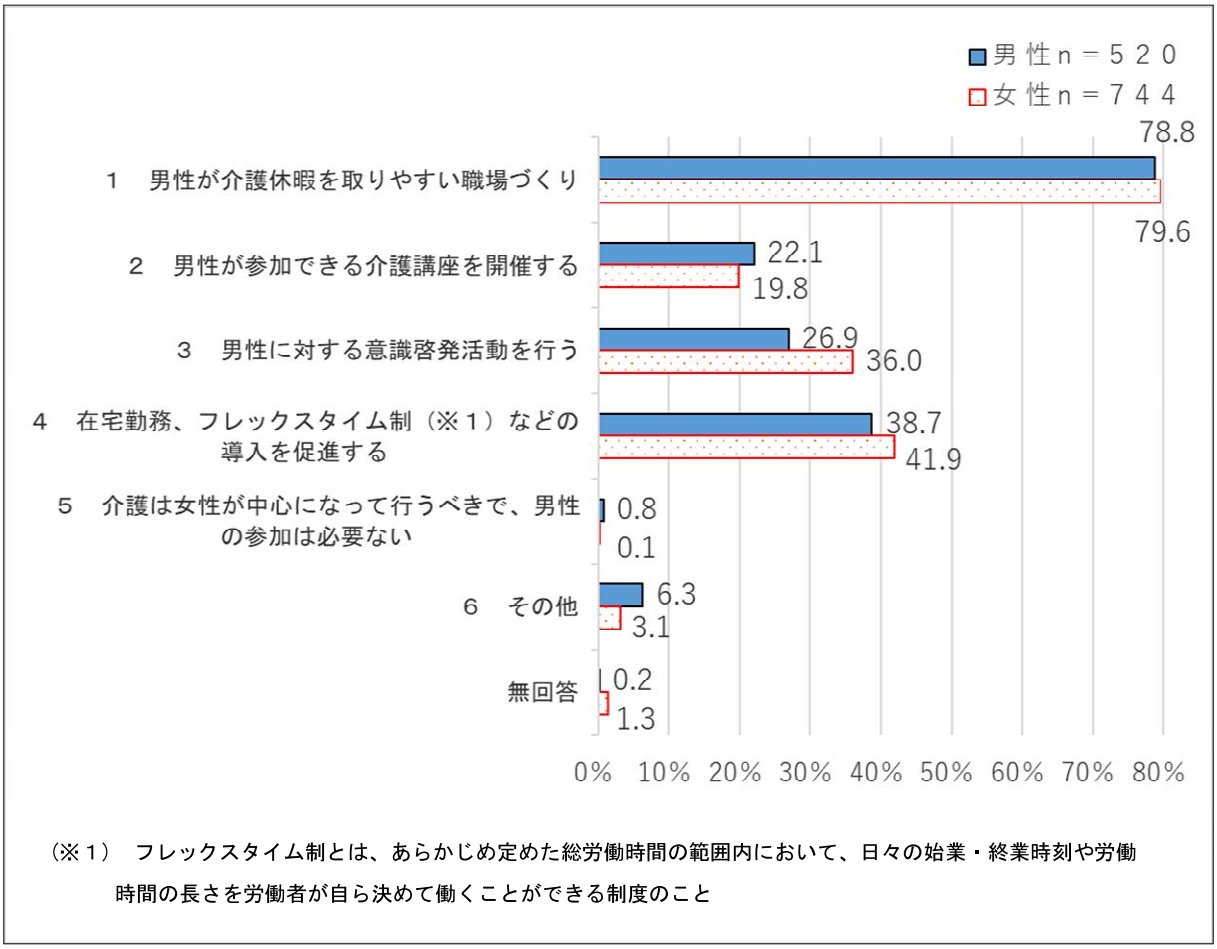
図表４－４－１　男性が介護に参加するために必要なこと（全体）　　ｎ＝１，２６７



（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

男性が介護に参加するために必要なことについて全体でみると、「男性が介護休暇を取りやすい職場づくり」（７９．２％）が最も多く、次いで「在宅勤務・フレックスタイム制などの導入を促進する」（４０．５％）、「男性に対する意識啓発活動を行う」（３２．２％）、「男性が参加できる介護講座を開催する」（２０．７％）などの順となっている。

図表４－４－２　男性が介護に参加するために必要なこと（性別）



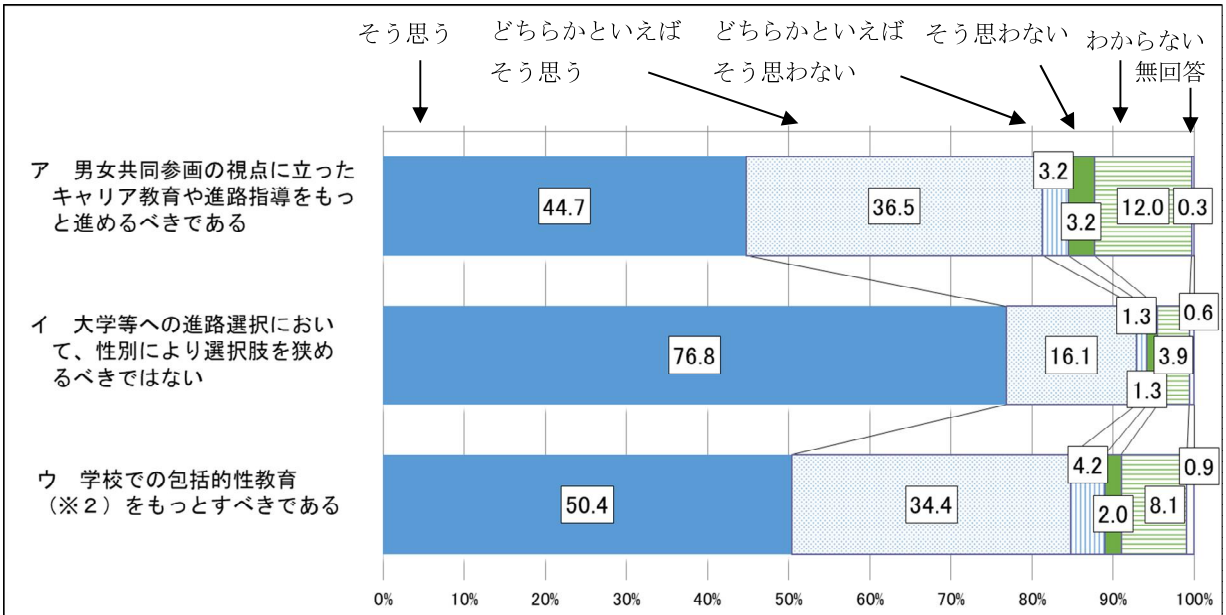
（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

性別でみると、男女ともに「男性が介護休暇を取りやすい職場づくり」が最も多く、女性（７９．６％）が男性（７８．８％）を０．８ポイント上回っている。次いで、男女ともに「在宅勤務・フレックスタイム制などの導入を促進する」が多く、女性（４１．９％）が男性（３８．７％）を３．２ポイント上回っている。「男性に対する意識啓発活動を行う」は、女性（３６．０％）が男性（２６．９％）を９．１ポイント上回っている。「男性が参加できる介護講座を開催する」は男性（２２．１％）が女性（１９．８％）を２．３ポイント上回っている。

5　学校教育について

問９　学校教育について、どう思いますか。（ア～ウについて、それぞれ１つずつ選択）

図表５－１－１　学校教育の分野で思うこと（全体）　　ｎ＝１，２６７

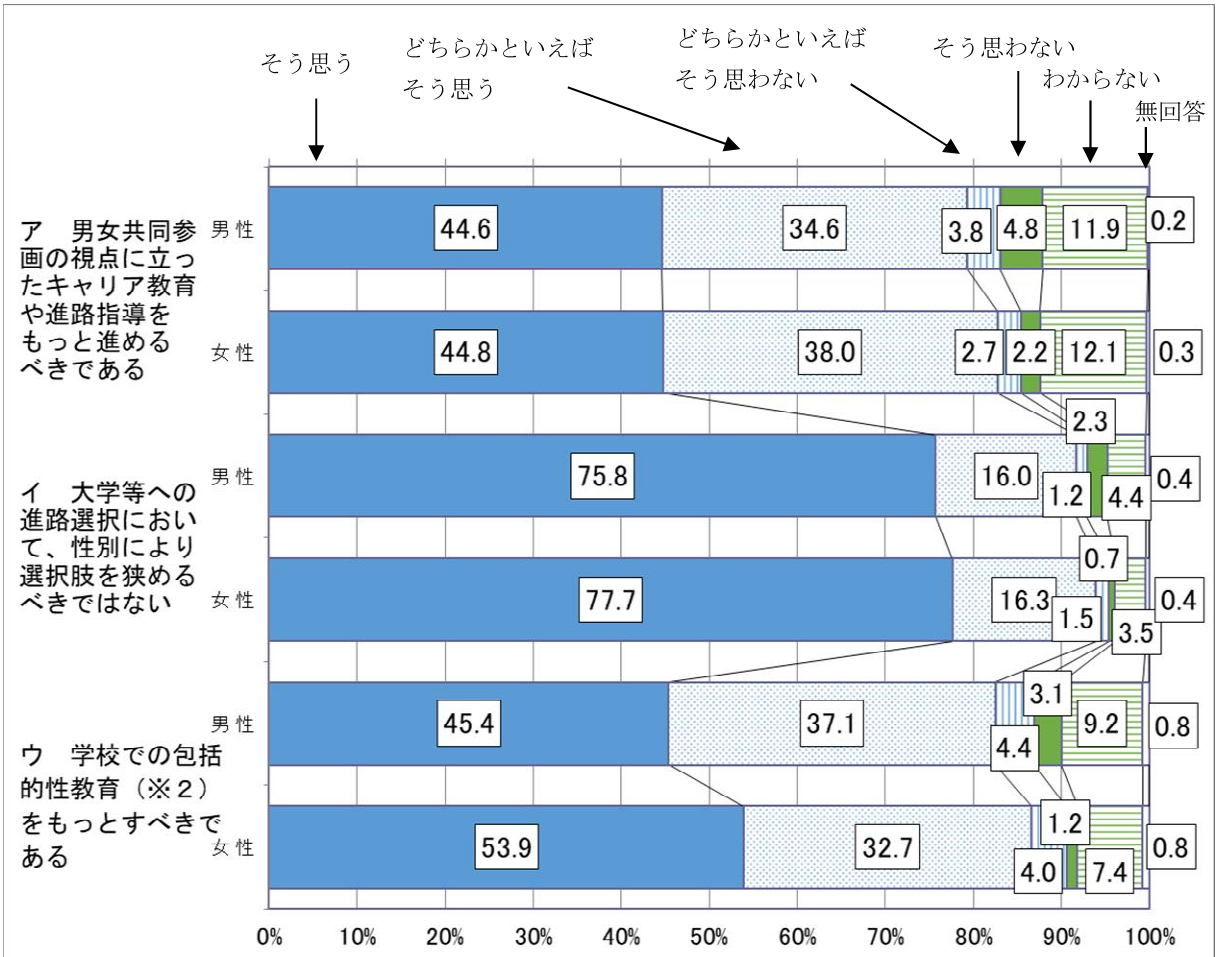


（※２）　包括的性教育とは、国際的に広く認知・推進されている「性に関する知識・スキルだけでなく、人権やジェンダー観・多様性・幸福について学ぶ概念」のこと

学校教育の分野で思うことについて全体でみると、「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育や進路指導をもっと進めるべきである」「大学等への進路選択において、性別により選択肢を狭めるべきではない」「学校での包括的性教育をもっとすべきである」の全ての項目において、『肯定』が８割を超えている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

図表５－１－２　学校教育の分野で思うこと（性別）男性　ｎ＝５２０　女性　ｎ＝７４４



（※２）　包括的性教育とは、国際的に広く認知・推進されている「性に関する知識・スキルだけでなく、人権やジェンダー観・多様性・幸福について学ぶ概念」のこと

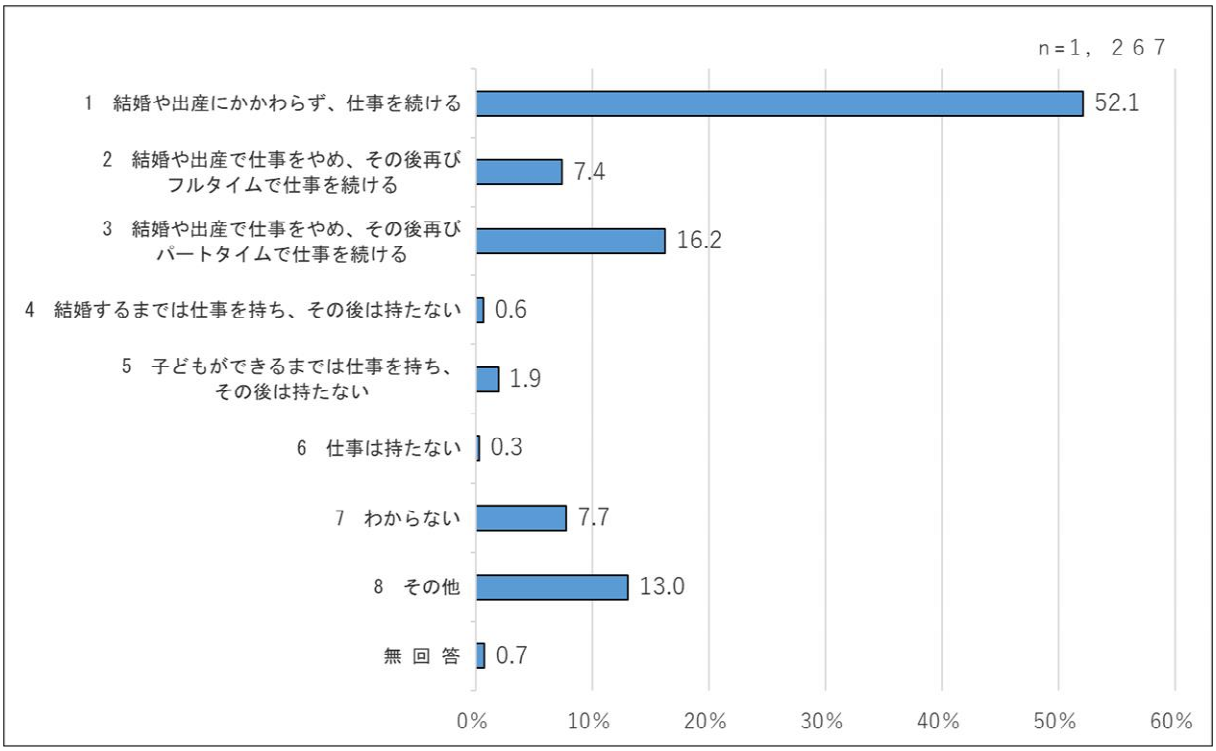
性別でみると、「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育や進路指導をもっと進めるべきである」という考え方について、『肯定』の女性は８２．８％で、男性の７９．２％を３．６ポイント上回っている。「大学等への進路選択において、性別により選択肢を狭めるべきではない」という考え方について、『肯定』の女性は９４．０％で、男性の９１．８％を２．２ポイント上回っている。「学校での包括的性教育をもっとすべきである」という考え方について、『肯定』の女性は８６．６％で、男性の８２．５％を４．１ポイント上回っている。

（※）『肯定』は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

６　就労について

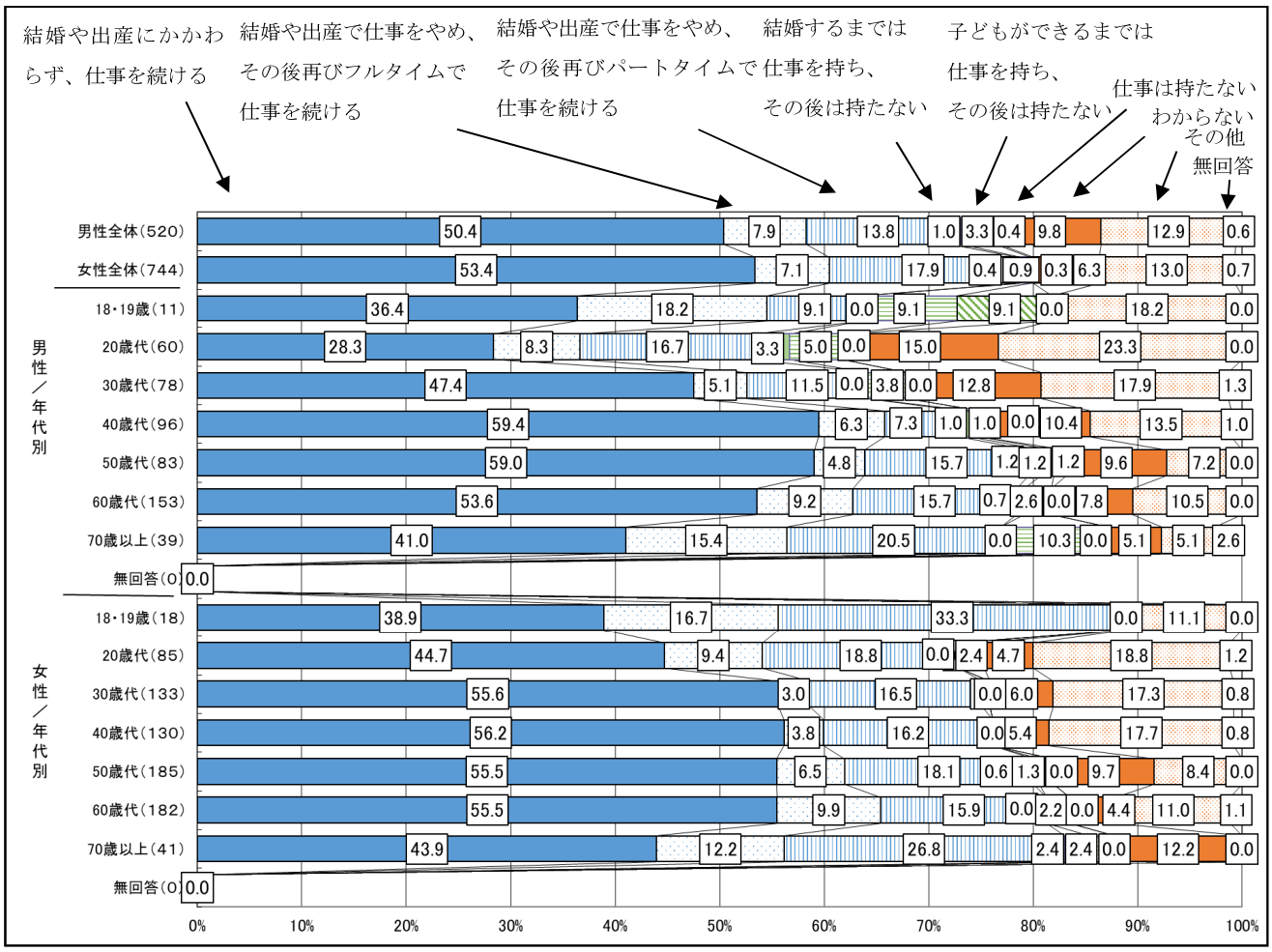
問１０　女性の働き方について、望ましいと思うのは次のどれですか。（１つだけ選択）

図表６－１－１　女性の働き方について望ましいと思うかたち（全体）



女性の働き方について望ましいと思うかたちについて全体でみると、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が５２．１％で最も多く、次いで「結婚や出産で仕事をやめ、その後再びパートタイムで仕事を続ける」が１６．２％となっており、「結婚や出産で仕事をやめ、その後再びフルタイムで仕事を続ける」（７．４％）などの順となっている。なお、再就職後は「フルタイム」ではなく「パートタイム」との考えが約２倍となっている。

図表６－１－２　女性の働き方について望ましいと思うかたち（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

性・年代別でみると、男女ともに全体では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が５割を超え、「フルタイム再就職型とパートタイム再就職型（計）」の２倍以上となっている。

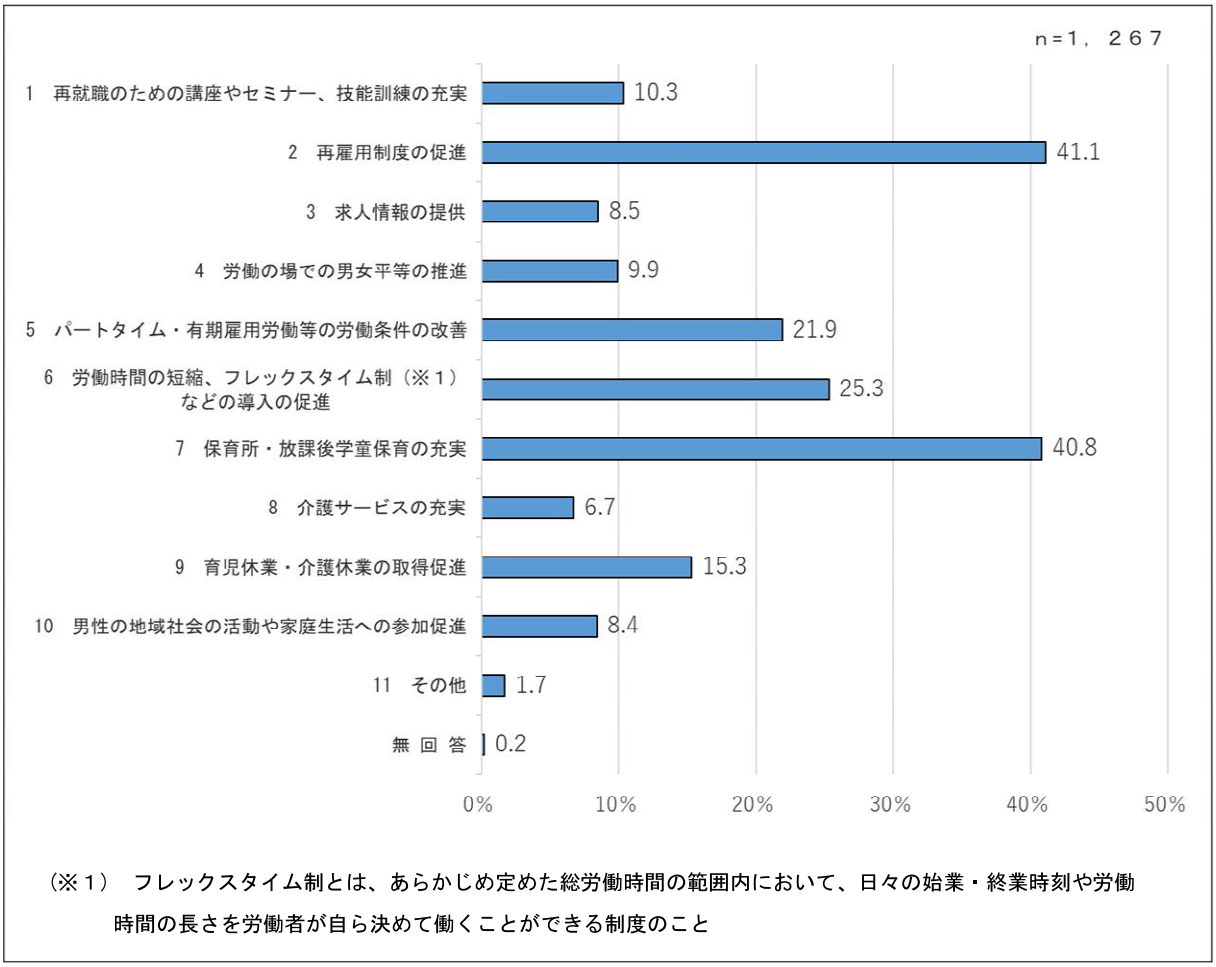
２０歳代と７０歳以上は、男女ともに「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が他の年代より低くなっており、特に男性の２０歳代は２８．３％と最も低くなっている。「フルタイム再就職型とパートタイム再就職型（計）」の割合は、女性の７０歳以上が最も多く、３９％となっている。

性別による大きな傾向の違いはみられない。

（※）『フルタイム再就職型とパートタイム再就職型（計）』は、「結婚や出産で仕事をやめ、その後再びフルタイムで仕事を続ける」「結婚や出産で仕事をやめ、その後再びパートタイムで仕事を続ける」の合計

問１１　再就職を希望する女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（選択は２つまで）

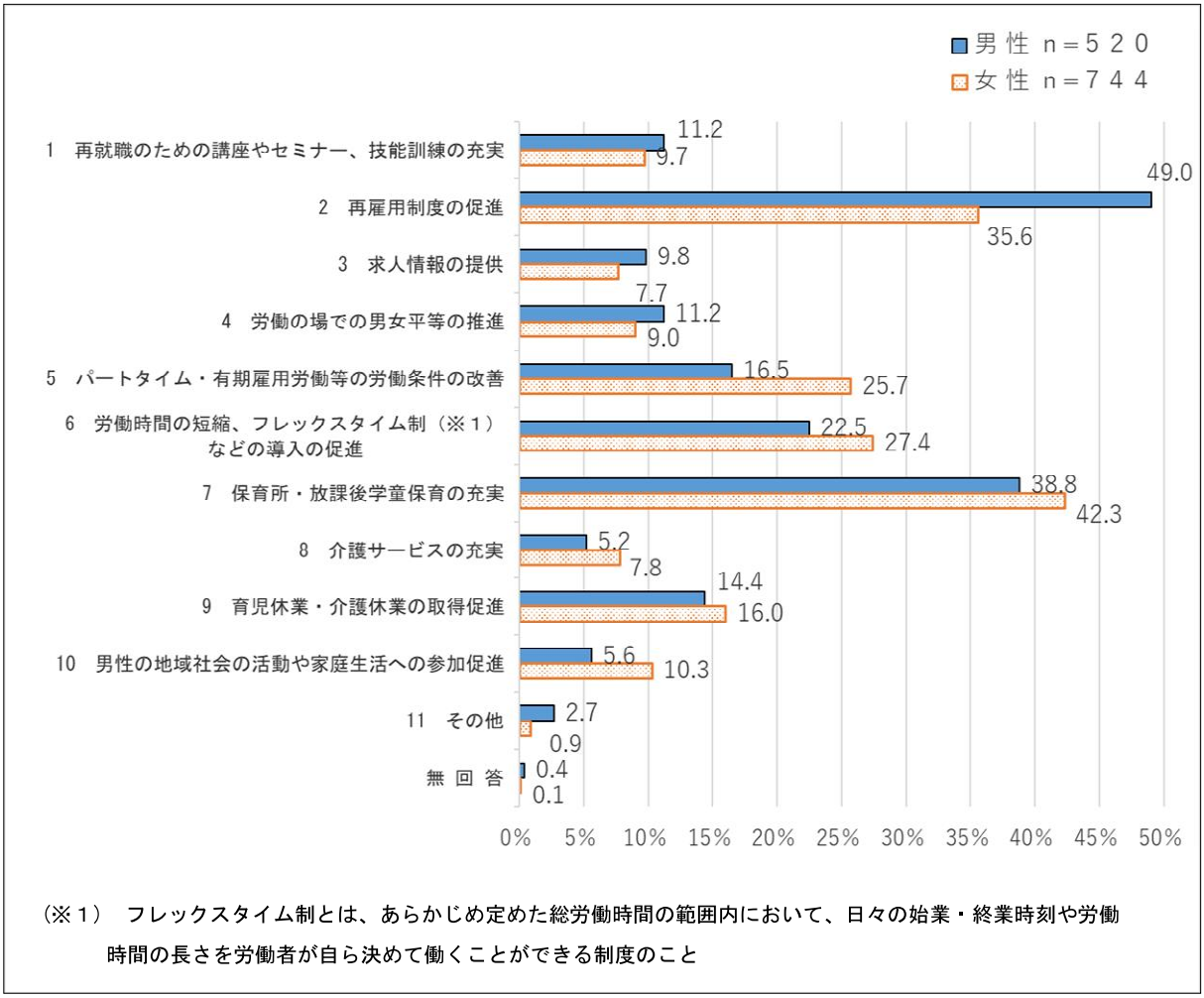
図表６－２－１　再就職を希望する女性が働きやすい環境づくりに必要なこと（全体）



（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

再就職を希望する女性が働きやすい環境をつくるために必要なことについて全体でみると、「再雇用制度の促進」（４１．１％）が最も多く、次いで「保育所・放課後学童保育の充実」（４０．８％）、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入の促進」（２５．３％）、「パートタイム・有期雇用労働等の労働条件の改善」（２１．９％）、「育児休業・介護休業の取得の促進」（１５．３％）などの順となっている。

図表６－２－２　再就職を希望する女性が働きやすい環境づくりに必要なこと（性別）

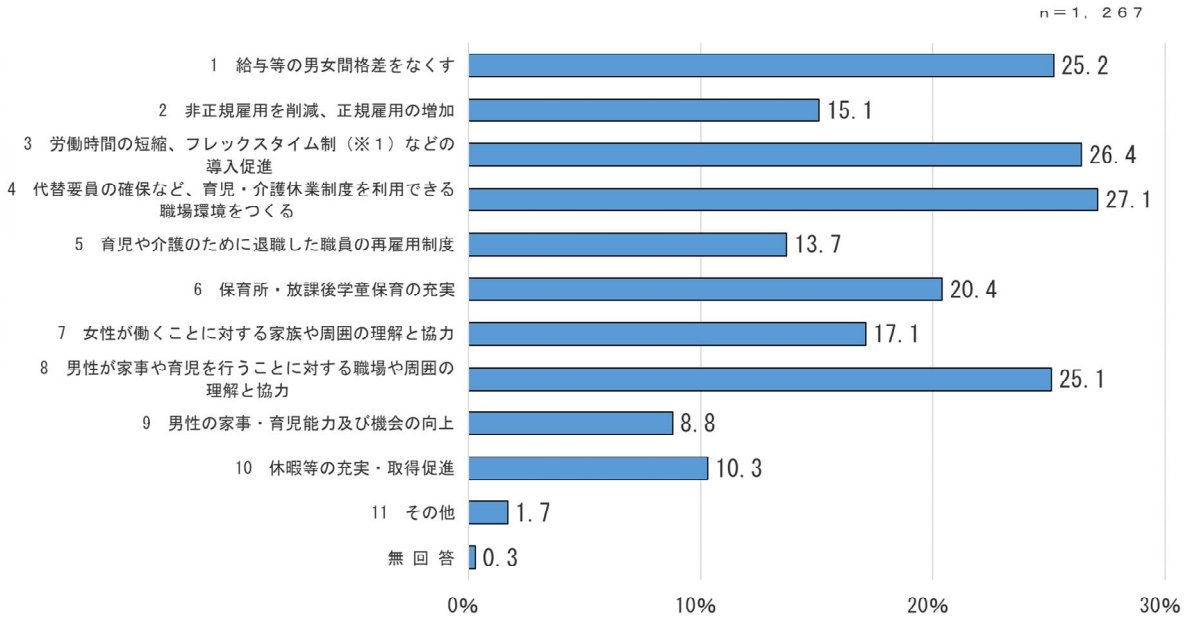


（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

性別でみると、男性は全体と順位が変わらず「再雇用制度の促進」が最も多く４９．０％であり、女性の３５．６％を１３．４ポイント上回っている。一方、女性は「保育所・放課後学童保育の充実」が最も多く４２．３％であり、男性の３８．８％を３．５ポイント上回っている。

問１２　男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのようなことが必要だと思いますか。（選択は２つまで）

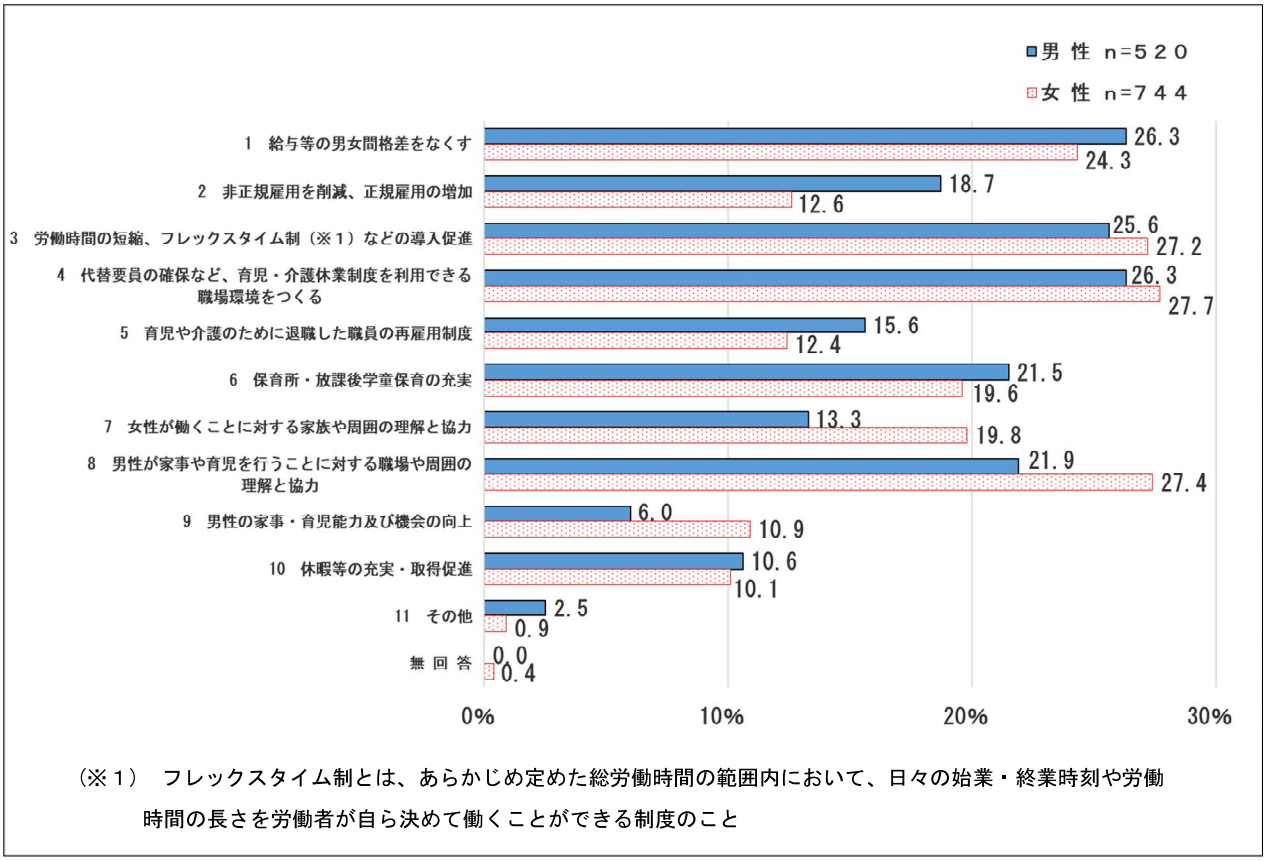
図表６－３－１　男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要なこと（全体）



（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

男女が共に仕事と家庭を両立してくために必要なことについて全体でみると、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」（２７．１％）が最も多く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入促進」（２６．４％）、「給与等の男女間格差をなくす」（２５．２％）、「男性が家事や育児を行うことに対する職場や周囲の理解と協力」（２５．１％）などの順となっている。

図表６－３－２　男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要なこと（性別）

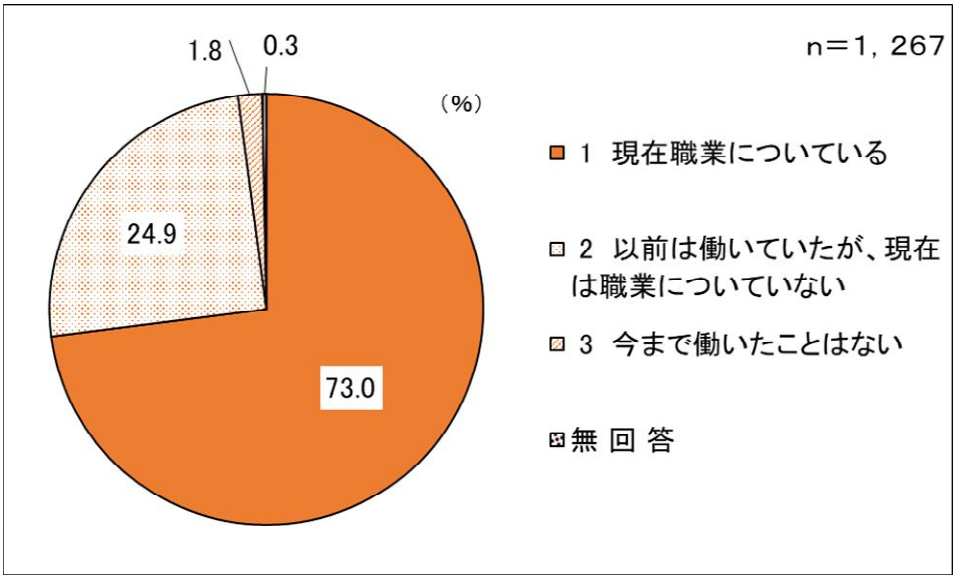


（※１）　フレックスタイム制とは、あらかじめ定めた総労働時間の範囲内において、日々の始業・終業時刻や労働時間の長さを労働者が自ら決めて働くことができる制度のこと

性別でみると、男性は「給与等の男女間格差をなくす」と「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が２６．３％と最も多く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの導入促進」が２５．６％となっている。一方、女性は「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が２７．７％と最も多く、次いで「男性が家事や育児を行うことに対する職場や周囲の理解と協力」が２７．４％となっており、男性の２１．９％を５．５ポイント上回っている。また、女性は「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」についてが１９．８％と男性の１３．３％を６．５ポイントも大きく上回っている。

問１３　あなたは、現在収入のある職業に就いていますか。
　　※パート・アルバイトを含みます。（１つだけ選択）

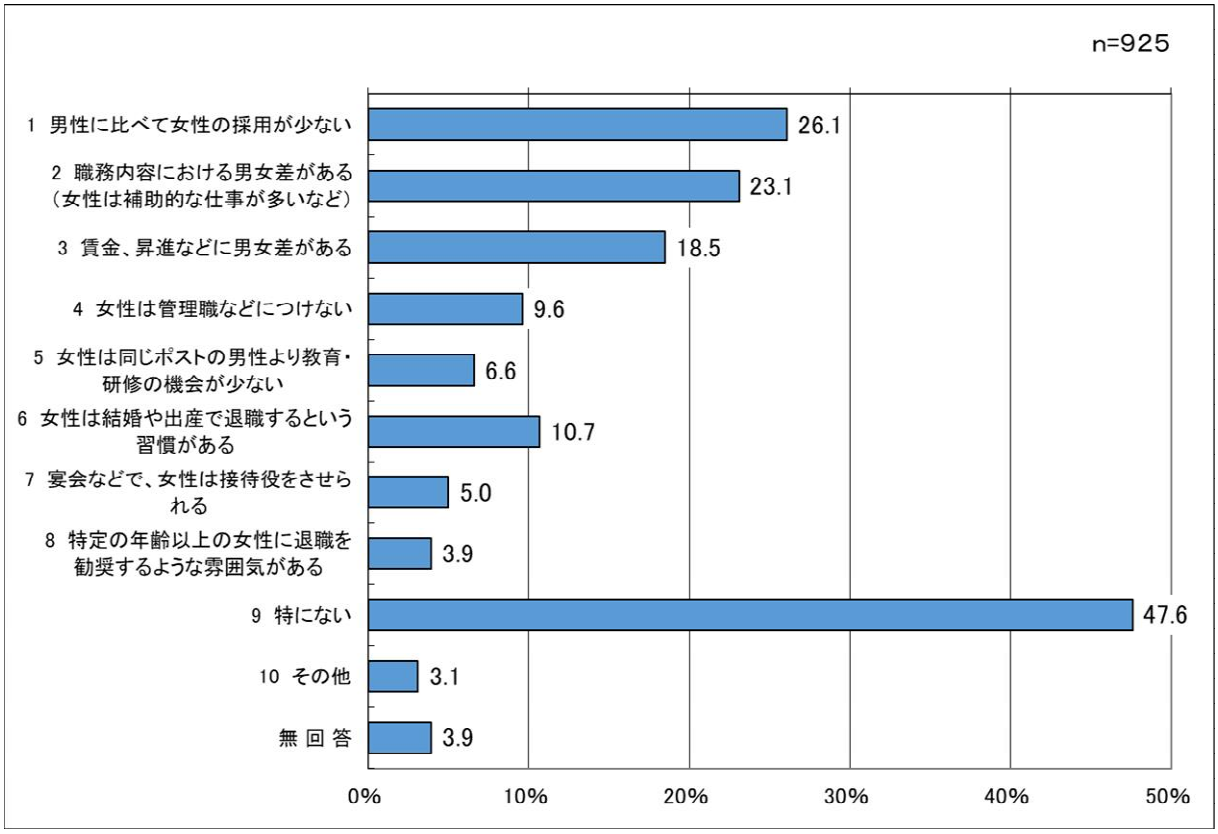
図表６－４　現在の就業状況



現在の就業状況について全体でみると、「現在職業についている」が７３．０％、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」が２４．９％であり、９７．９％が「就業経験あり」となっている。

問１４【問１３で「 １ 」と回答した方のみお答えください。】
あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、次のようなことがありますか。
（あてはまるものすべて選択）

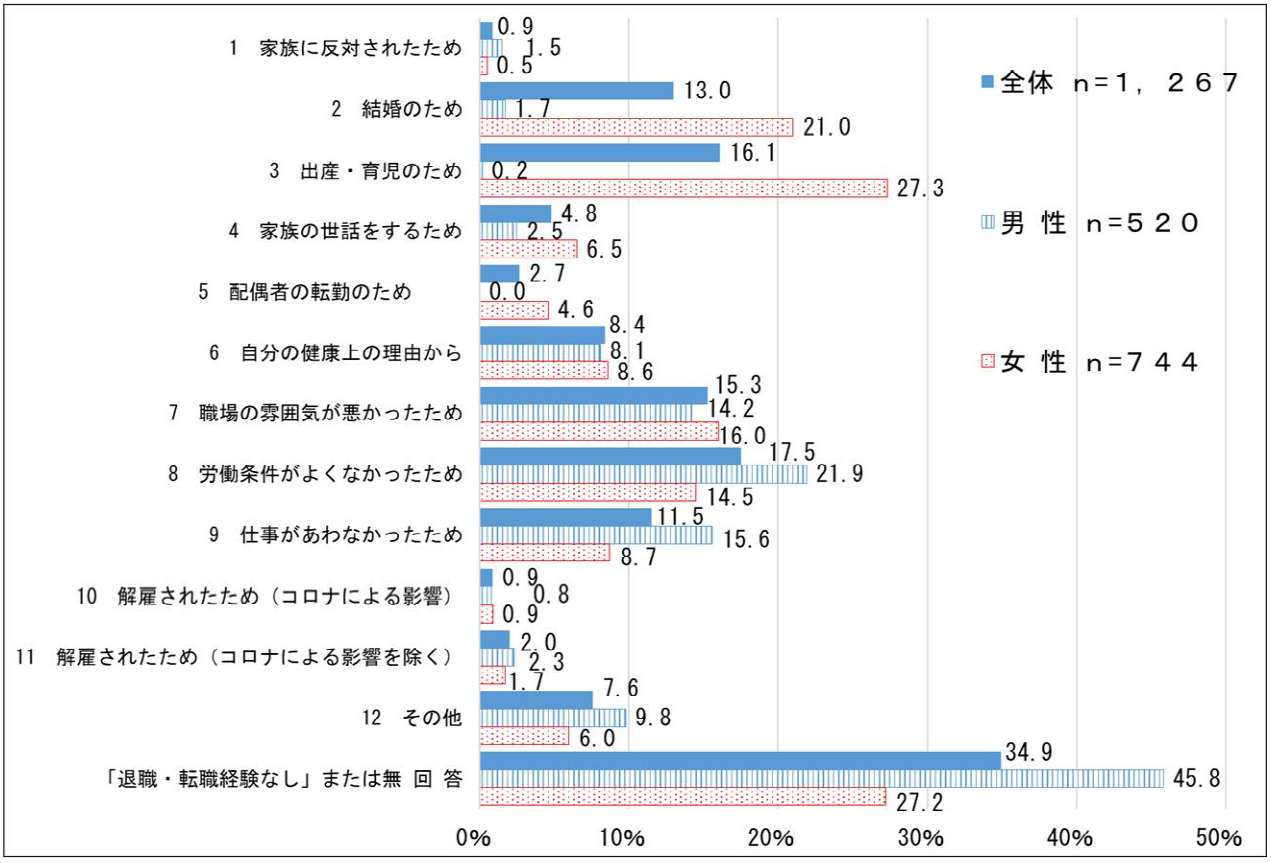
図表６－５　働く女性の職場環境



働く女性の職場環境については、「(男女で異なることは）特にない」（４７．６％）が最も多く、次いで「男性に比べて女性の採用が少ない」（２６．１％）、「職務内容における男女差がある（女性は補助的な仕事が多いなど）」（２３．１％)、「賃金、昇進などに男女差がある」（１８．５％)、「女性は結婚や出産で退職するという習慣がある」（１０．7％)、「女性は管理職などにつけない」（９．６％）などの順となっている。

問１５【今までに仕事をやめたり、転職したことがある方のみお答えください。】
退職・転職した理由は何ですか。（選択は２つまで）

図表６－６　退職・転職の理由



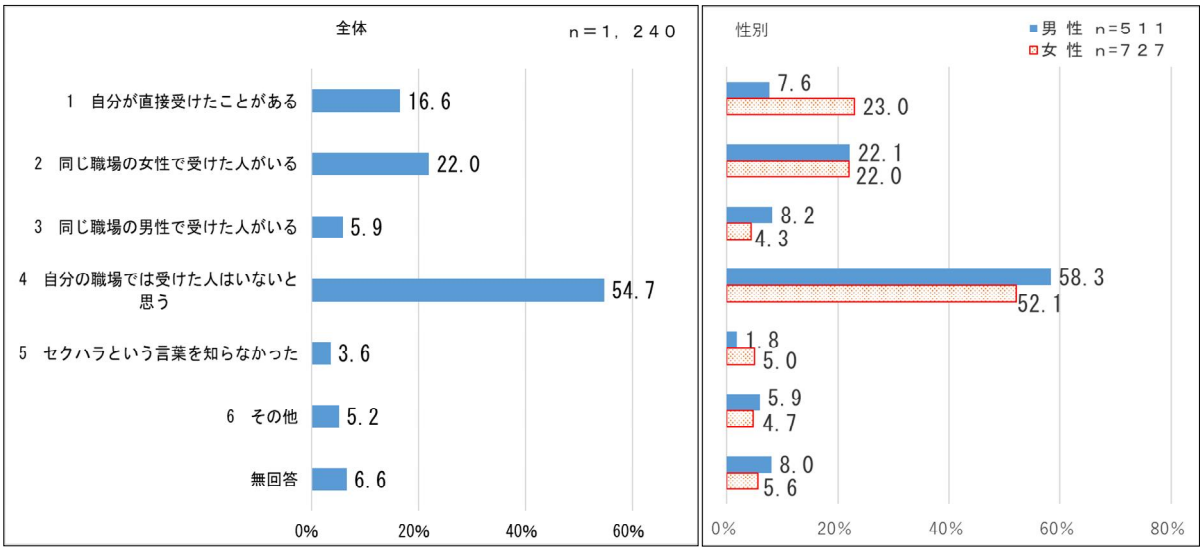
退職・転職の理由について全体でみると、「労働条件がよくなかった」（１７．５％）が最も多く、次いで「出産・育児のため」（１６．１％）、「職場の雰囲気が悪かったため」（１５．３％）などの順となっている。

性別でみると、男性は「労働条件がよくなかった」（２１．９％）や「仕事があわなかったため」（１５．６％）が上位にくるが、一方、女性は「出産・育児のため」（２７．３％）が最も多く、次いで「結婚のため」（２１．０％）などの順となっている。

7　人権について

問１６【現在、職業に就いている方または職業に就いたことのある方のみお答えください。】
　　職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ＝性的いやがらせ）が社会問題となっています。あなたの職場ではどうですか。またはどうでしたか。
（あてはまるものすべて選択）

図表７－１　セクシュアル・ハラスメントを受けた経験

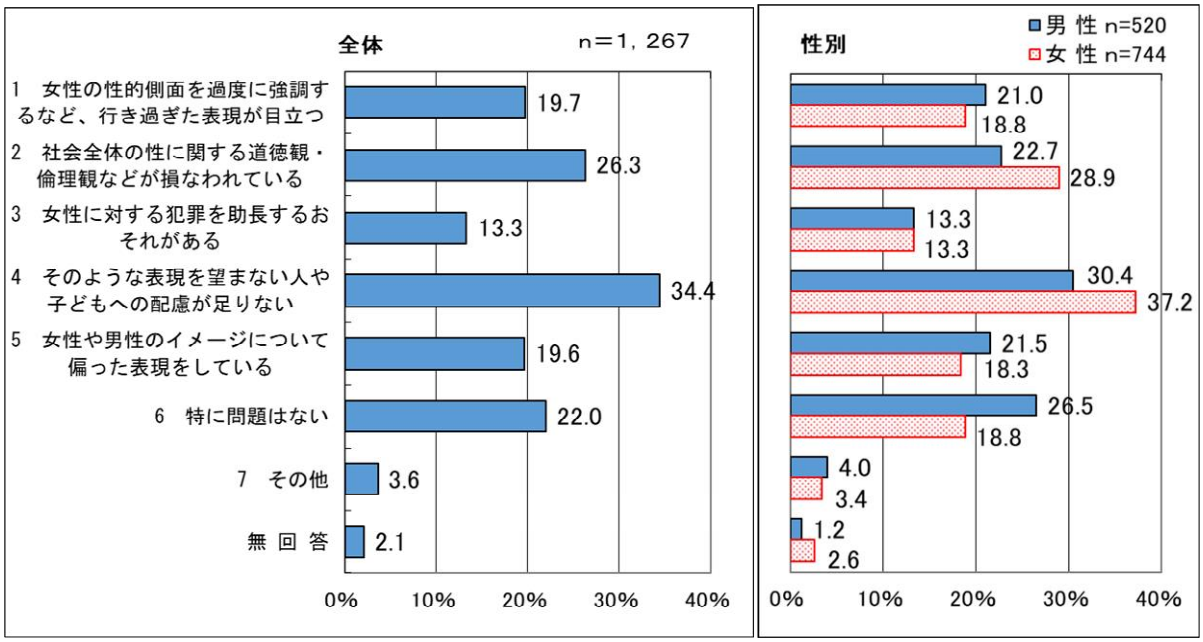


セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について全体でみると、「自分の職場では受けた人はいないと思う」（５４．７％）が最も多く、次いで「同じ職場の女性で受けた人がいる」（２２．０％）、「自分が直接受けたことがある」（１６．６％）などの順となっている。「同じ職場の女性で受けた人がいる」と「自分が直接受けたことがある」の合計は３８．６％となり、４割弱がセクシュアル・ハラスメントを受けたと答えている。

性別でみると、「自分が直接受けたことがある」という女性は２３．０％であり、男性の７．６％を１５．４ポイント上回っている。一 方、「同じ職場の男性で受けた人がいる」という男性は８．２％であり、女性の４．３％を３．９ポイント上回っている。

問１７　新聞・雑誌・テレビなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどうお考えですか。（選択は２つまで）

図表７－２　メディアの性・暴力表現への意見



メディアの性・暴力表現への意見について全体でみると、「そのような表現を望まない人や子どもへの配慮が足りない」（３４．４％）が最も多く、次いで「社会全体の性に関する道徳観・倫理観などが損なわれている」（２６．３％）、「特に問題はない」（２２．０％）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（１９．７％）、「女性や男性のイメージについて偏った表現をしている」（１９．６％）などの順となっている。

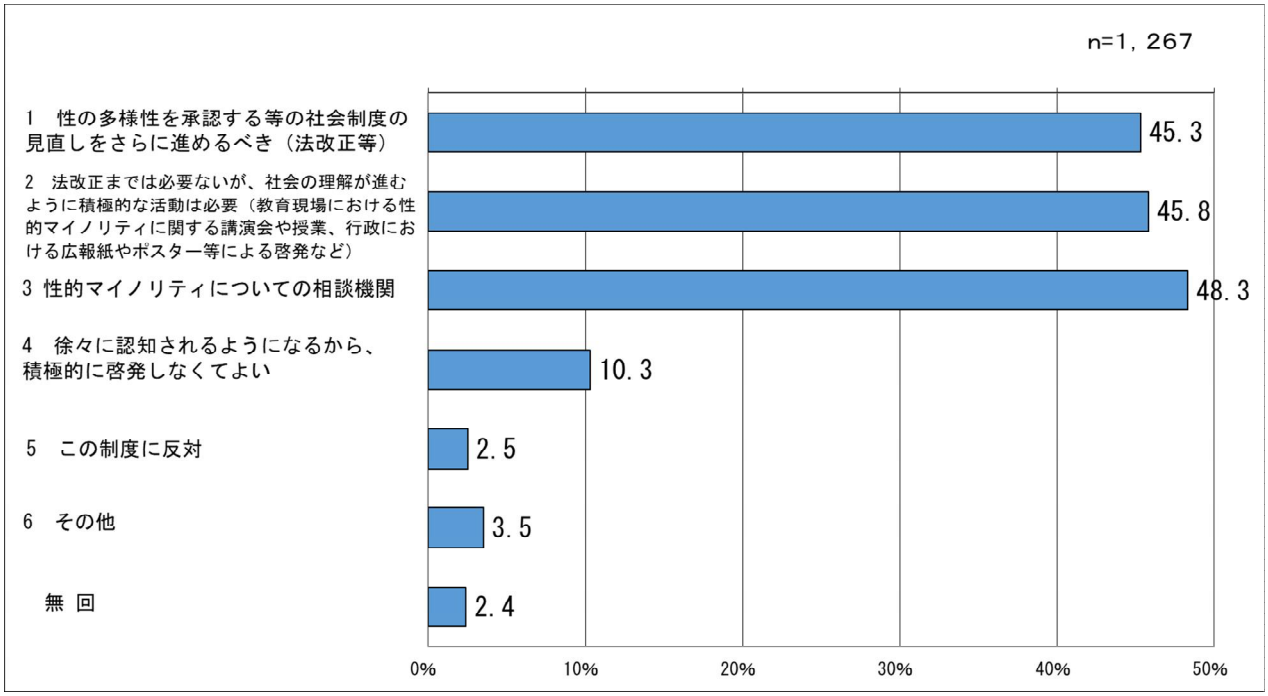
性別でみると、男女ともに「そのような表現を望まない人や子どもへの配慮が足りない」が最も多い。男性は「特に問題はない」（２６．５％）が２番目に多く、女性（１８．８％）を７．７ポイント上回っており、一方、女性は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観などが損なわれている」（２８．９％）が２番目に多く、男性（２２．７％）を６．２ポイント上回っている。

問１８　令和４年４月から、本市では性的マイノリティ（LGBTQ等）※3の人たちが暮らしやすい社会にするために、「熊谷市パートナーシップ宣誓制度※4」を開始しました。現在、多くの自治体でパートナーシップ（またはファミリーシップ）制度が導入・検討されています。あなたはどう考えますか。（あてはまるものすべて選択）

※３　性的マイノリティ（ＬＧＢＴＱ等）とは、生物学的な性（体の性）と性の自己意識（心の性）が一致しない人、恋愛感情などの性的な意識が同性や両性（男女両方）に向いている人などのこと。
Ｌ：レズビアン（女性の同性愛者）、Ｇ：ゲイ（男性の同性愛者）、Ｂ：バイセクシャル（両性愛者）、
Ｔ：トランスジェンダー（心と体の性が一致しない人）、Ｑ：クエスチョニング（自分のセクシュアリティを決められない、分からない人）。

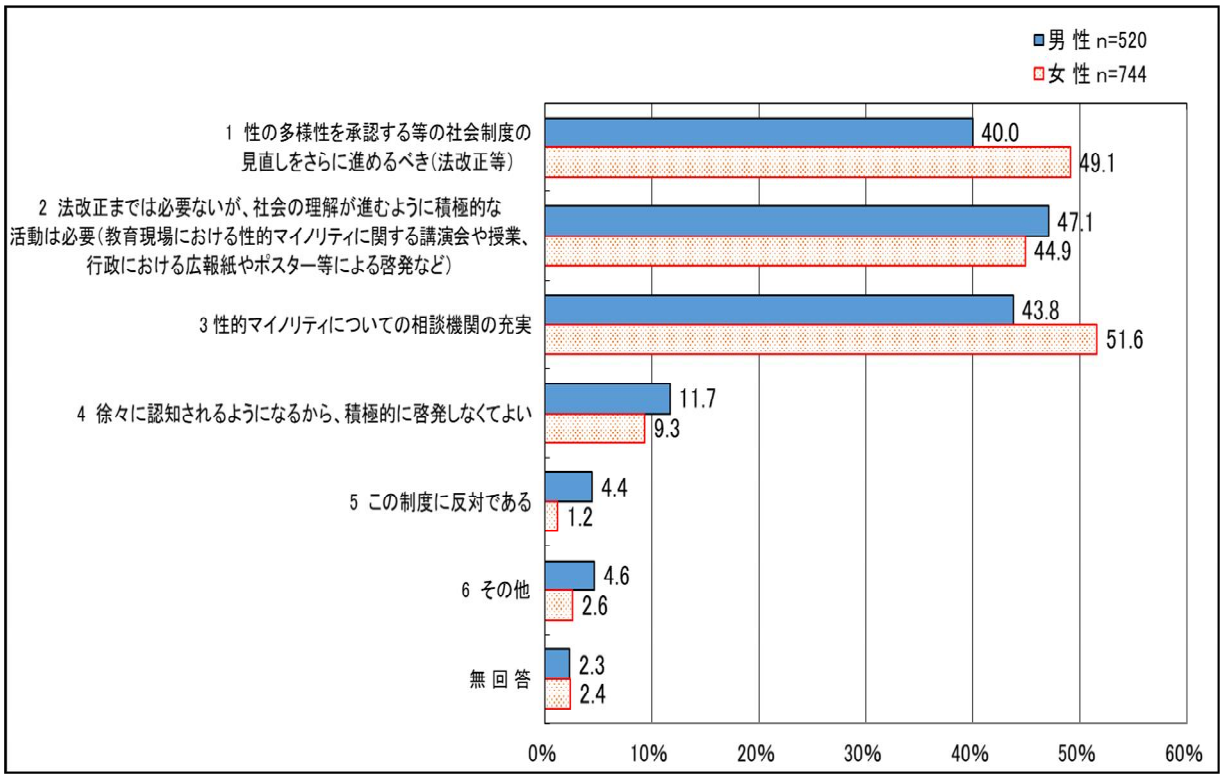
※４　熊谷市パートナーシップ宣誓制度とは、互いを人生のパートナーとして、相互の協力により継続的な共同生活を行い、または行うことを約束した性的少数者のカップルが、パートナーであることを市に宣誓し、市がその意思を尊重して、「宣誓証明書」・「宣誓証明カード」を交付する制度。

図表７－３－１　パートナーシップ（またはファミリーシップ）制度等への意見（全体）



パートナーシップ制度等への意見について全体でみると、「性的マイノリティについての相談機関の充実」（４８．３％）が最も多く、次いで「法改正までは必要ないが、社会の理解が進むように積極的な活動は必要（教育現場における性的マイノリティに関する講演会や授業、行政における広報紙やポスター等による啓発など）」（４５．８％）、「性の多様性を承認する等の社会制度の見直しをさらに進めるべき（法改正等）」（４５．３％）などの順となっている。

図表７－３－２　パートナーシップ（またはファミリーシップ）制度等への意見（性別）

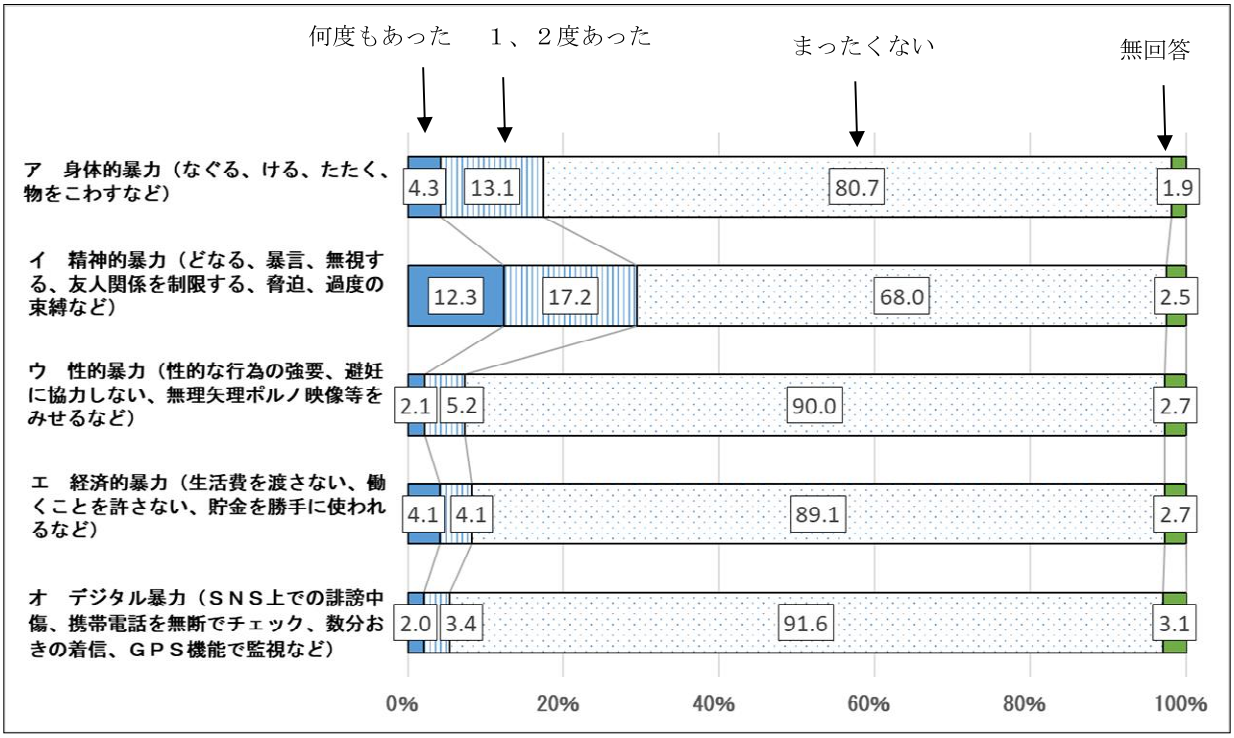


性別でみると、男性は「法改正までは必要ないが、社会の理解が進むように積極的な活動は必要（教育現場における性的マイノリティに関する講演会や授業、行政における広報紙やポスター等による啓発など)」（４７．１％）が最も高く、女性（４４．９％）を２．２ポイント上回っている。一方、女性は「性的マイノリティについての相談機関の充実」（５１．６％）が最も多く、男性（４３．８％）を７．８ポイント上回っている。

８　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について

問１９　あなたは、これまでに配偶者など（事実婚や別居中の夫婦、元配偶者のほかに、交際相手を含みます。）からア～オのような暴力を受けた経験がありますか。
（ア～オについて、それぞれ１つずつ選択）

図表８－１－１　配偶者などから暴力（ＤＶ）を受けた経験（全体）　　ｎ＝１，２６７

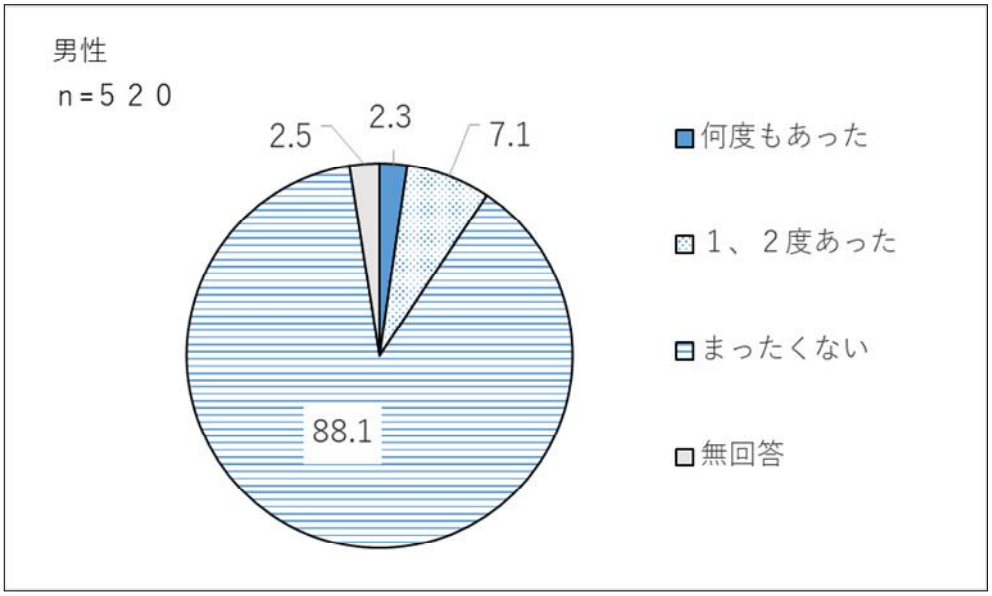


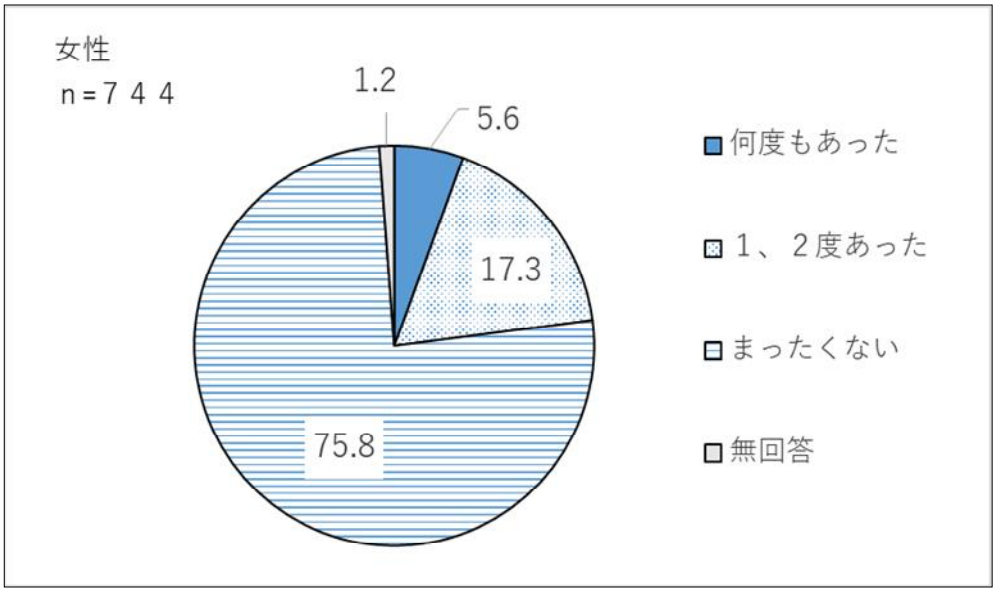
配偶者などから暴力（ＤＶ）を受けた経験について全体でみると、５項目すべてで『まったくない』が７割弱から９割強を占めている。

『暴力があった』の割合は、「精神的暴力」（２９．５％）が最も多く、次いで「身体的暴力」（１７．４％）、「経済的暴力」（８．２％）などの順となっている。

（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

図表８－１－２　配偶者などから暴力（ＤＶ）を受けた経験（暴力の種類/性別）
ア　身体的暴力（なぐる、ける、たたく、物をこわすなど）

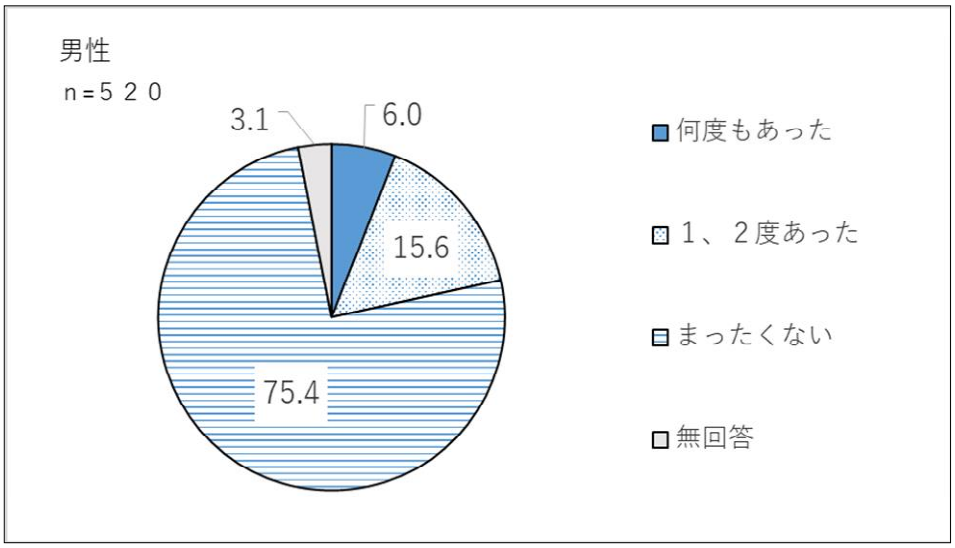


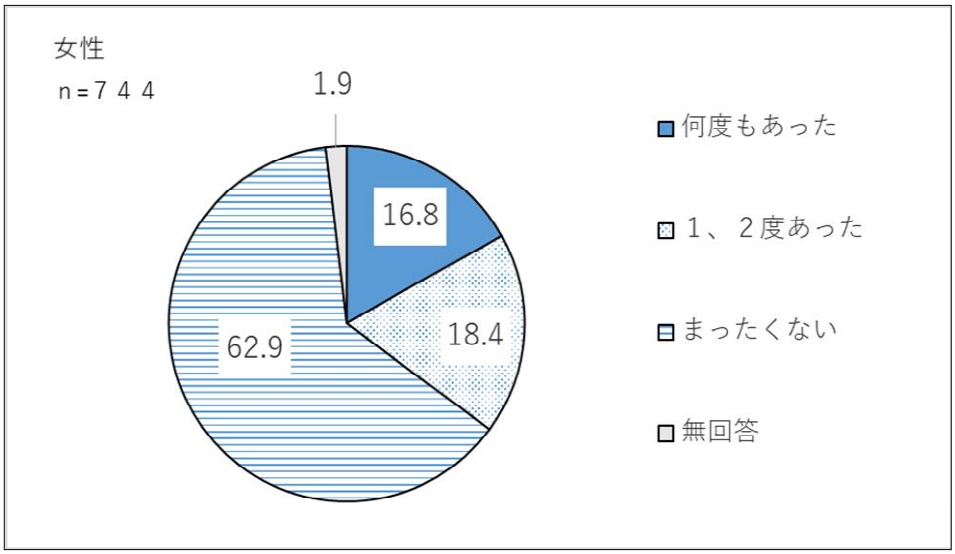


暴力の種類・性別でみると、「身体的暴力」について『暴力があった』は、女性（２２．９％）が男性（９．４％）を１３．５ポイント上回っている。

（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

図表８－１－３
イ　精神的暴力（どなる、暴言、無視する、友人関係を制限する、脅迫、過度の束縛など）

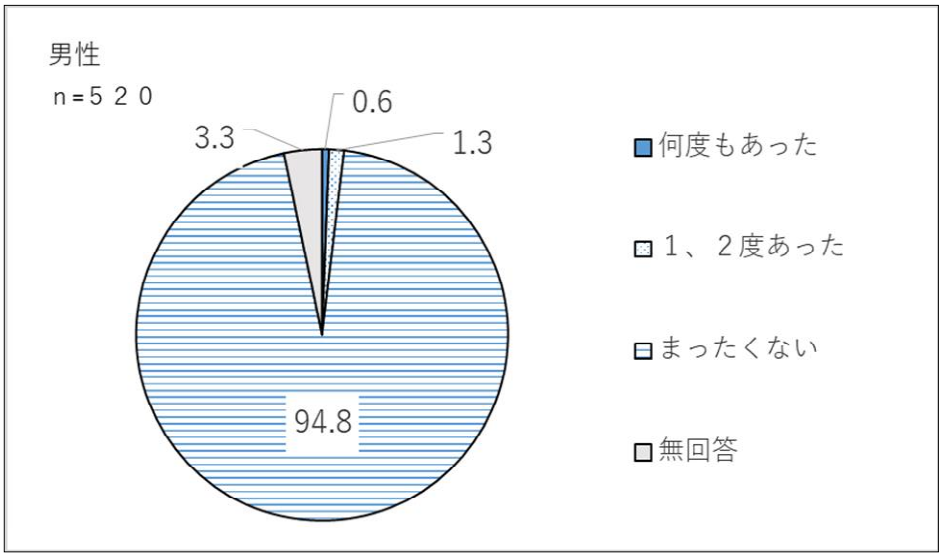


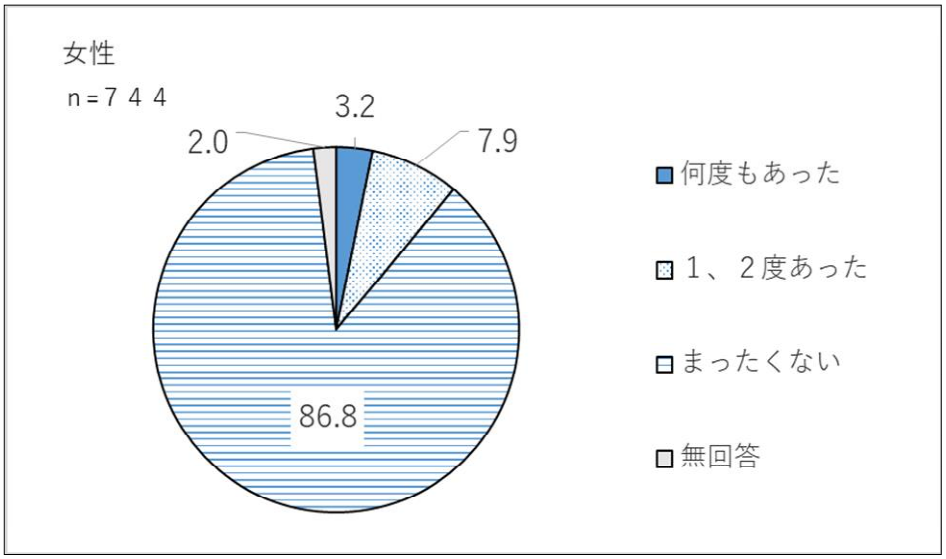


暴力の種類・性別でみると、「精神的暴力」について『暴力があった』は女性（３５．２％）が男性（２１．６％）を１３．６ポイント上回っている。

（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

図表８－１－４
ウ　性的暴力（性的な行為の強要、避妊に協力しない、無理矢理ポルノ映像等をみせるなど）

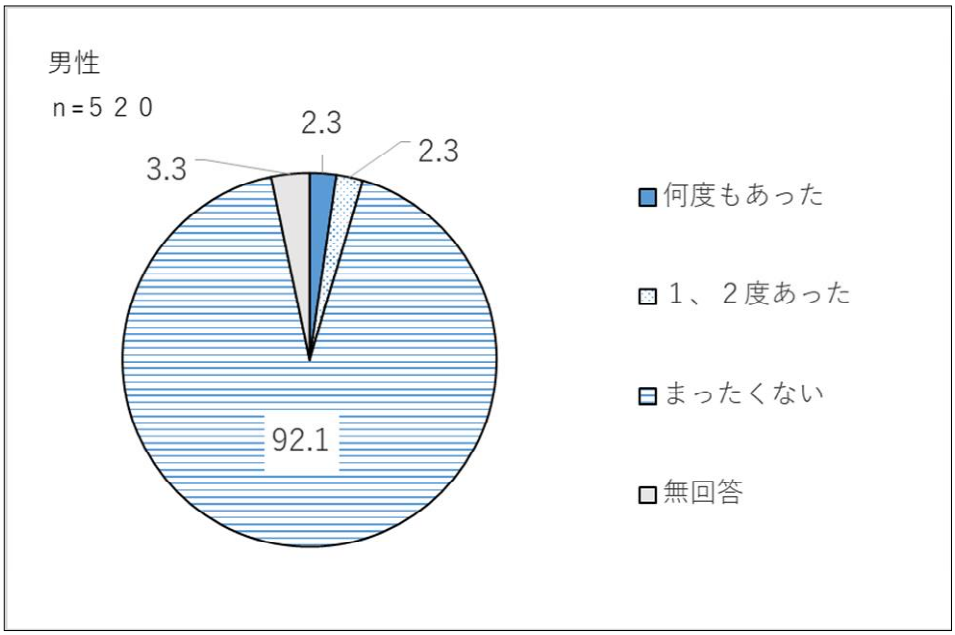


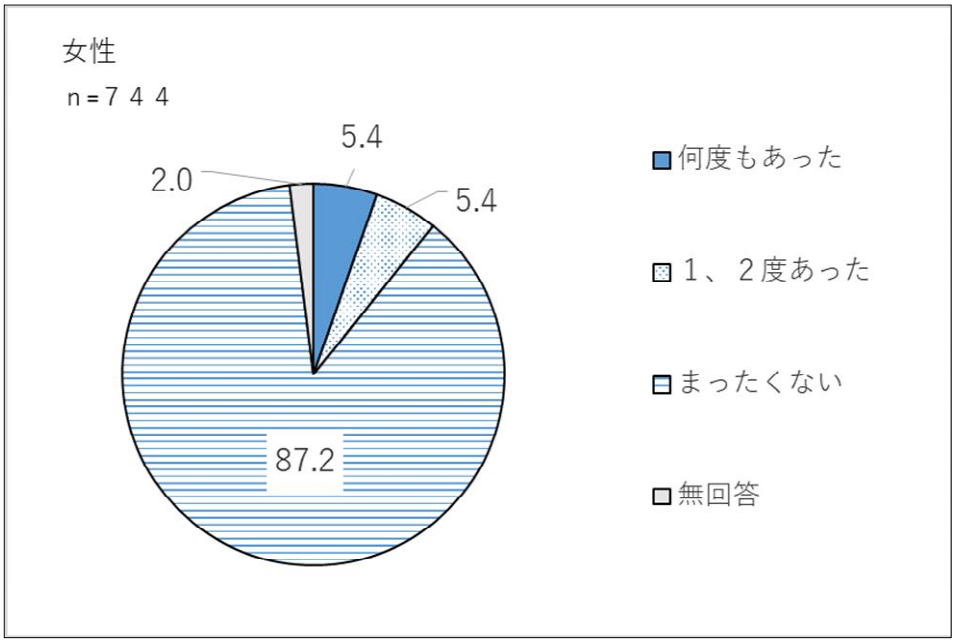


暴力の種類・性別でみると、「性的暴力」について『暴力があった』は女性（１１．１％）が男性（１．９％）を９．２ポイント上回っている。

（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

図表８－１－５
エ　経済的暴力（生活費を渡さない、働くことを許さない、貯金を勝手に使われるなど）

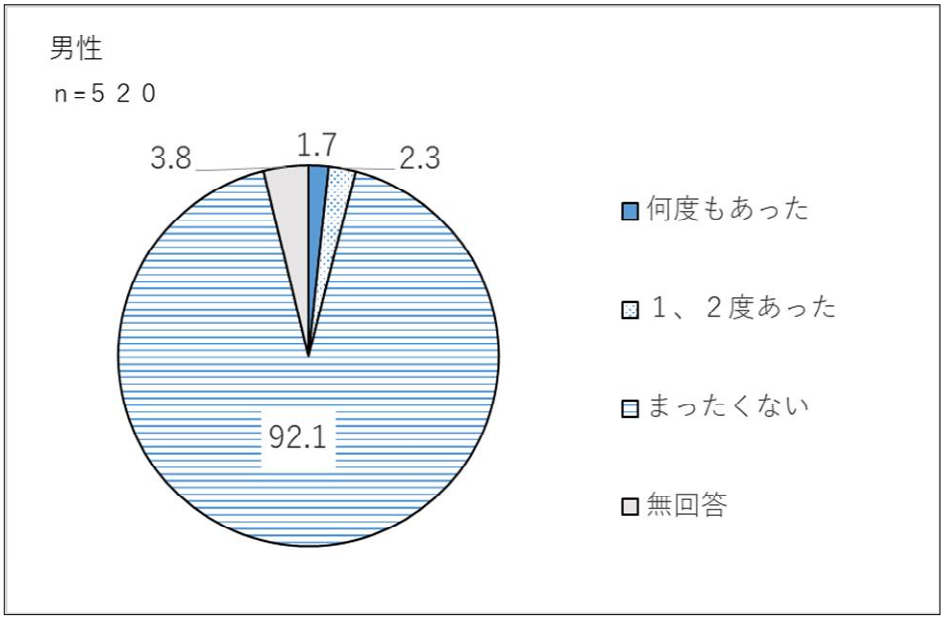


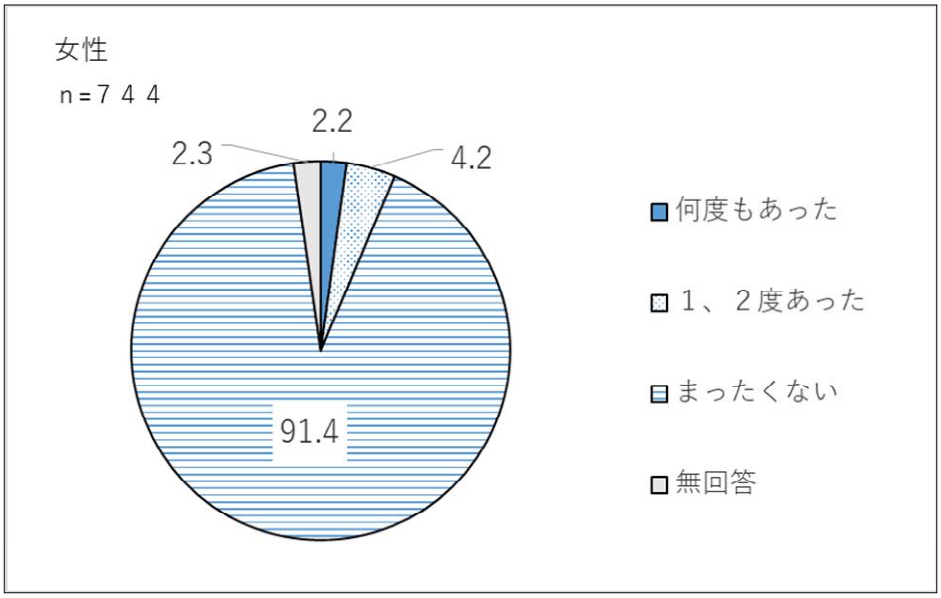


暴力の種類・性別でみると、「経済的暴力」について『暴力があった』は女性（１０．８％）が男性（４．６％）を６．２ポイント上回っている。

（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

図表８－１－６
オ　デジタル暴力（ＳＮＳ上での誹謗中傷、携帯電話を無断でチェック、数分おきの着信、ＧＰＳ機能で監視など）



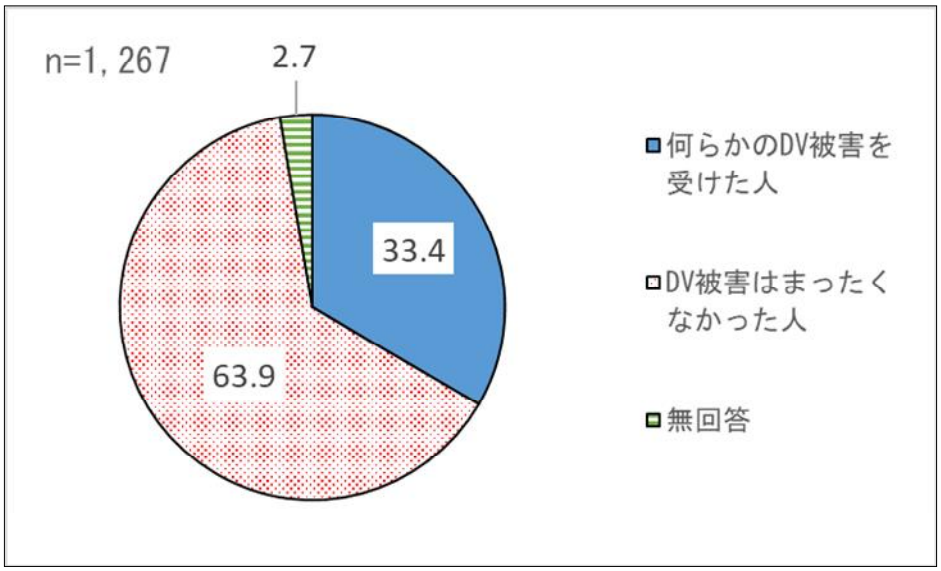


暴力の種類・性別でみると、「デジタル暴力」について『暴力があった』は女性（６．４％）が男性（４．０％）を２．４ポイント上回っている。

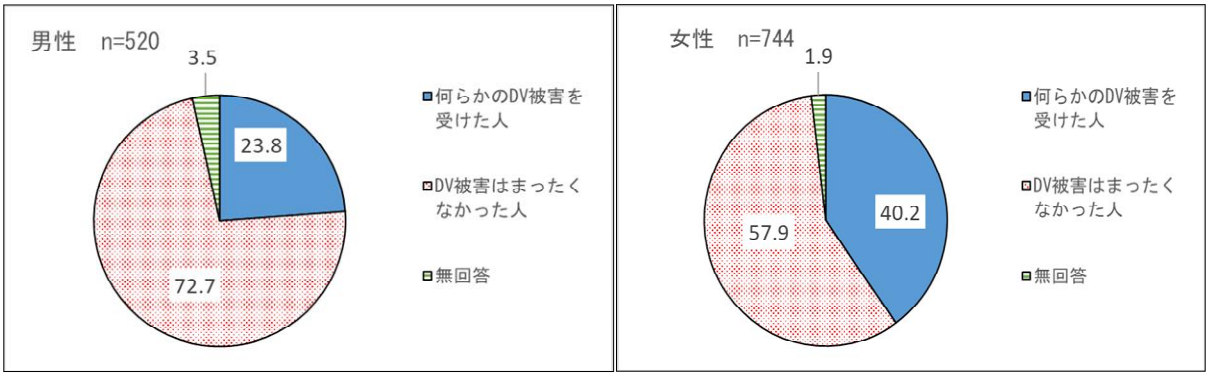
（※）『暴力があった』は「何度もあった」「１、２度あった」の合計

問２０【問１９で「何度もあった」「１、２度あった」と回答した方のみお答えください。】
暴力を受けたことについて、どなたかに相談しましたか。（１つだけ選択）

図表８－２－１
「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「デジタル暴力」のうち、何らかのＤＶ被害経験の有無（全体）



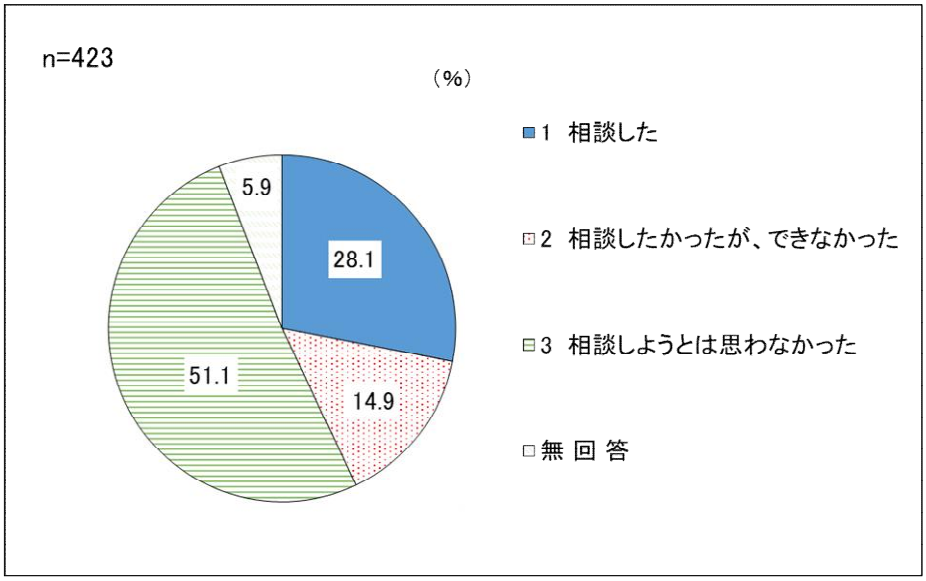
図表８－２－２
「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「デジタル暴力」のうち、何らかのＤＶ被害経験の有無（性別）



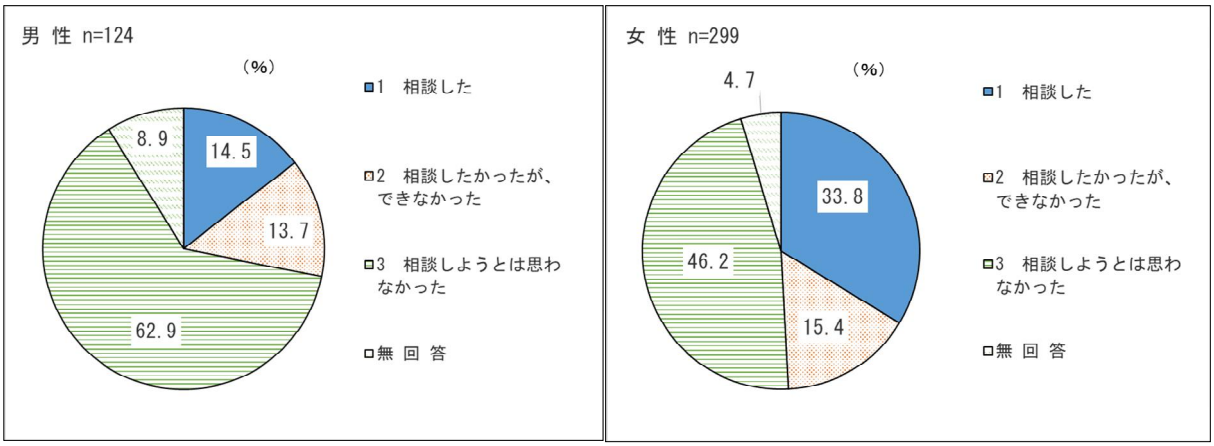
「身体的暴力」「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」「デジタル暴力」のうち、何らかのＤＶ被害経験の有無について全体でみると、「何らかのＤＶ被害を受けた人」は３３．４％となっている。

性別でみると、「何らかのＤＶ被害を受けた人」の女性（４０．２％）は男性（２３．８％）を１６．４ポイント上回っている。

図表８－２－３　ＤＶを受けた際の相談の有無（全体）



図表８－２－４　ＤＶを受けた際の相談の有無（性別）

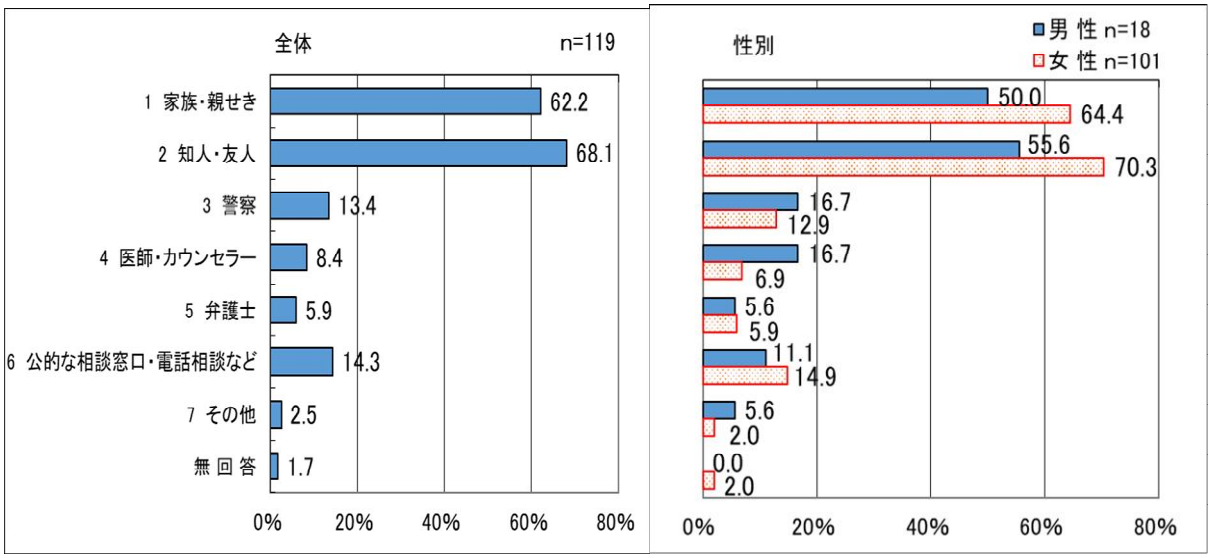


ＤＶを受けた際の相談の有無について全体でみると、「相談しようとは思わなかった」（５１．１%）が最も多く、次いで「相談した」（２８．１%)、「相談したかったが、できなかった」（１４．９%）の順となっている。

性別でみると、「相談した」の女性（３３．８%）は男性（１４．５%）を１９．３ポイント上回っている。一方、「相談しようとは思わなかった」の男性（６２．９%）は女性（４６．２%）を１６．７ポイント上回っている。

問２１【問２０で「１」と回答した方のみお答えください。】
どなたに相談しましたか。（あてはまるものすべて選択）

図表８－３　ＤＶ被害者の相談相手

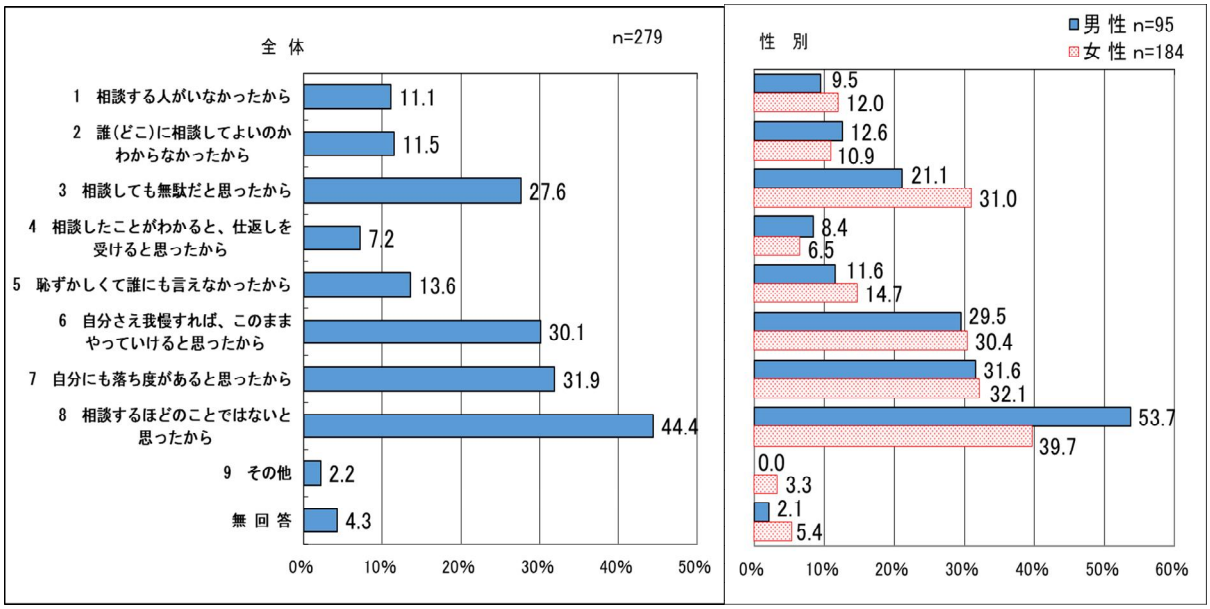


ＤＶ被害者の相談相手について全体でみると、「知人・友人」（６８．１％）が最も多く、次いで「家族・親せき」（６２．２％）、「公的な相談窓口・電話相談など」（１４．３％）、「警察」（１３．４％）、「医師・カウンセラー」（８．４％）などの順となっている。

性別でみると、男女ともに「知人・友人」「家族・親せき」が５割以上であり、「公的な相談窓口・電話相談など」「警察」「医師・カウンセラー」は２割未満となっている。

問２２【問２０で「２」または「３」と回答した方のみお答えください。】
どなたにも相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべて選択）

図表８－４　ＤＶ被害を相談しなかった理由



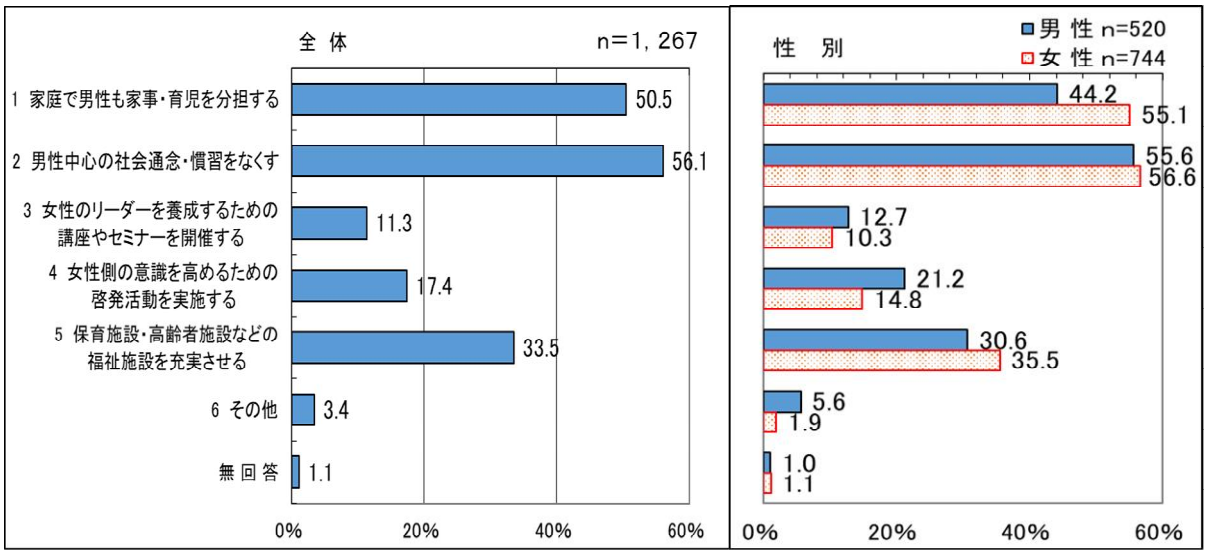
「相談したかったが、できなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答した人にその理由を聞いたところ、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」（４４．４％）が最も多く、次いで「自分にも落ち度があると思ったから」（３１．９％）、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」（３０．１％）、「相談しても無駄だと思ったから」（２７．６％）などの順となっている。

性別でみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、男性（５３．７％）が女性（３９．７％）を１４ポイント上回っている。男性は、次いで「自分にも落ち度があると思ったから」（３１．６％）、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」（２９．５％）などの順となっている。一方、女性の２番目に多い項目は、男性と同じく「自分にも落ち度があると思ったから」（３２．１％）となっているが、３番目に多い項目は「相談しても無駄だと思ったから」（３１．０％）となり、男性（２１．１％）を９．９ポイント上回っている。

９　社会参画について

問２３　行政や企業の管理職・審議会委員・自治会・ＰＴＡなど政策・方針を決定する場に女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（選択は２つまで）

図表９－１　政策・方針を決定する場へ女性が参画していくために必要なこと

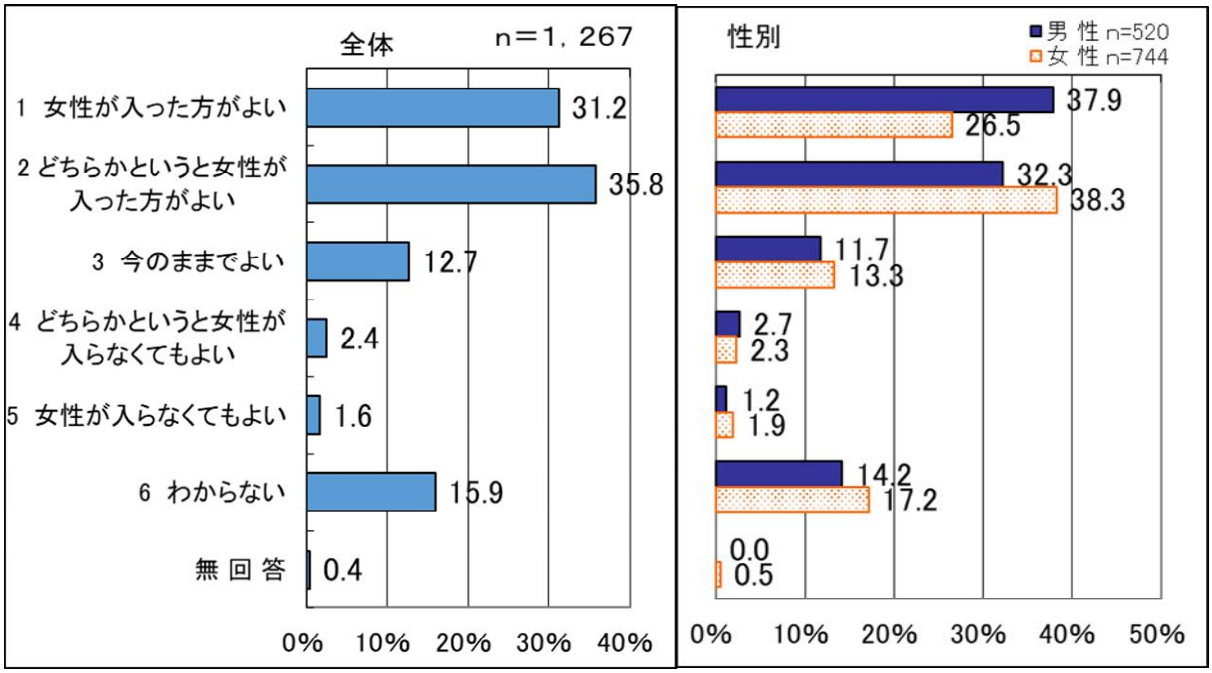


政策・方針を決定する場へ女性が参画していくために必要なことについて全体でみると、「男性中心の社会通念・習慣をなくす」（５６．１％）が最も多く、次いで「家庭で男性も家事・育児を分担する」（５０．５％）、「保育施設・高齢者施設などの福祉施設を充実させる」（３３．５％）などの順となっている。

性別でみると、男女ともに項目別の順位は同じだが、男性は４位の「女性側の意識を高めるための啓発活動を実施する」（２１．２％）の割合が多く、女性（１４．８％）を６．４ポイント上回っている。一方、女性は２位の「家庭で男性も家事・育児を分担する」（５５．１％）の割合が多く、男性（４４．２％）を１０．９ポイント上回っている。

問２４　自主防災組織等におけるリーダーや委員等に女性の割合が少ないことについてどう思いますか？（１つだけ選択）

図表９－２　自主防災組織等への女性の登用について



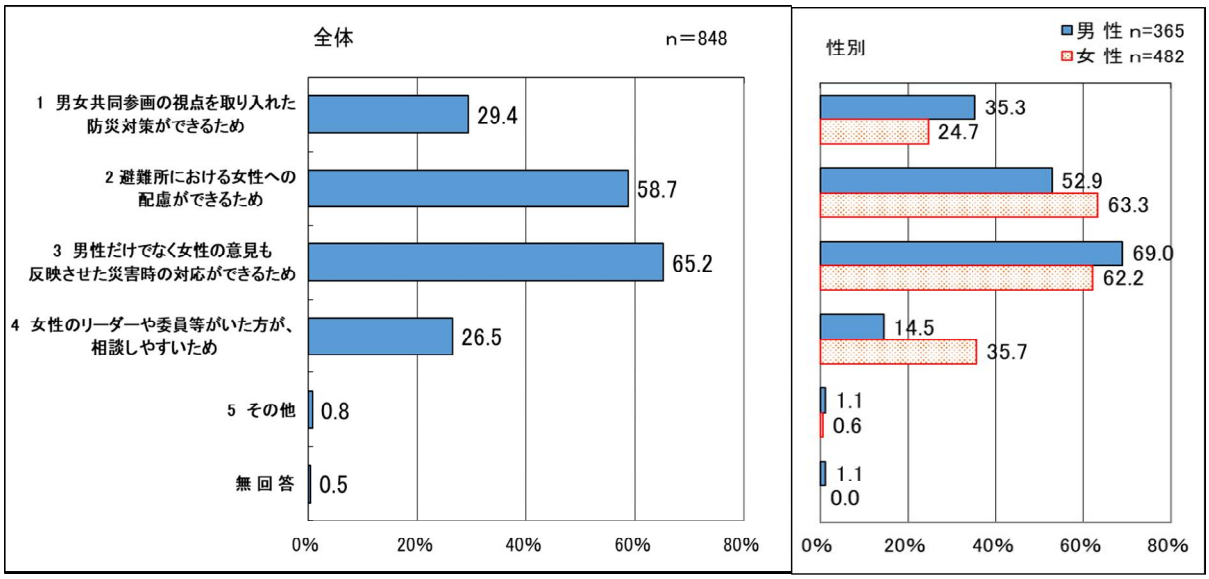
自主防災組織等への女性の登用について全体でみると、「どちらかというと女性が入った方がよい」が３５．８％と最も多く、次いで「女性が入った方がよい」が３１．２％となり、合わせると全体の７割弱となっている。一方、「今のままでよい」は１２．７％、「どちらかというと女性が入らなくてもよい」は２．４％、「女性が入らなくてもよい」は１．６％といずれも低い割合となっている。

性別でみると、男性は「女性が入った方がよい」（３７．９％）が最も多く、女性（２６．５％）を１１．４ポイント上回っている。一方、女性は「どちらかというと女性が入った方がよい」（３８．３％）が最も多く、男性（３２．３％）を６ポイント上回っている。

「今のままでよい」「どちらかというと女性が入らなくてもよい」「女性が入らなくてもよい」については、性別による大きな傾向の違いはみられない。

問２５【問２４で「 １ 」または「 ２ 」と回答した方のみお答えください。】
リーダーや委員等に女性が入った方がよいと思う理由は何ですか？
（選択は２つまで）

図表９－３　リーダーや委員等に女性が入った方がよい理由

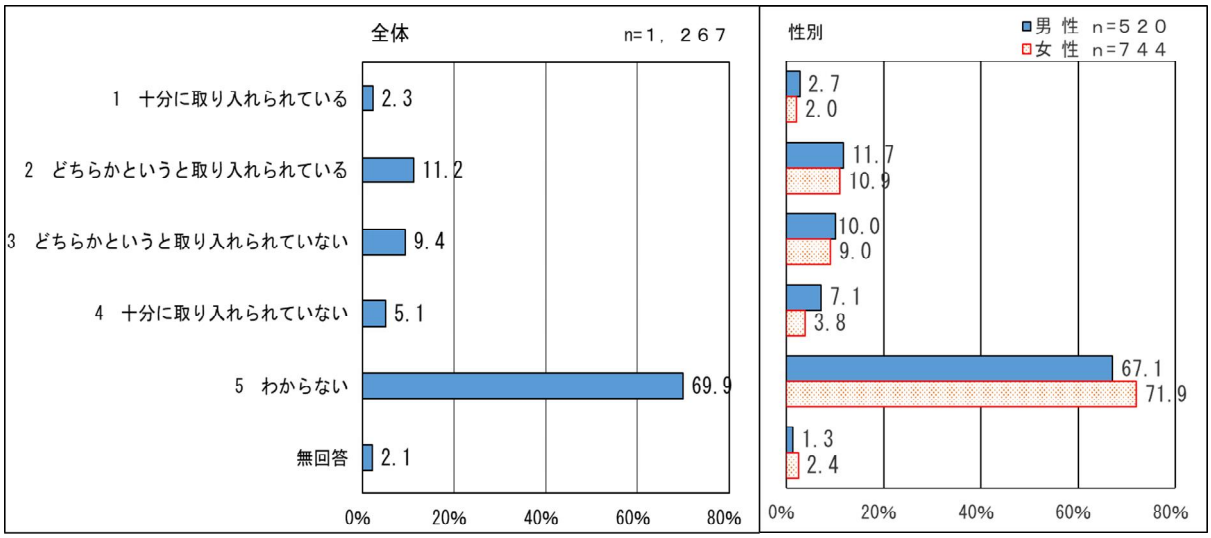


リーダーや委員等に女性が入った方がよい理由について全体でみると、「男性だけでなく女性の意見も反映させた災害時の対応ができるため」（６５．２％）が最も多く、次いで「避難所における女性への配慮ができるため」（５８．７％）、「男女共同参画の視点を取り入れた防災対策ができるため」（２９．４％）などの順となっている。

性別でみると、男性は全体の順位と同じで「男性だけでなく女性の意見も反映させた災害時の対応ができるため」（６９．０％）が最も多く、女性（６２．２％）を６．８ポイント上回っている。一方、女性は「避難所における女性への配慮ができるため」（６３．３％）が最も多く、男性（５２．９％）を１０．４ポイント上回っている。また、全体で４番目に割合が多い項目の「女性のリーダーや委員等がいた方が、相談しやすいため」の女性の割合が多く、女性（３５．７％）が男性（１４．５％）を２１．２ポイント上回っている。

問２６　熊谷市の防災対策や避難所運営等において、男女共同参画の視点が取り入れられているると思いますか？（１つだけ選択）

図表９－４　防災対策や避難所運営等における男女共同参画の視点



防災対策や避難所運営等における男女共同参画の視点について全体でみると、「わからない」が６９．９％と最も多く、７割弱となっている。次いで「どちらかというと取り入れられている」は１１．２％であり、「十分に取り入れられている」（２．３％）と合わせると１３．５％である。「どちらかというと取り入れられていない」（９．４％）と「十分に取り入れられていない」（５．１％）は合わせると１４．５％であり、『取り入れられている』と『取り入れられていない』の割合はほぼ同じ割合になっている。

性別による大きな傾向の違いはみられない。

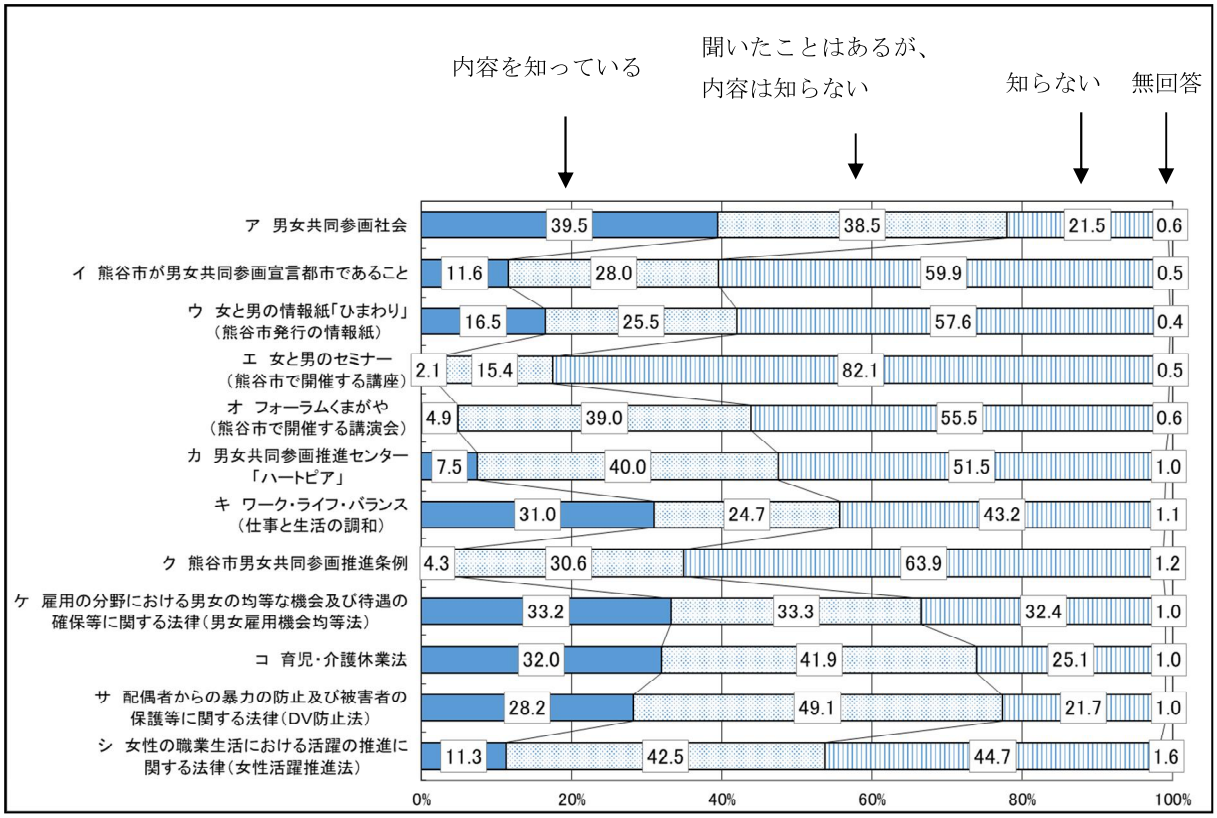
（※）『取り入れられている』は、「十分に取り入れられている」「どちらかというと取り入れられている」の合計
『取り入れられていない』は、「十分に取り入れられていない」「どちらかというと取り入れられていない」の合計

１０　男女共同参画の推進について

問２７　次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。
（ア～シについて、それぞれ１つずつ選択）

図表１０－１－１　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（全体）

ｎ＝１，２６７



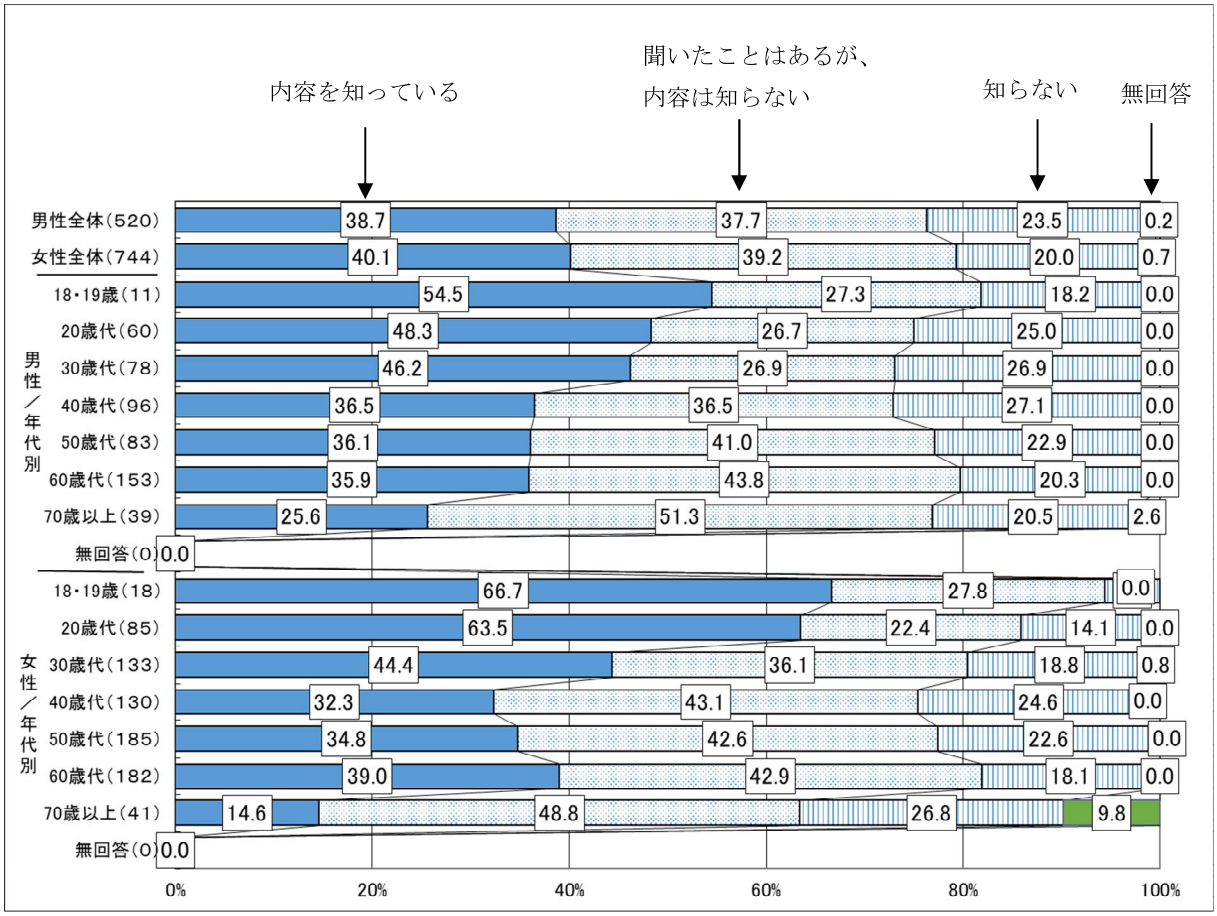
男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度について全体でみると、『知っている』は「男女共同参画社会」（７８．０％）が最も多く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（ＤＶ防止法）」（７７．３％）、「育児・介護休業法」（７３．９％）、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」（６６．５％）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（５５．７％）、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」（５３．８％）などの順となっている。

「熊谷市が男女共同参画宣言都市であること」「女と男の情報紙『ひまわり』（熊谷市発行の情報紙）」「女と男のセミナー（熊谷市で開催する講座）」「フォーラムくまがや（熊谷市で開催する講演会）」「男女共同参画推進センター“ハートピア”」「熊谷市男女共同参画推進条例」は、『知っている』が５割未満となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「ア 男女共同参画社会」

図表１０－１－２　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



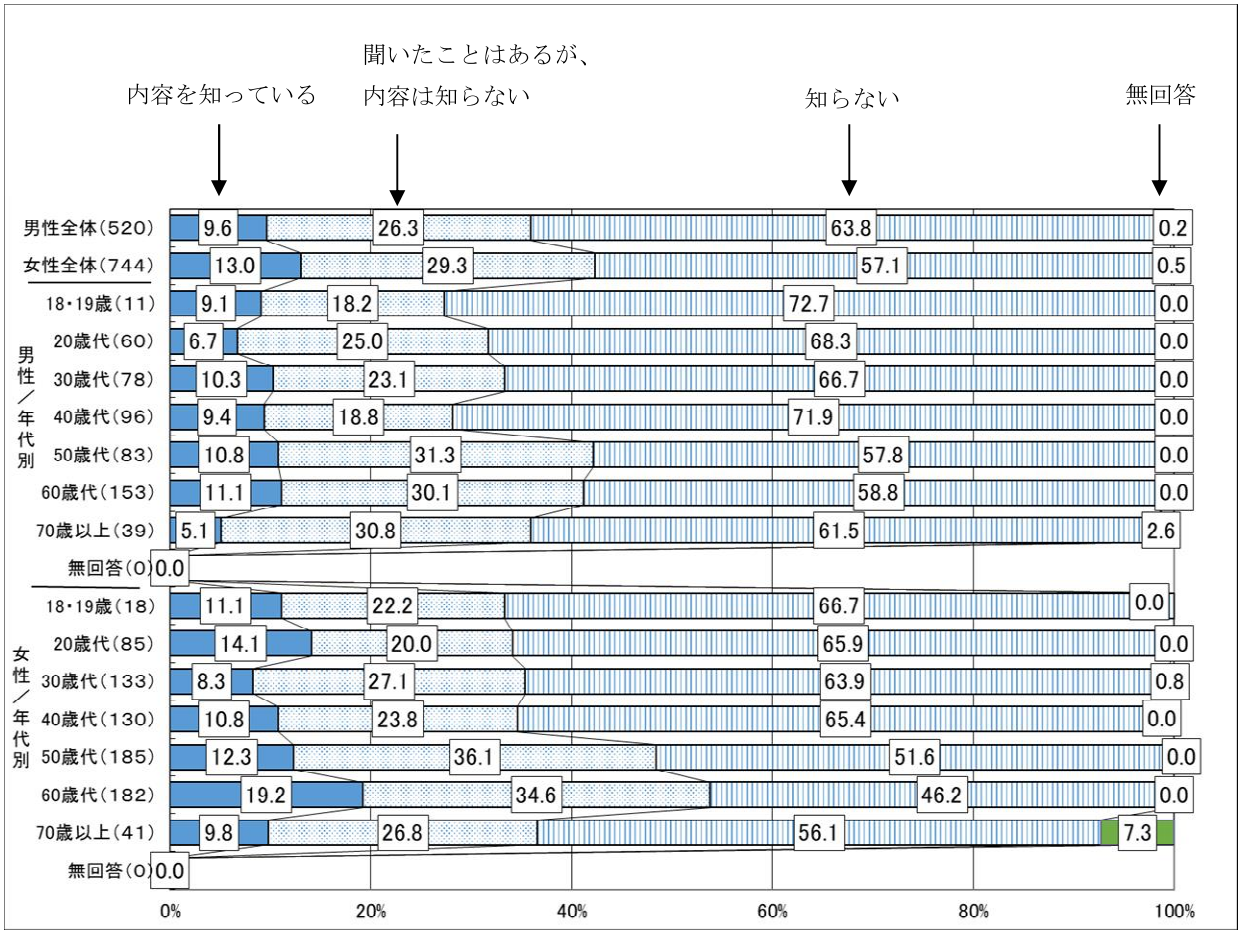
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「男女共同参画社会」ということばの周知度を性・年代別でみると、女性７０歳以上を除き、男女ともにすべての年代で『知っている』が７割を超えている。女性７０歳以上は『知っている』割合が最も少なく、６３．４％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「イ　熊谷市が男女共同参画宣言都市であること」

図表１０－１－３　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



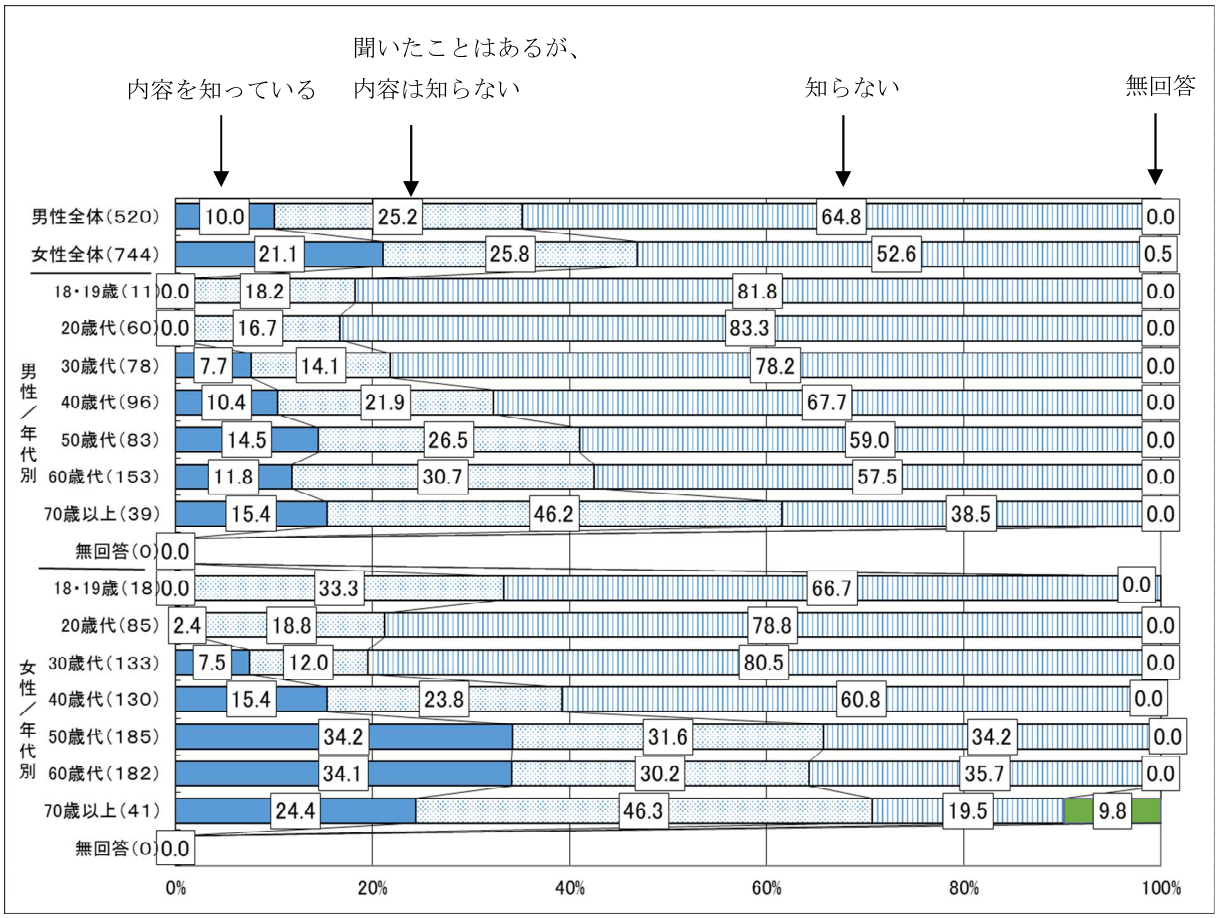
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「熊谷市が男女共同参画宣言都市であること」の周知度を性・年代別でみると、女性６０歳代を除き、男女ともにすべての年代で『知らない』が５割を超えている。『知っている』は女性６０歳代が最も多く、５３．８％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「ウ　女（ひと）と男（ひと）の情報紙『ひまわり』（熊谷市発行の情報紙）」

図表１０－１－４　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



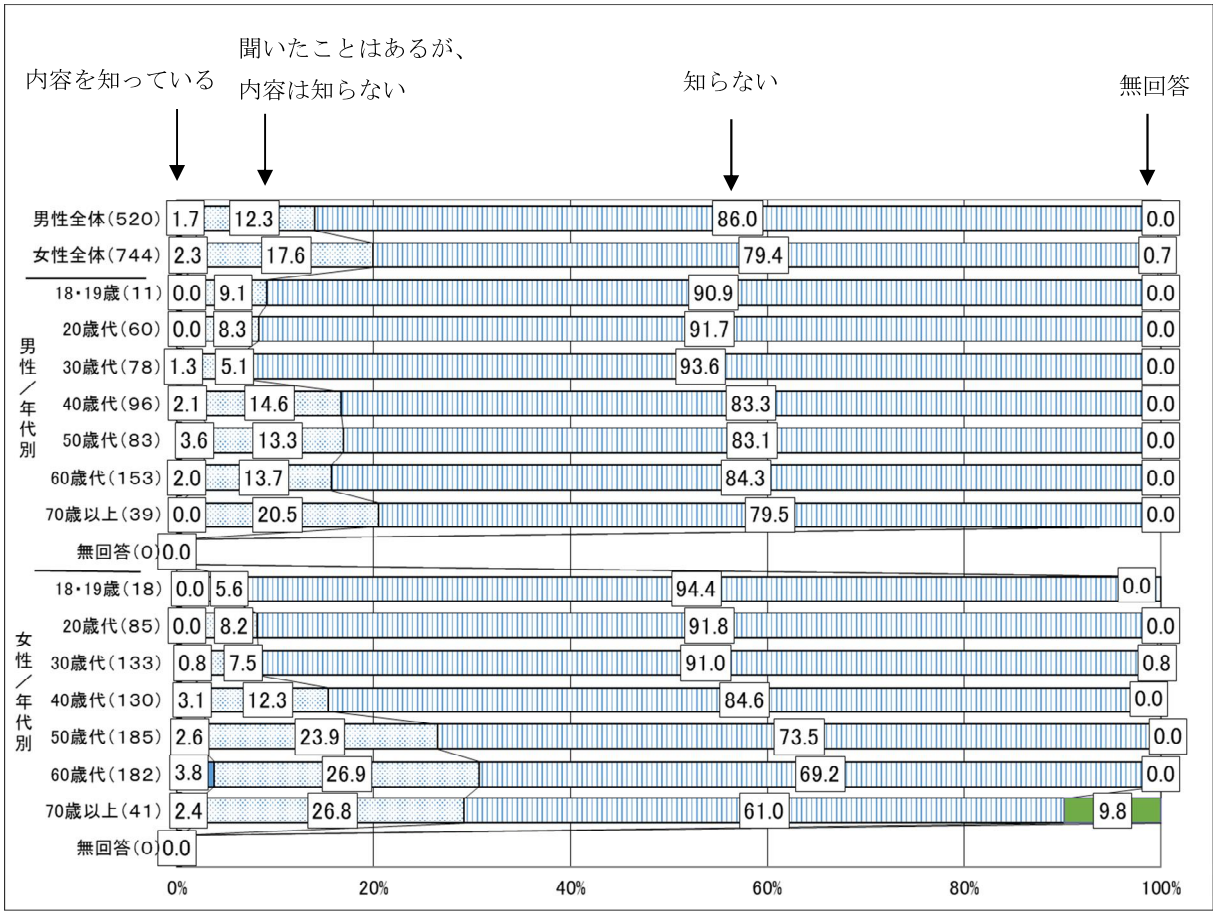
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「女（ひと）と男（ひと）の情報紙『ひまわり』（熊谷市発行の情報紙）」の周知度を性・年代別でみると、男女ともに年代が上がるにつれ『知っている』割合が増加する傾向にあり、特に、女性７０歳以上では、７０．７％と最も高くなっている。一方、若年層は『知っている』割合が少なく、特に男性２０歳代では、１６．７％と最も低くなっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「エ　女(ひと)と男(ひと)のセミナー（熊谷市で開催する講座)」

図表１０－１－５　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



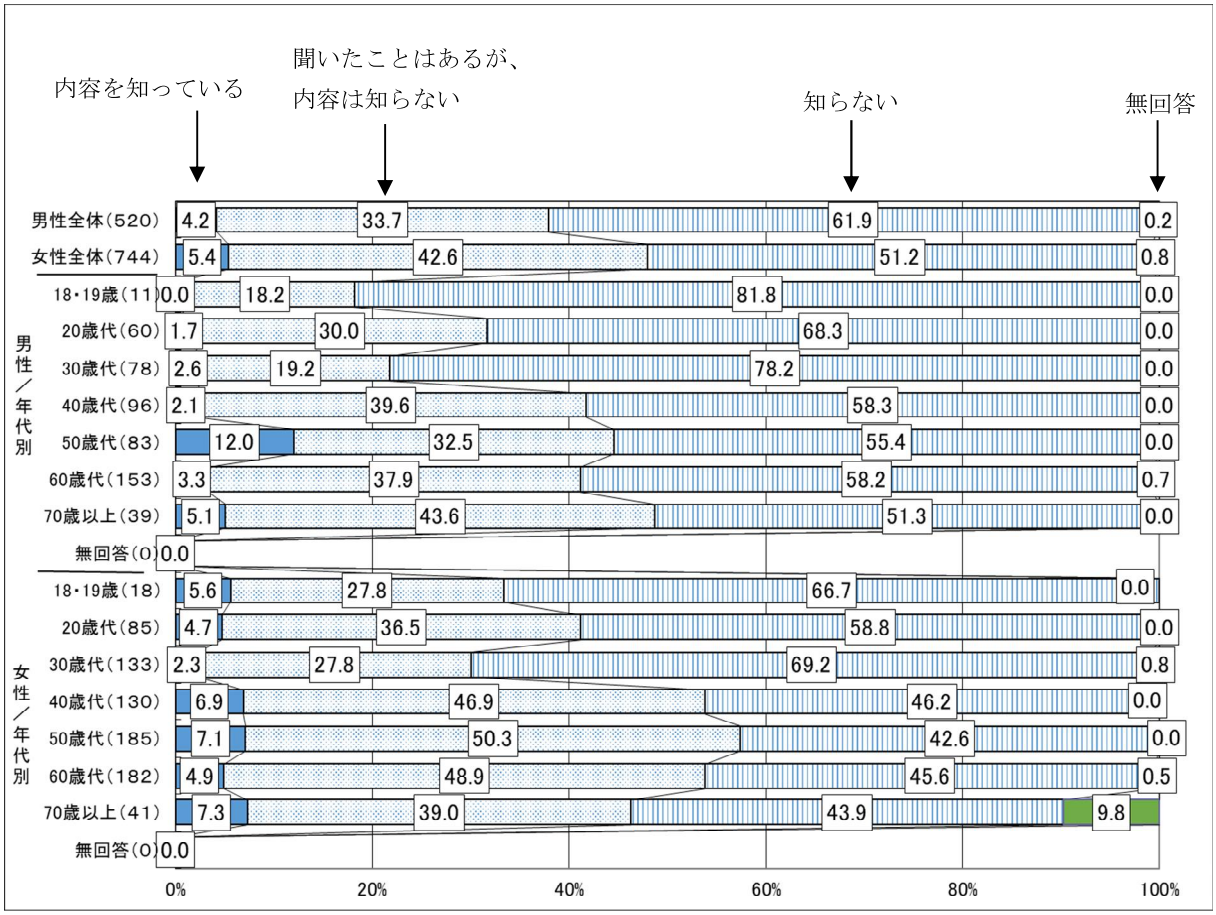
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「女(ひと)と男(ひと)のセミナー（熊谷市で開催する講座)」の周知度を性・年代別でみると、女性の６０～７０歳代を除き、男女ともにすべての年代で『知らない』が７割を超えている。特に、若年層の２０～３０歳代は、男女ともに『知らない』が９割を超えている。一方、女性６０～７０歳以上の『知っている』割合が男性の同年代及び他の年代と比べて多く、女性６０歳代は３０．７％、女性７０歳以上は２９．２％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「オ　フォーラムくまがや（熊谷市で開催する講演会）」

図表１０－１－６　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



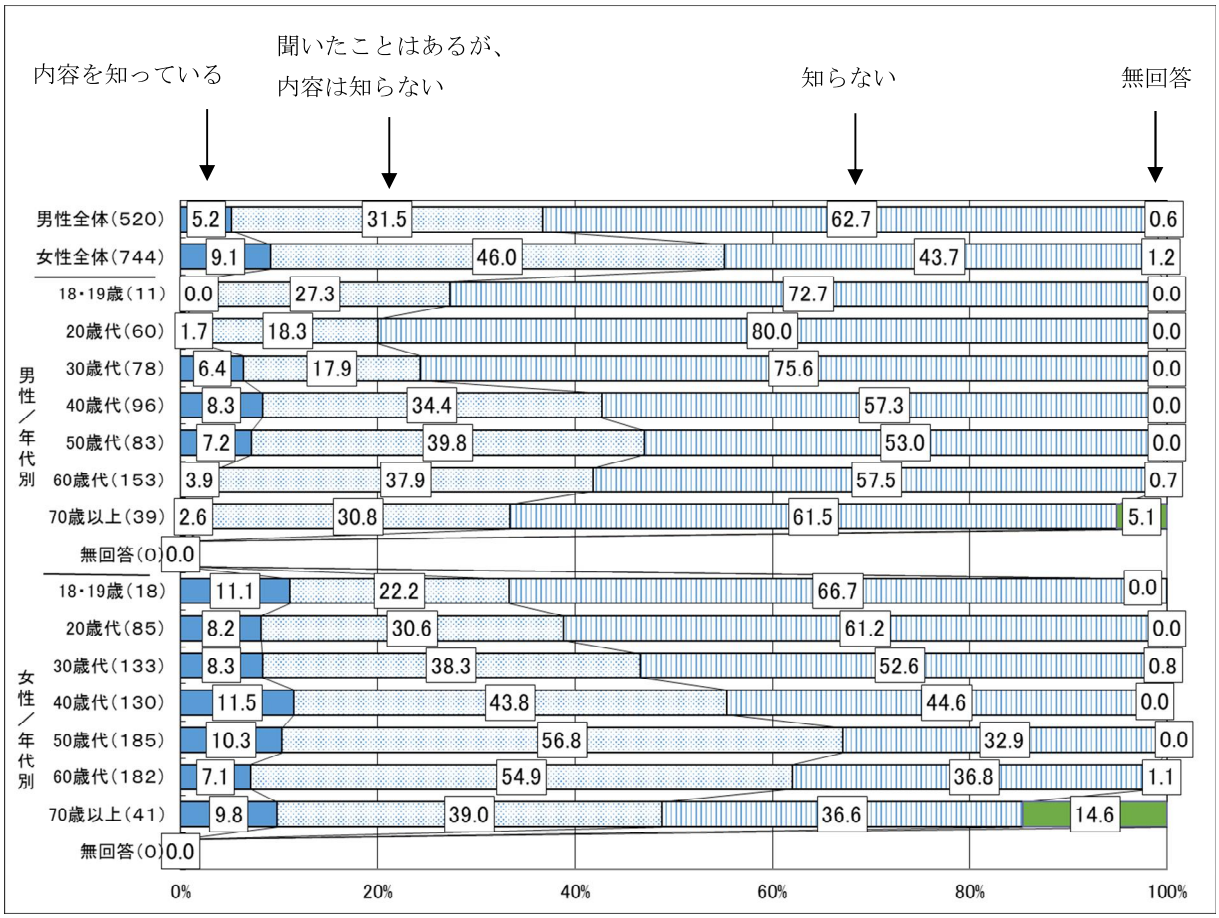
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「フォーラムくまがや（熊谷市で開催する講演会）」の周知度を性・年代別でみると、男性はすべての年代で『知らない』が５割を超えている。特に、男性３０歳代では最も多く、『知らない』が７８．２％となっている。一方、女性は４０～６０歳代は『知っている』が５割を超えている。特に、女性５０歳代では最も多く、『知っている』が５７．４％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「カ　男女共同参画推進センター“ハートピア”」

図表１０－１－７　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



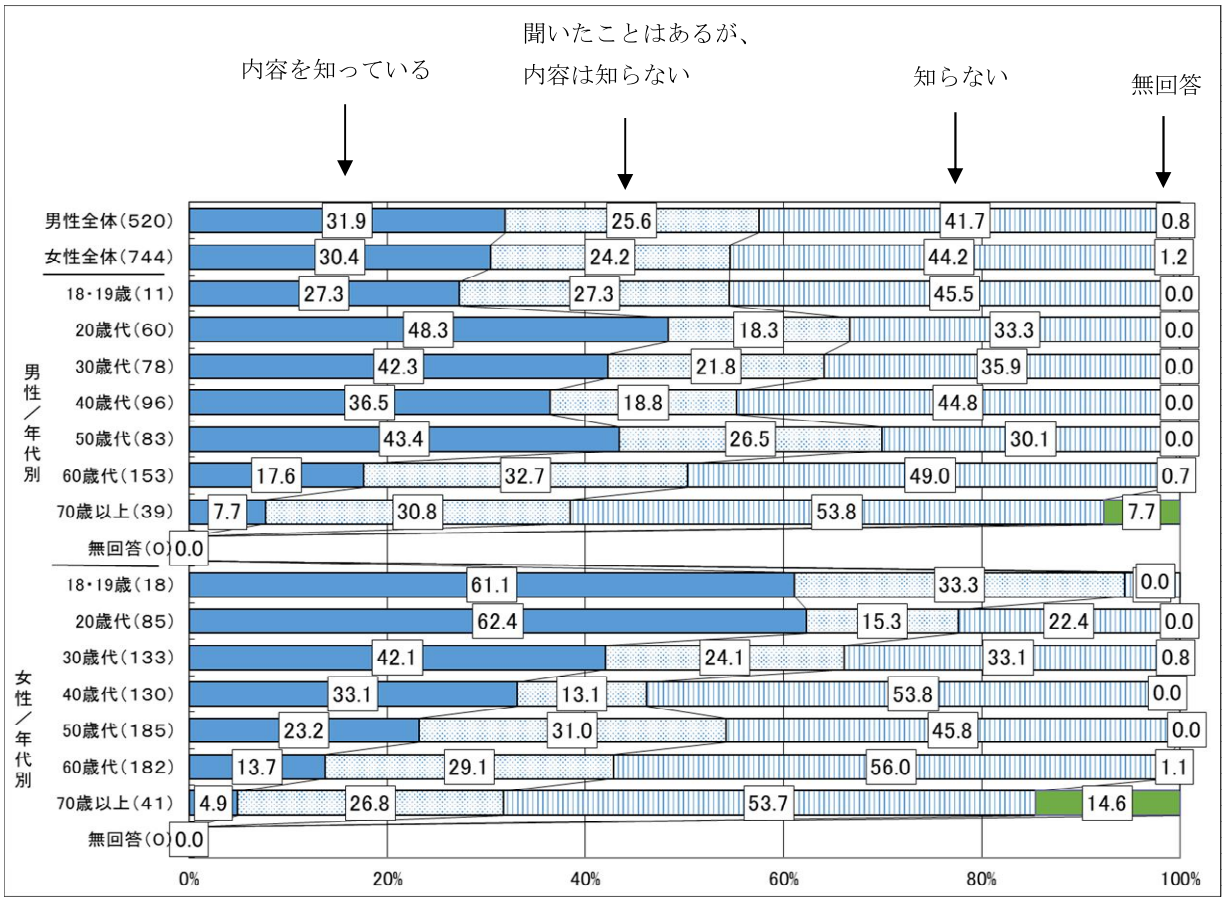
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「男女共同参画推進センター“ハートピア”」の周知度を性・年代別でみると、男性はすべての年代で『知らない』が５割を超えている。特に、男性２０歳代では最も多く、『知らない』が８０．０％となっている。一方、女性は年代が上がるにつれ『知っている』が増加する傾向にあり、４０～６０歳代は『知っている』が５割を超えている。特に、女性５０歳代では最も多く、『知っている』が６７．１％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「キ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」

図表１０－１－８　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

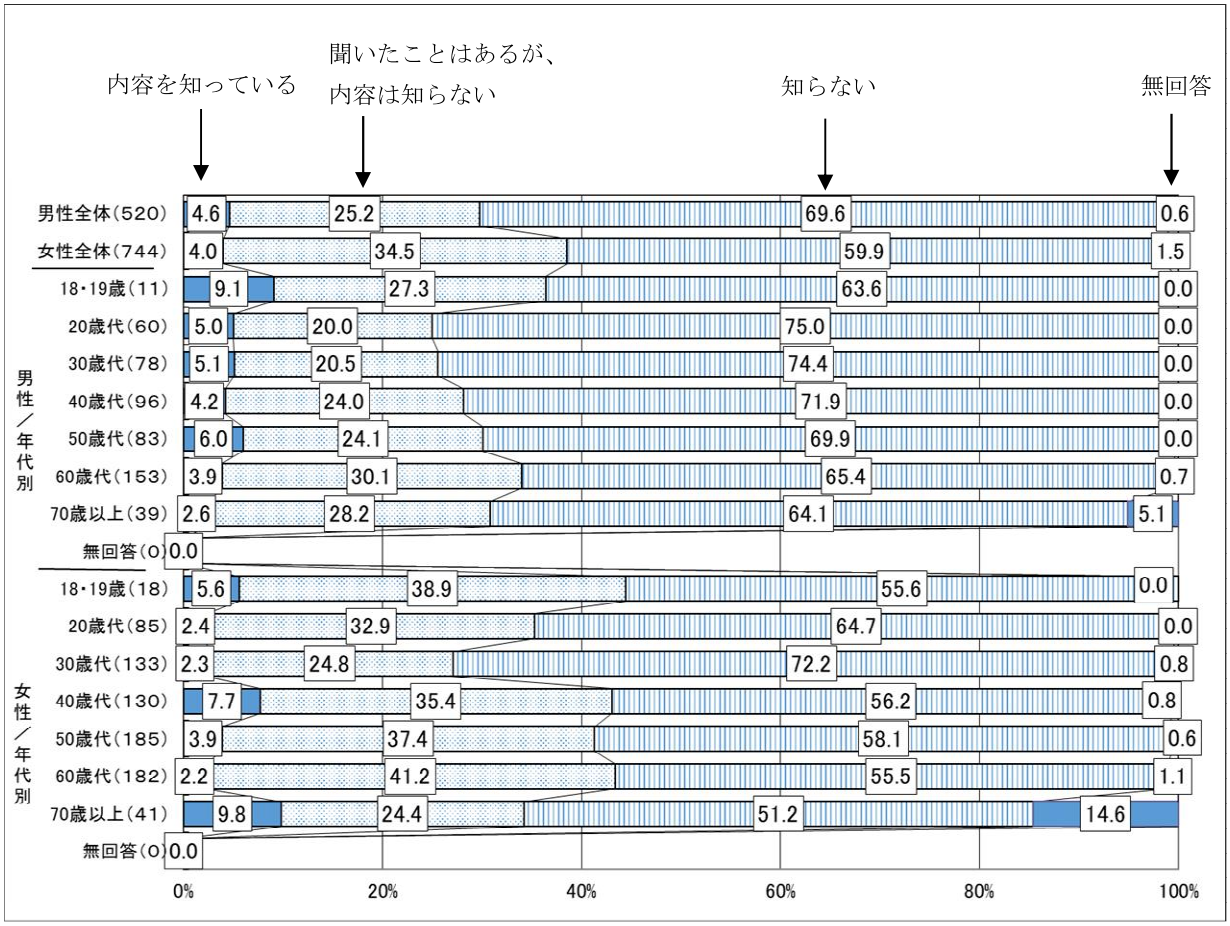
「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の周知度を性・年代別でみると、男性は７０歳以上を除き、『知っている』が５割を超えている。特に、５０歳代では最も多く、『知っている』が６９．９％となっており、７０歳以上が最も少なく、３８．５％となっている。

一方、女性は年代が上がるにつれ『知っている』割合が減少する傾向にあり、２０～３０歳代は『知っている』が６割半ばを超えているが、７０歳以上の『知っている』割合は、３１．７％と最も少なくなっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「ク　熊谷市男女共同参画推進条例」

図表１０－１－９　男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）

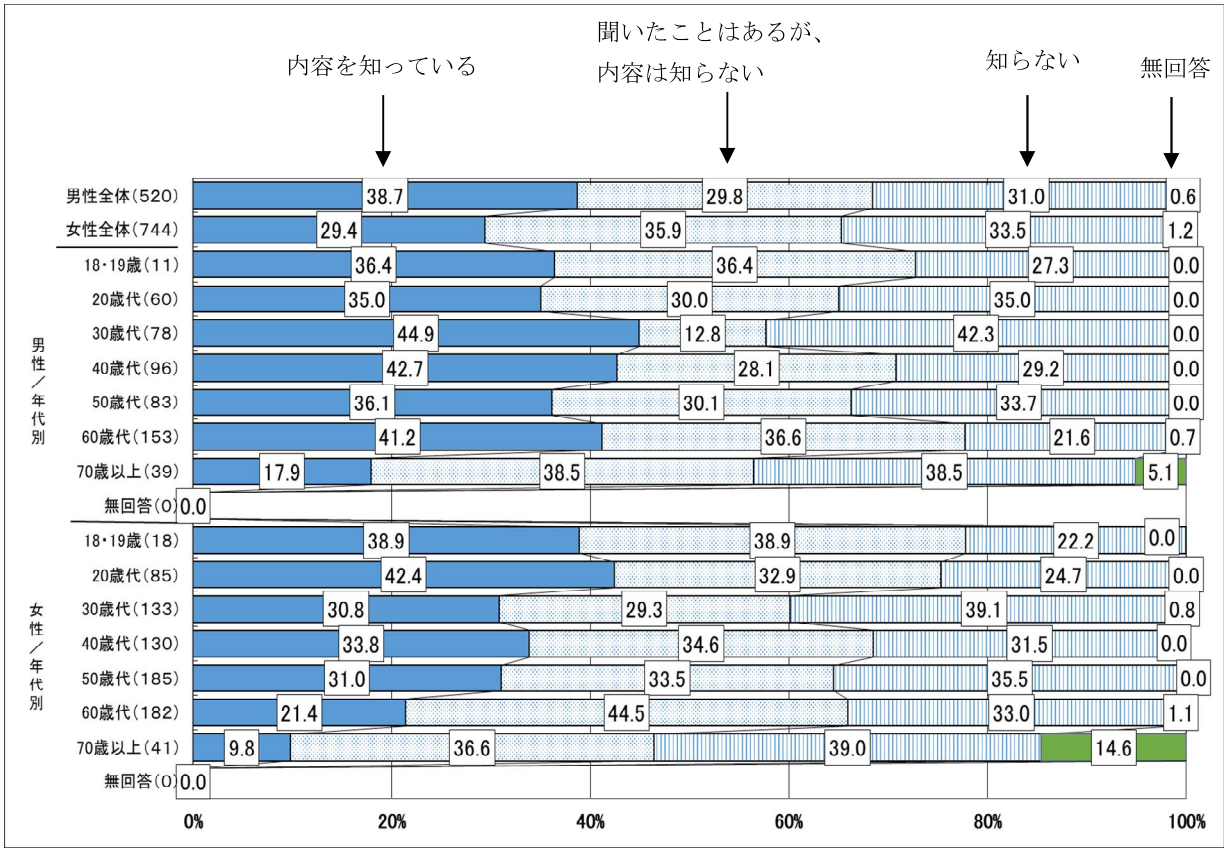


※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「熊谷市男女共同参画推進条例」の周知度を性・年代別でみると、男性はすべての年代で『知らない』が６割を超えている。特に、男性２０歳代では最も多く、７５．０％となっている。一方、女性はすべての年代で『知らない』が５割を超えている。特に、女性３０歳代では最も多く、７２．２％となっている。

「ケ　雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」

図表１０－１－１０男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



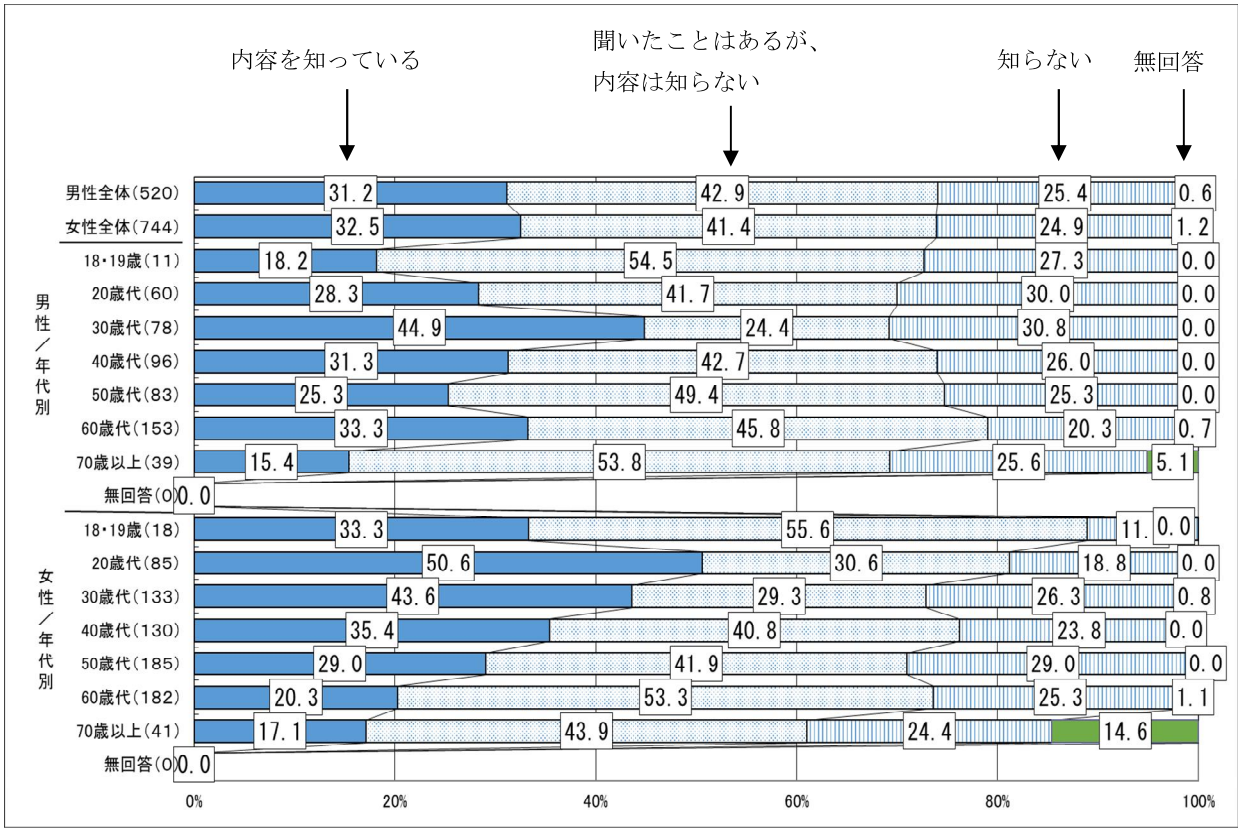
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」の周知度を性・年代別でみると、男性はすべての年代で『知っている』が５割を超えている。特に、６０歳代では最も多く、『知っている』が７７．８％となっており、７０歳以上が最も少なく、５６．４％となっている。一方、女性は７０歳以上を除き、『知っている』が６割を超えているが、７０歳以上は４６．４％と最も少なくなっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「コ　育児・介護休業法」

図表１０－１－１１男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



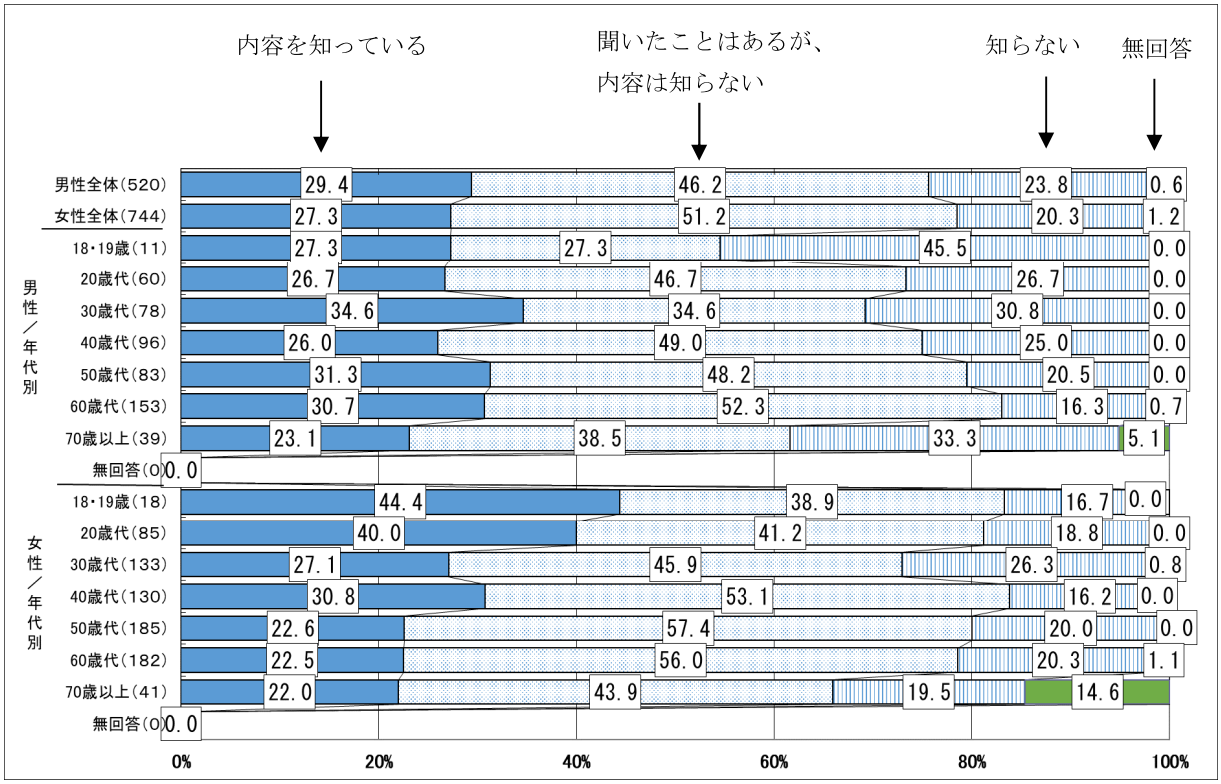
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「育児・介護休業法」の周知度を性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で『知っている』が６割を超えている。男性は年代による大きな傾向の違いはないが、女性は年齢が上がるにつれ『知っている』割合が減少する傾向にある。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「サ　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（ＤＶ防止法）」

図表１０－１－１２男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



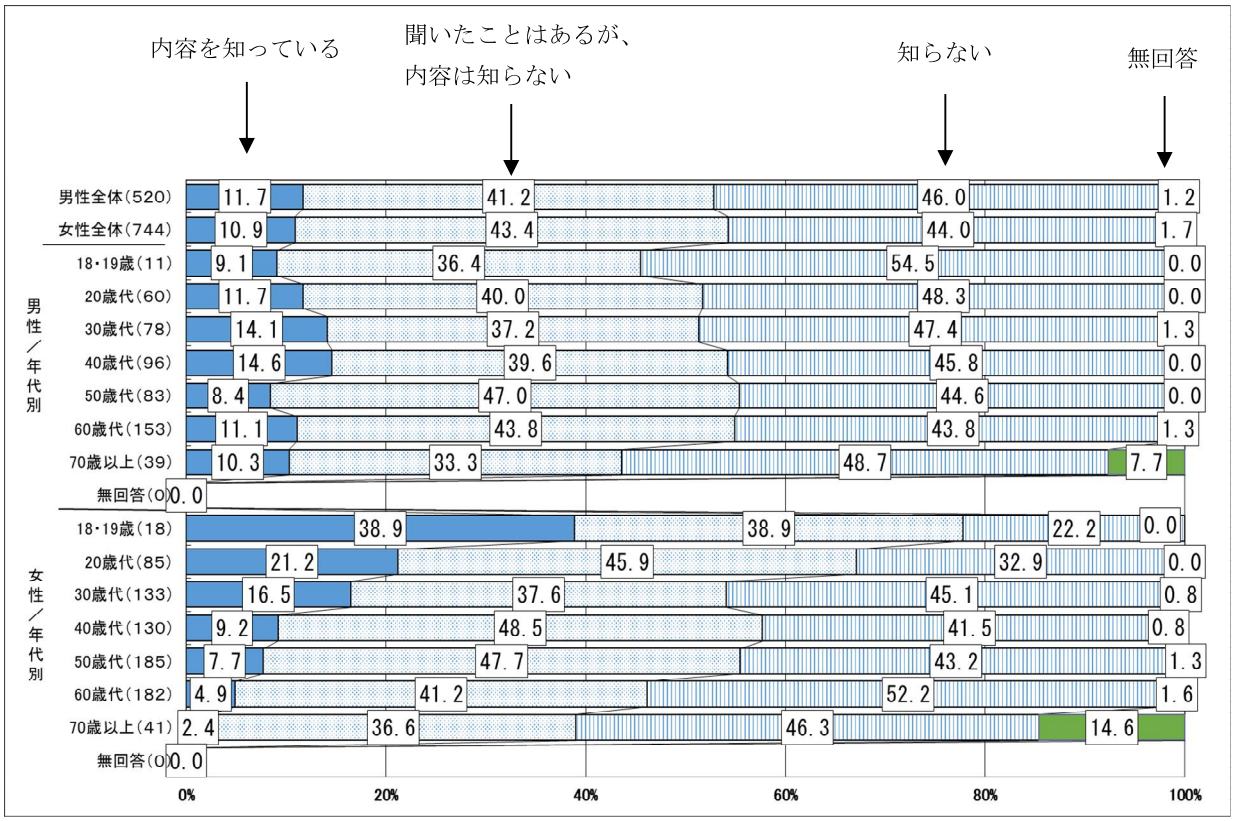
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（ＤＶ防止法）」の周知度を性・年代別でみると、男女ともにすべての年代で『知っている』が６割を超えている。男性は、特に６０歳代の『知っている』割合が最も多く、８３．０％となっている。一方、女性は、４０歳代の『知っている』が最も多く、８３．９％となっている。男女ともに７０歳以上が『知っている』割合が最も少なく、男性６１．６％、女性６５．９％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

「シ　女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」

図表１０－１－１３男女共同参画に関する「ことがら」や「ことば」の周知度（性・年代別）



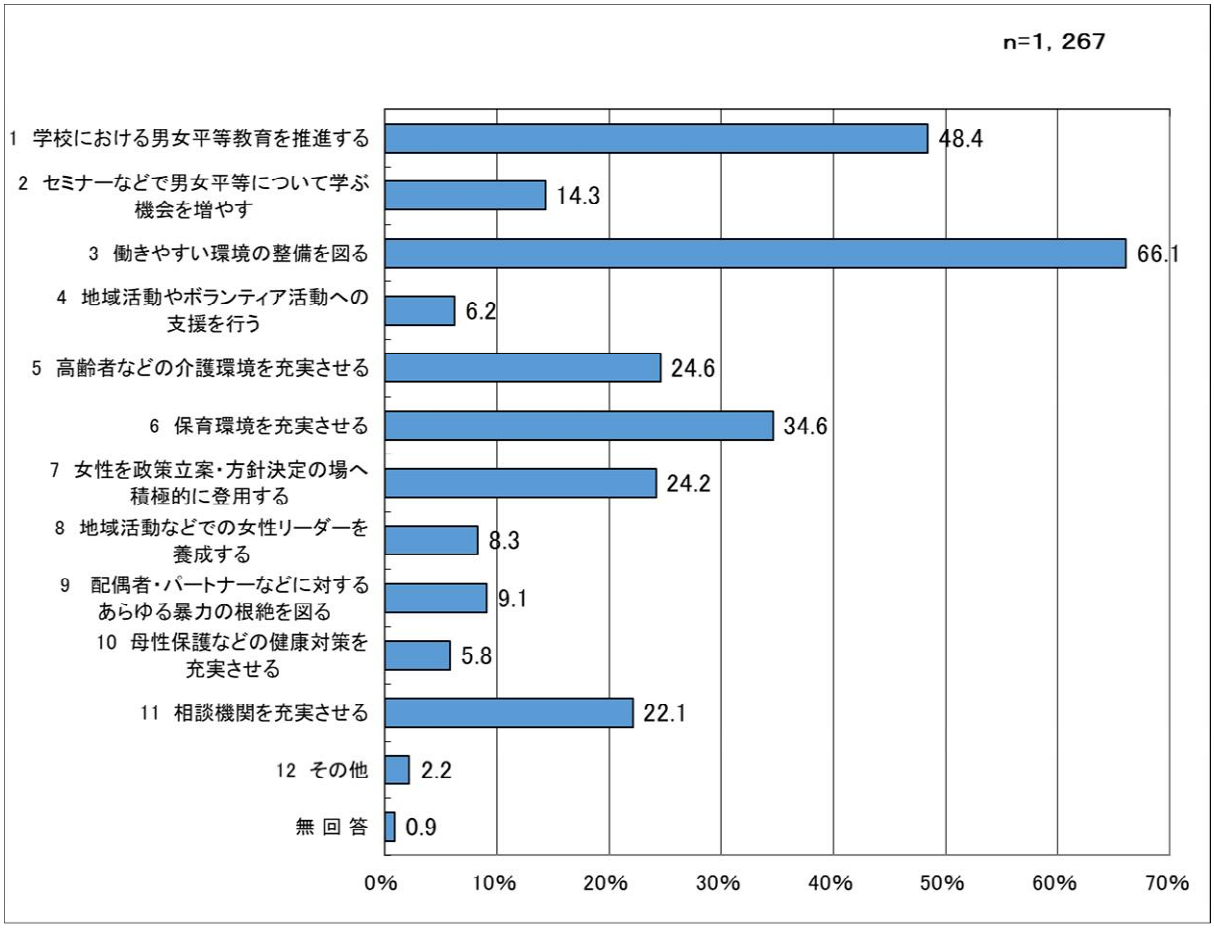
※基数が不足しているため、性・年代別の男性１８・１９歳、女性１８・１９歳は参考扱いとする。

「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」の周知度を性・年代別でみると、男性は７０歳以上を除き『知っている』が５割を超えている。特に、５０歳代では最も多く、『知っている』が５５．４％となっている。一方、女性は６０歳代以上を除き、『知っている』が５割を超えている。男女ともに７０歳以上の『知っている』割合が少なく、男性は４３．６％、女性は３９．０％となっている。

（※）『知っている』は、「内容を知っている」「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

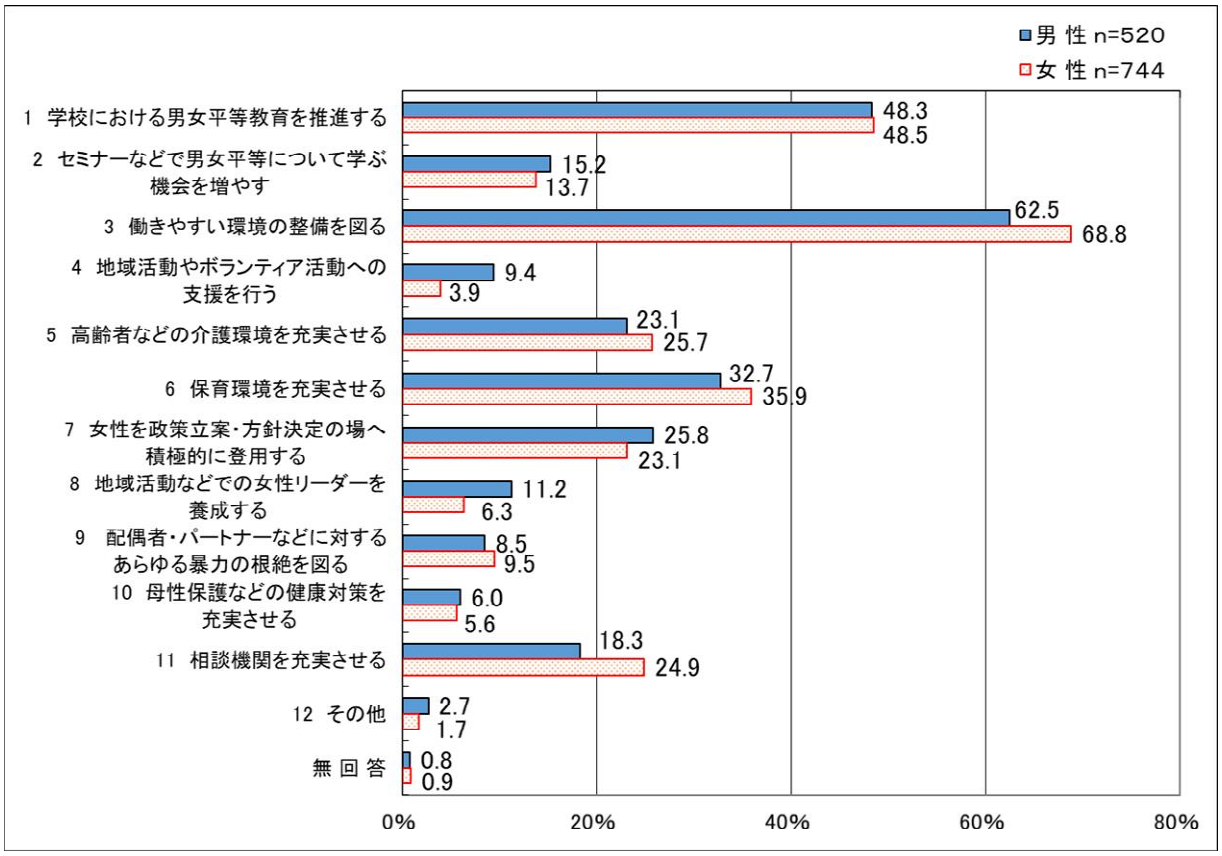
問２８　男女が対等なパートナーとして、あらゆる分野に共同して参画することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて、市では、今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（選択は３つまで）

図表１０－２－１　男女共同参画社会の実現に向けて市が力をいれるべきこと（全体）



男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきことについて全体でみると、「働きやすい環境の整備を図る」（６６．１％）が最も高く、次いで「学校における男女平等教育を推進する」（４８．４％）、「保育環境を充実させる」（３４．６％）、「高齢者などの介護環境を充実させる」（２４．６％）、などの順となっている。

図表１０－２－２　男女共同参画社会の実現に向けて市が力をいれるべきこと（性別）



性別でみると、男女ともに上位３項目については全体の順位と同じであるが、男性は４位が「女性を政策立案・方針決定の場へ積極的に登用する」（２５．８％）となり、女性（２３．１％）を２．７ポイント上回っている。一方、女性は４位が「高齢者などの介護環境を充実させる」（２５．７％）となり、男性（２３．１％）を２．６ポイント上回っている。

１１　自由記述

［　男女平等について　］		
男性	50 代	人間は男でも女でも生まれてから平等だと思います。男だからこれをしなさいとか、女だからこれをしてはダメとか、そういう考えは古いと思います。
女性	50 代	能力については理解できるが、体の構造が違うので平等にとは理解しがたい。男の人と女の人は、それをきちんと理解した上で、助け合っていくべき。
女性	10 代	男女差別のない世の中に今後なっていけるよう、自分もできること意識することを考えて生活していきたいです。
女性	60 代	現在はわかりませんが、子どもが転出する時、海外赴任で不在の為、一切の家事をしていた私が届けを出したら、父親がすべきと言われました。少しでも改善されていることを望みます。まずは我が家は男女平等です。
女性	50 代	こういったアンケートがある時点で男女平等ではない。なにかエライことする人は男で女は出しゃばるな的世の中。
女性	40 代	掃除(特にトイレ)は女性の方が適しているという職場があった。女性の方が細かい所まで気がつき、丁寧だからだそうだ。女性をほめるようなことを言いつつ、男性は面倒なことはやらないという姿勢のあらわれ。意識が変わらなければ何も変わらない。学校の PTA 活動参加者は、圧倒的に女性。男性は仕事を休めない。仕事が休みの土日はゆっくりしたいからだろうか。地域活動・PTA 活動などに女性を組み込むことが平等なわけではないと思う。
女性	30 代	自分の子供たちが大きくなった時、男女平等であると感じられる世の中になるよう社会や学校、家庭での教育や周知が大切だと思います。時間のかかる取組ですが、がんばってください。
男性	60 代	男性・女性平等である。
女性	20 代	人体の構造的に体力や筋力の差はうめることができないため、完全なる男女平等は、逆に差別を生むと思います。ジェンダーのこともそうですが、権利や権力が平等になる社会になってほしいです。
女性	20 代	今後も男女平等に継続的に取り組んでほしい。
男性	40 代	例えば、家族で出かけたら、車の運転は父親だけがやるとか、デートの食事代は男性が負担する、ゴキブリ等の害虫の対応を男性だけにやらせる等、男性が受けているジェンダーハラスメントを男性がもっと意識する事で、「自分がやられたら嫌な事」を考えるきっかけになる。現状の取組は、女性にとって都合の良い部分だけに特化してやっているようにしか見えない。(例：男女平等と言いながら)結婚相談所の入会要件に男性だけに収入要件がある等)
女性	30 代	学校行事・PTA や話し合い・はたふり等、全て女の人の役割。男性だけで回せる地域になればいいが。熊谷や田舎の地域はムリだろう。
男性	40 代	男女平等とは権利の平等であって、身体的特性によっての向き不向きは仕方無い事と思う。むしろ女性に子供を産む・育てる喜びを感じてもらわないと人口は減少し続けるだろう。

男性	20 代	現状女性が男性と同等に扱われない場面は確かにあると思う。特に高齢者の中で、SNS では女性の権利を拡大するために男性の権利を縮小しようという過激な考え方をしている人が見られますが、公共の福祉などを担う市の活動では女性だけでなく男性にも適切な配慮をしてほしいと思っています。
女性	50 代	「仕事に出るのは良いが家庭をおろそかにしてはいけない」という男性が多いが、家庭のことは女性だけがするものという考えはおかしい。ただ、男性もそう母親がしているのを見て育ったのであろう現状があるので、学校でいくら平等をうったえても、社会に出て男女平等を学ぶ事になり、根絶はむずかしい。
男性	50 代	男女平等と言っても、内体的・生理的に異なる所も多分にあるので、何でもかんでも平等であると考えるのは、どうなのかと思う所もある。
女性	10 代	最近、女性の方が優偶されていることが多く、男女平等と言っているのに男女の間に差が出ているような気がします。体の構造が異なる以上、それぞれ男性にしかできないこと、女性にしかできないことはあるから、全てが男女平等扱いにはしない方が良いと思いました。また、リーダーはなりたい人がなれば良いので、無理に女性リーダーの進出に対する取組は必要ないと思いました。
男性	10 代	女性が差別されている世の中で女性差別をなくすことはとてもよいと思うが、度を越えるぐらいにしてしまうと男性からの不満も増えると思う。
［　家庭生活について　］		
男性	50 代	セミナーや教育でなく、法整備や女性が家庭でやっていることのサポートができる設備・施設が必要だと思います。
女性	50 代	共働きが一般的になってきているが、女性はフルタイムで仕事をしていても家では家事も無償の労働で睡眠時間以外は働き続けている。家事負担を 50%ずつ行うのが理想だが、「名もなき家事」はどうしても女性が行う。たぶん男性は気付かない小さな家事だが「名もなき家事」に費やす時間は相当な時間を占める。ゴミ出しをするという家事には家中のゴミ箱のゴミを集めて新しいゴミ袋をセットするという名もなき家事がゴミ箱の数だけある、ということを気付かない。根本的な意識改革をするような教育やセミナーも必要なのではないでしょうか?「仕事だから仕方ない」と言って家事から逃げる男性はまだ多いと思います。
女性	20 代	社会全体として、まだまだ女性より男性の方が有利というか、女性の方が不利な立場になってしまう事が多くあると思います。仕事関係や地域はもちろんですが、まずは家庭の中での役割をしっかりと分担して行えるようにしていくべきだと思います。身内でできていないのに外でできるはずがないと思ったので。家事・育児に対する考え方を、女性と同じ目線に立って考えられるようもっともっと発信して頂きたいと思います。家事・育児は主に女性がするものだと思っている男性が多すぎると思います。パートだとしても同じように仕事している人たち、仕事していなくても、専業主婦は家にいて楽だと思わないでほしいです。また、産後の母親に対するサポートも含め男性に理解して

		頂けるよう促進して頂きたいです。相談やセミナーではなく必ず目に留まるように！
女性	30 代	男女共に、労働・育児・家事・地域活動で働きすぎだと思う。ある企業が PTA 活動の請負など始めましたが外注できるところは外注し、家庭の負担を減らすべきだと思う。子供の予防接種も保育園などでできれば、休みをとらなくてもいいし。
女性	60 代	私の場合、60 歳を過ぎており、私が正社員で働いていた時代とは、現在は、大分違ってきています。娘も正職員として働いていますが、子育てと家事・家庭の両立、休む暇がないと大変そうです。職場の理解と、夫の家事の協力がないと大変です。学童保育が高学年になると、なかなか入れないと聞いております。保育の充実を望みます。
［　子育て・介護について　］		
女性	30 代	男性の育休取得も大切ですが、せっかく育休を取得しても、家で何もせずダラダラされるのも嫌なので、育休が子どもと母親のためのもの(産後の体調が戻るまでは家事と育児を男性が担当できるように、中学・高校で家事と新生児の育児について学んでほしい)になると良いなと思います。
女性	40 代	介護休業・育児休業などの制度はできているが、職場の雇用の問題で取りにくい所がどうしても多いため、結局女性にまかせる、男性にまかせるといった偏りが出てしまう所はまだまだ多いと思う。そこを改善していくには、雇用の面で、人材確保を考えていかなくてはならないので、すぐには難しいと思う。
男性	60 代	子育ては大切なことです。男女共同で子育てをできる社会を作り上げることが必要だと思います。子育ては楽しくなければダメです。
男性	30 代	出産後、育児等について市で対策をしてほしいと思う。子供を殺し、埋めたりという事件を多く耳にするので、ヒアリングできる施設等や子どもの命を守る団体を作ったほうが良いと思う。
女性	40 代	出産・子育ての経験が豊富な女性ならではのネットワークやアイデアで社会も変わっていくと思います。女性が活躍できるまちづくりに期待しています。
女性	50 代	熊谷市は、幼い子供を連れた男性の方を以前住んでいた町より多く目にします。いいですね。男性の方が、子どものオムツ替えや着替え等の世話ができるスペースを確保してあげられるといいなと思いました。
女性	60 代	市の男女共同参画について知らないことが多いが、子育て時間は女性に負担がかかるように思える。
女性	70 代	全国的な人口減少に悩む現在、女性の子育て支援が望まれていると感じます。保育園送迎センターや、親子で楽しめる施設などがあれば良いと思われます。子育てしている年代にこのようなアンケート調査をして頂ければ、さらに市民に寄り添える行政につながるのでは、と思います。

女性	60 代	私が結婚した頃は、主人の親と同居、家事・育事は、嫁と決まっていました。今、私たちの子世代は、ほとんどの夫が家事・育児を進んでやっているように見えます。男女共同参画がしっかり根付いてきていると思います。それでも女性の社会進出は子育てとの両立はなかなかむずかしそうです。両親が近くにいる方は、良いのですが、保育の充実が必要不可欠です。
男性	20 代	保育環境の充実と合わせて、保育士の労働環境の改善も図っていってほしい。
女性	50 代	男性が育児に参加する・・・参加という言葉を使っている限り、地位の平等は難しいと感じます。男性も自立した社会人として家事・育児を担っていけるよう社会の環境が整うと、女性も社会活動がしやすいと思います。
女性	40 代	女性が育児休暇をとりやすく、復職できる環境の制度を整備することと、子育て期間中はまわりの男性も女性が育児の為に時短や有休をとりやすい雰囲気や理解をする社会・会社にしていくようにする、男女間の賃金格差がなくなるようにしてほしいです。
［　学校教育ついて　］		
男性	40 代	男女平等教育の推進と記載してありましたが、平等はないかなと思いますので、男女が対等なパートナーとして考えられるような教育をしていってもらいたいと思います。
女性	50 代	この世の中には男女しかいないのでしょうか。発達障害の子が教師や学校から差別されいじめを受ける事によって不登校児が増え、本来の力を発揮できないため非常に勿体無い。一人一人症状が違うのに一緒くたに支援級に入れてしまうのはどうかと思う。社会に出た時に差別を覚えた子たちが大人になってバリアフリーに対応出来るはずがない。普通クラスの中で色々な人間がいるという事を子供のうちから育む事によって思いやりが生まれると思う。人としてのバリアフリーを覚えて来なかった人たちが男女共同参画は無理。
男性	20 代	海外(ニュージーランド)で育ちましたが、日本の教育は遅れていますね。特に倫理感がずれている男性と経営者・教育者が多いと感じます。性犯罪のニュースが多過ぎます。
男性	70 歳以上	男女共同参画の大前提は人権尊重と平和主義である。最近の学校教育では、日本国憲法の基本理念である人権尊重と平和主義を教育していないのではないか。この 2 点の学校教育なくして男女共同参画はあり得ない。
女性	30 代	他者の評価を気にする社会が男女不平等の意識へつながるかと思います。「他人に迷惑をかけず、良い塩梅で暮らせる気持ちをもって生活をおくる。必要以上に他者を気にしない。自分が幸せかどうかは、自分のものさしで決めること」この教育が子供・大人ともに必要だと思います。これに耳を傾けられない人は、お金に余裕がない人。
女性	60 代	いまだに、熊谷高校・熊谷女子高校と、男女別学の高校が公立高校として存在していることに違和感を覚えます。性的マイノリティの方にも受験し難いと思います。時代遅れではないですか。

男性	10 代	社会的に男女で与えられる機会が平等ではないと漠然とは知っているものの、実際にどのような場でその現状が見られるのか、具体的な状況はよくわかっていない。学校での教育を進め、若い世代に関心を少しでも持たせるべきだと考える。
女性	60 代	子供の頃からの教育が一番大事だと思う。
女性	60 代	一度擦り込まれた固定観念(偏見・差別・思い込みなど)を変えるのは困難なことだと思うので、幼少期から（保育園・幼稚園・小学校などで)の教育が大事ではないでしょうか。「男・女」ではなく人として、それぞれが活躍でき、協力・理解し合う思いやりのある社会の実現を期待しています。
女性	30 代	学校等でそういった取組を学ぶ子どもたちに対して、頭でっかちになる環境ではなく、あたりまえに出来る、あたりまえなこととしてとらえることのできる大人(先生)がいる環境がベストだと思います。子どもは良く見ています。まずは教える側、会社でいえば上司にあたる人(位が上の人)が意識を変えていってくれると良いなと思います。
女性	60 代	人を育てることが根本の解決になり、男女共同参画の問題だけでなくあらゆる問題の解決になると思う。人も金も教育に使ってもらいたい。
男性	20 代	男女間に限らず、個人間にも能力や特技などには差が生じる。機会(例えば、義務教育の段階など)が均等に全ての人に与えられることが、無理に女性の比率を上げることよりも大切になると考える。
男性	20 代	男だから女だから等の考えは無くし、もっと自らの周辺の事を深く見て行こうと思います。最近気になるのは教員の性犯罪等です。何のために教員になるのか？採用の段階でもっと精査すべきでは？児童相談所等もお役所仕事は考えてもらいたい！弱い子は必ず助けられませんよね。
［　就労について　］		
女性	20 代	女性だから雇用するのではなく能力のある人が仕事をしやすくする社会であってほしい。そのために女性はどうしても生理や体力の性差があると思うので、それを考えてどのように社会をまわすか考えていただきたい。障害者もしかりです。
男性	30 代	性別ではなく、身体的特徴などを重視して、力仕事は男、事務は女などの古い考えを排絶していくようにしてほしい。
女性	60 代	市役所内での女性の働き方をもっと考えたら社会全体に影響があるのでは？口先だけで何を言っても何も良くならないと思います。本気でやろうとしていますか？
女性	60 代	企業の経営陣に対する、男女共同参画の推進のためのセミナーなど、男女平等について学ぶ機会を作り、是非参加するよう啓発してほしいです。
女性	30 代	会社等の役職者は世代的に考えが古いため、役職者の指導が必要だと思う。
男性	30 代	正直なところ、身のまわりの女性で管理職の方は、その努力も尊敬できるものであり、何らかのサポートではなく、自身で勝ちとられた地位ではないかと思います。男女の別で就労に差があるような企業(団体)は、優秀な人材を失い、おのずと淘汰されていくと思います。また、

		余談ですが、web フォームで回答できるようになるとありがたいです。
女性	20 代	正社員の雇用や、軽度の精神障害(適応障害など)を持つ人が働きやすい環境づくりを期待しています。
女性	40 代	中小企業は特に育児・出産時の女性の雇用条件があまり整っていないと思います。私もそうですが、本当は社員としてずっと働いていたかった。
女性	50 代	男女と関係なく、労働者として協働していくパートナーという視点で考えていくことが重要と思われる。女性の職場で働いているため、認識が低いと思うが、社会会体で性別格差を考えていく必要があると考える。
男性	60 代	シングルマザーの就労について、もっと理解が必要かと思います。
男性	30 代	女性は、子育て・出産があります。そのような女性にハンデを与えない事が大事だと思います。また、そんな女性を雇用している会社を支援する事が大事だと思います。女性が活躍する場を提共している会社に是非。
男性	40 代	とりあえずできる限り様々な仕事・役割について男女の数を同数にしてほしい。女性は子育てや介護が大変というが、私からすれば男がやらされている仕事の方がよっぽどつらい。女性がやってくれるなら子育て・介護を喜んでやりたいくらいだ。女性は優遇されている。子を産まない女性も増えており、出産・育児がなく、仕事も楽で、男性と同じ給料をもらい、力仕事や危険な仕事やしんどい仕事もしなくていいなんて恵まれすぎている。少なくとも子どもがいない女性には、男性と同じ仕事を割り振ってほしい。女性はズルイ。
男性	40 代	熊谷近郊に本社を置く会社と協力し、取組を導入してみる。受けでは無く、発信する方法を取る。
男性	30 代	キャリアアップしたい女性がどれほどいるか調査して進めた方が良い。女性登用の流れだけが先に立ち、女性自身の意識が追いついていない。あまりリーダーになりたいという意見の女性が少ないように感じる。
男性	30 代	まず経済格差をなくす。男性の会社員(定時で帰れる人は除く)や、個人事業主、雇用形態による拘束時間、福利厚生等の格差をなくす。
男性	30 代	女性が生理などでイライラすることが多い。それによって職場で男性にきつくあたるのはやめてほしい。そのようなルールをつくってほしい。
男性	40 代	職場・会社は格差が目立つような気はします。ママさんバレー教えていますが、今や女性の方が強いかも。女性同志の問題もあるので、何とも言えない状態はあります。活動期待しています。私も機会さえあれば、参加等したいです。宜しくお願いします。平等社会は大賛成です。
［　人権について　］		
女性	10 代	人それぞれが自分の好きなように、自分なりの幸せを見つけ「生きていたい」と思える市になってほしい。男女や LGBTQ に関わらず、一人一人を大切に扱うことも大切。

男性	30 代	女性の管理職比率や育児負担がどうというよりも、当人がどうしたいかが尊重される方が大事。育児に専念したい方もいれば、両立したい方、バリバリ仕事を頑張りたい方が選択できる環境づくりが大事だと思う。額面上の数字などに囚われるべきではない。早急に行うのではなく、長い時間をかけて行うべき。
男性	40 代	何でも「性別」で考えるのはちょっと違うと思う。(女性委員の比率 50%とか)性差の前に「個人差」があって、性格上の「向き」「不向き」がある。何でも同じ数にしなければならないからといって、不向きの人にポストを押しつけるのは女性側も負担になるのではないか。
女性	40 代	人によって男性と同じように活躍したい女性もいれば、そうでない人もいると思うので(反対に男性も)性別は関係なく、やりたい人がやりたいことをできれば良い。
女性	20 代	男女の区別が関係なく、個人個人が生きやすい社会になってほしいと思います。
男性	10 代	そもそも、性別か性的マイノリティなどとわけるからこういった問題が生まれてしまうと思う。性別で考えるのではなく人単位で考え、その人が得意なことを活かせる世の中にすればいいと思う。人それぞれ得意不得意があり、それをお互いに補完しあうことが真の平等であるといえる。また、男が好きだろうが女が好きだろうが、自分の性別がわからなかろうが、その人のことを一人の人として見ればそんなにむずかしくもないはずだ。
女性	20 代	私は、女性のパートナーと事実婚を選んでいます。未来、熊谷で子どもの里親になれたらいいなと考えています。
男性	50 代	以前、会社で「ダイバーシティ」の研修を受け、多様性に関する知識が深まりました。自治体としても、その様な発信が必要なのではと思います（行っているとは思いますが)。また、地域の活動において、昔からの慣習が邪魔をしていたり、若い人の参画があまり無いので、新しい役割が出来にくいと思われます。
［　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）について　］		
女性	30 代	ＤＶなど暴力を受けた方々がもっと相談が気軽にできたり、保育や介護で行き詰まったりした人へのメンタルや生活がまもられる社会であってほしいと思います。男女それぞれできる事をフォローしあえる精神を教育してくれればとも思います。具体的な意見が書けず申し訳ないですが、どんな人も生きやすくなれば良いと思います。
女性	40 代	ＤＶを受けた側は被害者にも関わらず、安全のためとはいえ、色々と制限があり、加害者側は何ごともなく生活していることに憤りを感じる。加害者側にも何か制限をもっとかけることができて、被害者側の負担が少なくなったらいいと思う。
［　社会参画について　］		
男性	60 代	神社のボランティアをやっているが女性が一人もいない。次のボランティアを自力で捜すシステムに問題があると思われる。女性には頼みにくいので男→男の流れになっている。

女性	20 代	啓発活動はとても大切ですが、これだけではずっと前に進まないと思います。実際に就労・育児・介護の現場でおきている格差を減らすための行動をお願いします。（例）女性活躍の機会を作る。育児・介護施設・サービス向上・賃金平等など。
女性	40 代	地域住民の他者への興味・関心の向上をめざし、近所で助け合えるようなしくみ作りや支援が必要だと思います。（例）空いている農地を利用し、農作物を高齢者とともに育てる機会や場所を提供するなど。
女性	20 代	性別に関わらず、本人の意思を尊重し、社会的にも個人的にも生活しやすい社会になれば良いと思っています。
女性	40 代	男女共同参画の取組、頑張って下さい。性別関係なく、個性や自由な表現などで、住みやすい熊谷市であるように。公平・平等でありますように。
女性	50 代	老若男女それぞれの個人の環境も違う中で一人一人が住みやすく、働きやすい市であるよう願いたいです。
男性	30 代	意識改善も必要と思うが、まずは育児・就業について男女関係なくそれぞれの環境・能力にあった選択を可不足なく出来る状態を用意するのが急務だと思う。現状は仕方無く今の状況にせざるを得ない、という人が多いと感じる。国・行政・企業が協力して、生活に無理の出ない体勢をつくるのが大事で、それが出来れば自然と男女格差はなくなると思う。
男性	50 代	自治会で女性の会長がいてもいいのではないでしょうか。男性の視野の広さと女性の身近な気づき、男女共同参画社会にとってとても大きな力になります。
［　男女共同参画の推進について　］		
女性	20 代	今後の未来(自分の子供たちの世代)の為に、積極的に意識調査はするべきだと考えます。
女性	50 代	世代が変わらないと、意識を変えられない人も多いと思うので(男女ともに)これからの子供たちへの教育は大切だと思います。しかし、体調の面で働くことが難しくなった自分からすると、全員、必ずどこかで働かなければならないとか、なぜ働かないのか？と言われると、自分なりに家庭でできることをしていても辛く感じることもあります。多様性を認める世の中が良いと思います。主婦(夫)として育児したい人がいてもいいし、預けて働きたい人がいても良いと思います。
女性	60 代	男女の特性を活かして、協力し合って、社会を発展させていくべきであり、行政として積極的に支援していただけるとありがたいです。
女性	60 代	熊谷に引越しして日が浅いです。熊谷市の男女共同参画についてよくわからないのですみません。前に住んでいたところで、男女共同参画会議に出たことがあります。平日の昼間で参加者は中高年の女性ばかり、男性は地区の代表の高齢の人が 1 人くらいでした。これでは、子育ても育児も介護も、男性意識もかわっていけません。職場だって女性ばかり、パートばかりなどだったら、どうなのですか？
女性	50 代	男女共同参画の社会に、どのくらいの女性の方がリーダーシップとして参画を望んでいるのか年齢別に統計をとってもよいのではないのでしょうか。

女性	50 代	熊谷市や埼玉県は、活躍している女性が多いと感じます。家族やまわりの人の応援や支え、行政のサポートなどが、活動しやすい環境をつくっているのではないかと思います。行政には、引き続き、誰もが笑顔で、幸せでいられる社会への支援を期待します。
女性	60 代	現実問題として、仕事以外で負担を背負うのは女性だと思う(家事・育児など)。時間がかかる問題かもしれないけど、環境改革・意識改革、一丸となって行っていくことが大事だと思います。一部分だけを改善していっても成り立つ問題ではないと思う。
男性	60 代	男女共同参画社会の実現に向け、熊谷市・県・国の努力に期待しています。あらゆる分野に、女性の進出を期待します。ただ、女性の人数を増やすだけでなく、働きやすい環境や女性リーダーの養成に力を注いでほしいと思います。
女性	60 代	男性の特性・女性の特性は別々と思われる。どちらも良いところを活かしていくのが理想であって、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という観念がいけないと思う。特性を活かしつつ女性の社会進出ができればよい。意外に女性進出をはばんでいるのは、女性かもしれないと思うことがある。
女性	40 代	自分が今まで男女共同参画について、興味を持って積極的に考えた事がなかったので、熊谷市のどこで情報が得られるかなど知らなかった。今回のアンケートで、そういう取組をしていることを知った。今まで男女の差を感じてモヤモヤすることも多かったので、市のそういった取組はありがたいです。
女性	30 代	女性活躍や LGBTQ 等、無理に推し進めなくても良いと考えます。特に若年層の理解ですが、性別についてあらゆる環境の差別を感じていないと思います。だからといって高齢層の意識を変えたいというものでもないと考えます。ですので、悩みを持っている人のケアが大切だと思います。
女性	50 代	今回はこの様な重要な施策に関する調査に参加する事が出来、大変光栄に存じます。私事ですが、私の親世代は女性が家庭を守り、男性が外で働く亭主関白の時代で、そんな家庭に育った為、女性は家で家事・育児に何ら疑問を持つ事もなく成人しました。自分の経験から、家庭環境・学校教育が大切です。孫たちの世代は、男女平等があたり前の世の中であってほしい。そんな施策を期待します。余談ですが、残念ながら平均寿命は男女格差をうめられない(笑)。もっとおばあちゃんの活躍の場を作りませんか？
男性	60 代	実際にこの様なアンケートが届くまで男女共同参画という事を意識した事は無く、改めて考えさせられました。日常生活で当り前と思っていた事が違うのだと思い知りました。
女性	50 代	まだまだ男女共同参画の推進については、一部だと感じています。いろいろな所で耳にはしますが、周知徹底されていないと思います。古い考え方の人がまだ多くいるので、男女共同参画があたりまえの社会になると良いと思います。
男性	70 歳以上	男女共同参画という社会作りは、行政自体がその様な環境とは思えない。どこの行政機関へ行っても感じる。

男性	70 歳以上	男女共同参画で別紙のような施策等を行っている事すら知らなかった。
男性	50 代	変化を加速するには、クォータ制の導入も現実味がある。
男性	40 代	男女を均等に・・・などと言い出すのは、「お父さんが働き、お母さんが家を守る」そういう家族像があたり前だった古い世代の方々が多いと思う。団塊ジュニアの世代あたりからは、そういう考えはカッコわるいと思う人が多いだろうから、あと 20 年くらいして、熊谷市内に旧世代の方々が少なくなれば、ようやく、全国でも胸を張れるくらいの男女平等の自治体になれるのでないでしょうか。
男性	40 代	男性・女性ともに意識改革とそれを支えるハード面の充実の両輪の整備が大切かと思います。
男性	60 代	「男女共同参画」の推進は良い事だと思います。女性の視点や考察(洞察)力は今後ますます必要になるでしょう。ただし、男性の視点が軽んじられるのは別の話です。「働かないおじさん」等という中年男性に対する敵視につながらない配慮も大切かと感じてはいます。
男性	40 代	男女共同参画という時点でジェンダーを感じる。男と女として物事を考えるのではなく人としてジェンダーレスな考えが必要。
男性	60 代	男女共同参画の解釈の仕方については、杓子定規にするのではなく、男女の良さも考慮しながら進められると良いのでは。また、その解釈が多くの人から理解されることを望みます。
女性	40 代	熊谷が男女共同参画や LGBTQ に力を入れている事を知れて、嬉しく思いました。この調査に参加できて良かったです。ありがとうございます。老若男女関係なく、いじめ・ＤＶなどのない世界を見たいですね。
男性	30 代	近年では、社会に男女共同参画について広く周知されてきたと考える。市長等、重要なポストで女性が活躍できるように各種制度の見直し、広報活動等、引き続き実施してもらいたい。
女性	70 歳以上	男女共同参画社会、ようするに、男・女に捕らわれず人間同士である事が基本だと思います。
男性	60 代	男女共同参画の推進については、しっかり定義し、ここまでは関わり、ここは関係しないということをはっきりさせるべきだ。例えば LGBTQ のことをこのアンケートに入れているが、男女共同といっている以上、男も女もない LGBTQ を入れてはおかしなことになる。また、従軍慰安婦同様、下世話なことを含むことを公が前面に出すのは、避けた方がよい。大学の入試で女子が合格できなかった問題にしても、ただ入試の点数だけで決めてしまうと、女子がやりたがらない診療科の学生がいなくなることも考え、実態に合った男女共同参画にしてほしい。何を打ち出すのか、もっと細かく決めるべきだ。もしかすると男女・・・と出していること自体が誤りになりつつある。あるいは時代から取り残されている古い考えとされる可能性がある。男だから一家を支えて稼いでくるのは当たり前、女だからデートのときはおごってもらうのは当然、という従来までの固定的なものがどんどん崩れている今、「社会的弱者共同参画」（ゴロが悪いが）とした方が、包括的で今の社会に対応したものになるのではないか。あとは、男女共同参画（一応この名称とする）を推進させるには、条例作りをし、罰則を設けることも

		視野に入れるべきだ。男女が共同で働くことがきちんと行われているか、第三者機関を設け、勧告・指導・処罰の仕組みを整えなければ、いくら討議したところで絵に描いた餅になりかねない。これには相当の予算手当てがいると思われるが、市の上の方はやる気があるのか甚だ疑問に感じている。参画室担当の方々のご苦労は本当に感じております。是非、よい成果を出されることを期待しております。長文、失礼致しました。
女性	30 代	女性向けのリーダー養成講座やセミナー、意識を高める啓発活動を実施し、女性がリーダーや管理職になれたとしても、男性優位の環境は変わらず、女性の意見はなかなか聞いてもらえず、通らない。女性が頑張っても、男性が意見を聞いてくれないのであれば、女性がリーダー・管理職になった(増えた)という結果のみ。男性への意識改革・啓発活動こそ大切であると考える(特に中高年。子どもや若い世代は、学校教育で男女平等というのを当たり前に学んでいる)。
女性	70 歳以上	若い女性の意見を良く聞いて、働く場所と保育所を充実した環境を作る事だと思う。
女性	70 歳以上	男女共同参画ははじめて聞くことばで何となくと思いながら回答をはじめた。確かに男女平等なのだから、仕事は何でもできた方が得だと思う。しかし得手不得手あり、スピードにも差がでてくる。むずかしい課題ではあるが、これからの時代に欠かせないのかもしれないと思う。
男性	10 代	学校等にも、「女性が」とか、「男性が」などはあまり必要がなく、市の頑張りだけではなく、市民が性別関係なく「男女参画社会」について考えさせられるようなPRを行う等の活動を行っていけたら、考えや意見がまとまっていくと思う。
女性	50 代	男女共同参画に関する活動内容をもっと具体的にわかりやすく!!どの年代の人に参加してもらいたいのか、色々な活動やイベントについて知ってもらうHP(SNS)など使っての活動も良いのではないでしょうか。コロナ禍で大変ですが、がんばってください。
女性	60 代	家事・育児・介護は女性が担うものといった従来の意識を改め、男女が共同して担う社会を目指して、お互いを思いやりながら工夫していけたらいいと思います。今後の市の施策に期待しております。
男性	60 代	正直言って、日々の生活に追われ、男女共同参画を推進することは今後の事を考えれば、とても重要な事だと思いますが、その事に自分がどう対処できるのかさえわかりません。さしあたり、身近な所でこの主旨に対応できれば、やっていこうと思います。
女性	40 代	よく分かりませんが、男の人も女の人も自立して生活できる様になると子育てにも余裕ができると思うので、賃金のバランスがとても大切と思います。あとは、高齢者の考え方を変えないと若い人たちが男女共同をやりづらいと思います。
女性	60 代	男女共同参画主催のイベントに参加した事があります。知らない事が多いので参加できたらと思います。熊谷市が活気ある熱さを感じる市になったらと思います。
男性	30 代	市の男女共同参画についての取組を色々調べてみようと思います。

女性	50 代	私は 50 代前半、結婚したら当然仕事を辞めて専業主婦となるという社会風潮の世代です。私も何の疑問もなくそうしました。(現在はパート。主人が年上で退職したため金銭面で今後負担がかかります。こんな予想できませんでした。) 家庭では、もちろんですが、小学校からの男女平等教育が必要だと思う。娘の職場では時短の人がいるようですが、激務のため辞めてしまうママ社員が多いようです。職場での環境も必要だと思います。
女性	60 代	市民意識調査の実施ごくろうさまです。防災対策などの面に活かして下さい。
男性	50 代	男女共同参画や LGBTQ など、他市町村と同じように進めなければならないということがわかり、実際も進めていると思います。しかし、先頭に立って進めていこうという意識が残念ながらあまり感じられません。ぜひ先頭に立って他市町村の見本となるような施策を展開してください。
女性	60 代	これからは「男のくせに」「女のくせに」という言葉を使う事のない社会になる事を望んでいます。女性が意見する、提案すると、いまだに抵抗にあう事が多く、今までの社会通念・概念を覆す事は困難と感じます。その通念を取り払うべく、活動して頂けると有難いです。また女性にも勇気が必要かと思います。
女性	50 代	まずは男の人の考えが変わらなければ、前には進めない様に思います。
男性	40 代	市長を女性にしてみてはどうですか。政策の方針決定できる権限のある立場の人の半分を、女性にしてみてはどうですか。
男性	40 代	細かい事情はわかりませんが、すぐに変われるとも思えませんし、本当に求められていることなのか(早急に)と思います。同時に、女性の意見をもっと多く聞くべきなのでは。必要と思われていれば進みますし、このようなアンケートなど取る必要もないと思います。必要と思っている人が少ないから、進まないということもありえると思いますが。
女性	50 代	女性は女性にしかできない魅力的な点(男性についても)をしっかり活かすべきだと思う。無理に男女共同と唱える必要はあるのか？学校で学ぶべきことはもっと大事なことがあるのではないか。このままでは明るい未来はみえてこないと思う。LGBTQ についても、理解はするが、秘め事にしておくことも大切なのではないか。わざわざ表にアピールしたい気持ちは理解できない。
女性	60 代	今回アンケートが来た事で男女共同参画を意識するようになった。無認識を痛感し、ネット・・・以前の市報や情報紙「ひまわり」を引っぱり出して見ました。意識は深まりました。ただ、働く世代の方には、なかなか「ハートピア」でのイベントへの参加など、(このコロナ禍においても)難しいと思うところです。職場の昼休みや休憩時などに気軽に話題にしていくことも、ハードルを下げる 1 つかと思いました。こうした議論が出し合えるのも平和あってのことですよね。孫たちにも明るい住みやすい世の中であってほしいです。そのためにも今からですね。

女性	50 代	「熊谷市パートナーシップ宣誓制度」開始したのならもっと先の事(結婚など)、誰もが楽しく幸せに暮らせる様に熊谷市が全国で最初にやってほしい。熊谷市に住んで優しく思いやりのある人がたくさんいるので絶対出来ると思います。
女性	30 代	私は子どもを産むまではずっと働いていたいと思っていましたが、我が子はとてもかわいいので仕事に復帰するのをやめてしまいました。働きつづけたいのに会社や保育施役に入れないとかで仕事に復帰できない方も多くいると思います。出産によってキャリアが絶たれないような社会にしていってほしいと思います。家事・育児、我家は手伝ってくれますが共働きでもあまり協力的でない男性もいると思うので、家庭・社会での意識が変わっていってほしいと思います。
女性	50 代	何度か男女共同参画のセミナーに参加した事があります。参加費無料というものでした。この企画が無料という事で参加しやすく充実し、参加した経験が社会生活に潤いをあたえる一担となって良いと思います。
男性	20 代	熊谷市が男女共同参画の実現を目指していく中で、性的マイノリティや女性の方々の社会での生きづらさに耳を傾け、支援・取組・相談体制を整えていくことが重要だと思う。小学校・中学校・高校での出前授業、駅構内や商業施設での女性活躍社会・LGBTQ に関する啓発ポスター、LGBTQ の当事者の方々や育児・介護で出世を諦めた女性の人たちの経験談などを Zoom・学校・文化センターなどで、講談会・座談会を積極的に行っていくべきだと感じる。女性の社会進出や LGBTQ の人たちの背中を押してあげる社会になってほしい。
女性	40 代	男には男の、女には女のふさわしさというものがあると思います。男女を何がなんでも一緒にしていこうとしないで下さい。例えるなら、救急隊員が女性だと不安があります。校長が女性で、何かある度に休まれるのも困ります。トップは男性でいいのです。女は 3 歩下がっていればいいのです。そうしないと誰も子供産まなくなりますよ。最近の女はでしゃばり過ぎです。私は息子を一人産みましたが、男の方が偉いと教えています。女性のリーダーはありえません。
男性	40 代	男女共同参画とは今まで知りえなかった事で、貴重な体験をありがとうございます。誰もが調和できれば、この問題は問題ではなくなるのですが。古き考えが、変わらないでいてほしい人たちの気持ちもありますし、なんとも今一度考えてみるのもいいですね。未婚者に不要な解答もありましたが、結婚後の考え方を今のうちに再調整が必要だと認識できた事の気づきにありがとうございました。
女性	20 代	情報紙の発行や講座・講演会など誰が見る？誰が参加するの？と思っているので、全く不要だと思います。このような費用や時間があるのならば保育所・学童・高齢者施設を充実させるなど具体的な目に見て分かるような『変化』『行動』をしてほしい。
男性	20 代	アンケートに回答して、自身が驚くほど市のこういった施策について無知であることを再認識した。広報紙・情報紙にあまり目を通さない自分を含め、若年層にも周知するよう活動の方針をとってもらいたい(駅・バス停、バス内等で音声を流すなど)。

男性	60 代	男女共同参画推進センターをもっと開放的な誰もが立ち寄れるオープンな場所にし、男女共同参画の啓発拠点としていただきたい。
［　その他　］		
女性	60 代	このようなアンケートは初めて知りました。お役に立てたらよかったと思います。
女性	50 代	知らない事が多くて勉強不足だと思いました。もっと知りたい気持ちがありますが、難しい文章だと理解することをあきらめてしまいます。やさしいセミナーなどあるとうれしいです。
女性	40 代	市が何かやったところで、男は変わらない。
女性	40 代	このアンケートでＤＶやセクハラ、LGBTQ 当事者が自覚するかもしれないので、相談先などが分かるパンフレットや案内を同封してはどうかと思いました。
女性	50 代	アンケートの結果だけでなく、市全体で良い方向に動いてくれると嬉しい。
男性	70 歳以上	会社が変わらないとダメだし、市の職員とかは試験で昇進するのではないですか？抽象的な事では、変わらないと思います。
男性	30 代	SNS など若者が利用する媒体で発信をする。発信力をつけるのはいかがでしょうか。
男性	60 代	頑張って下さい。よりよい社会を創る為に。
男性	70 歳以上	市報での広報活動が、もう少しあって良いのでは、と思います。
女性	30 代	男性だから、女性だからというものがなくなってきているが、古い人が若い人に嫌味を言う事をなくしてほしい。
男性	60 代	未婚者が多いと思う。少子化対策としても、市としての婚活をもっと強化してほしい。
女性	10 代	がん健診のほかに、尿検査・レントゲンを含む健康診断が充実したものになることを希望します。
女性	30 代	知らないことが多いので、今後も積極的な配信をしてほしい。
女性	60 代	職員の能力向上の努力と同時に、特に上層部の方々の職員の意識を高めてもらいたい。
男性	70 歳以上	日常生活で役立っていくようにガイドなど発行してもいいのかもと思います。
女性	50 代	離婚時の夫の養育費・教育費の分担をしっかりさせるべき。
女性	60 代	忙しかったり経済的に苦しいと、気持ちに余裕がなくなってしまうけれど、みんながやさしい気持ちでいられたらと思います。
女性	20 代	男女共同参画について考えるきっかけになった。
女性	70 歳以上	今は私の働いていた頃と環境も考え方もずいぶん変わっています。ですから回答が難しかったです。
女性	50 代	アピール不足。もっと発信してほしい。そもそも、男女共同参画社会と言っている事が遅れていると思う。
男性	50 代	がんばって進めてほしいと思います。手伝える事があれば、応援したいです。
女性	60 代	この様な調査を通して、男女共同参画に対する意識を少し持てたと思う。これからはもう少し感心を持つよう心掛けたい。

男性	60 代	このようなアンケートこそ IT 化すべき。集計結果からどのようなことを考察するのか、公表が楽しみです。
男性	30 代	女性に偏ったアンケートであると感じた。
女性	30 代	男女共同参画は少し興味あるがよくわからないところ(行っている施策等)が多いので、内容が簡単にわかるものが手軽にあるといいです。
女性	40 代	この調査に参加することで、内容についてもう少し自分なりに調べてみようと思えました。
女性	40 代	女性が参画したいときに障害なくできる社会が理想です。
男性	40 代	調査・集計お疲れ様です。男女を考えるきっかけとなる良い調査と思います。今回女性の活躍をテーマとして男と女の考え方のギャップの調査でしたが、すべての人(外国人・高齢者も含めて)が活躍できるような社会にするためのギャップの調査もおもしろいかもしれないと思いました。
女性	60 代	ほとんど知られていないと思うので、事務的な事だけでなく、何か行動でアピールして知らせていけば良いと思う。
女性	20 代	今回のアンケートのように、セミナーありますが来ませんか？などと招待していただけると、セミナー情報を知れると共に、意識啓発になると思います。さらに、セミナー中のみ子供を預ける場所があると、子育て中でも参加しやすいです。
女性	40 代	熊谷市の職員の男女比は 7 対 3 と男性が 7 割を占めているのはなぜでしょう？かなり差がありますね。市の男性職員の育休取得率は何%ですか？まず市が手本を見せるべきでは？
男性	60 代	このアンケートにより、熊谷市で男女共同参画の取組をしている事を知りました。市役所等へ足を運べばもっと情報が得られるのでしょうが、もう少し市民が感心を持てるような情報発信が望ましい。
男性	20 代	医療・保育・介護をより良いものにするために金銭的な支援を充実させてほしい。
女性	60 代	市内と市外の差をなくし、市内にもっと子どもたちの通学路の整備などをしてほしい。
男性	40 代	夫婦の場合と、一人一人の場合とで、施策が変わらないといけないと考えます。夫婦の場合は、会社員の加入する健康保健組合が、配偶者の扶養認定の条件を、認定を増やす方向に拡大するか、もしくは扶養制度を取りやめるか、どちらかへ極端に向かわなければ、扶養内で働くことをおさえる夫ないし妻は減りません。
男性	70 歳以上	何事も一生懸命やれば良いと思います。そして、熊谷市で生まれて良かったと思うような市にすれば良いと思う。行政の人たちがんばってください。